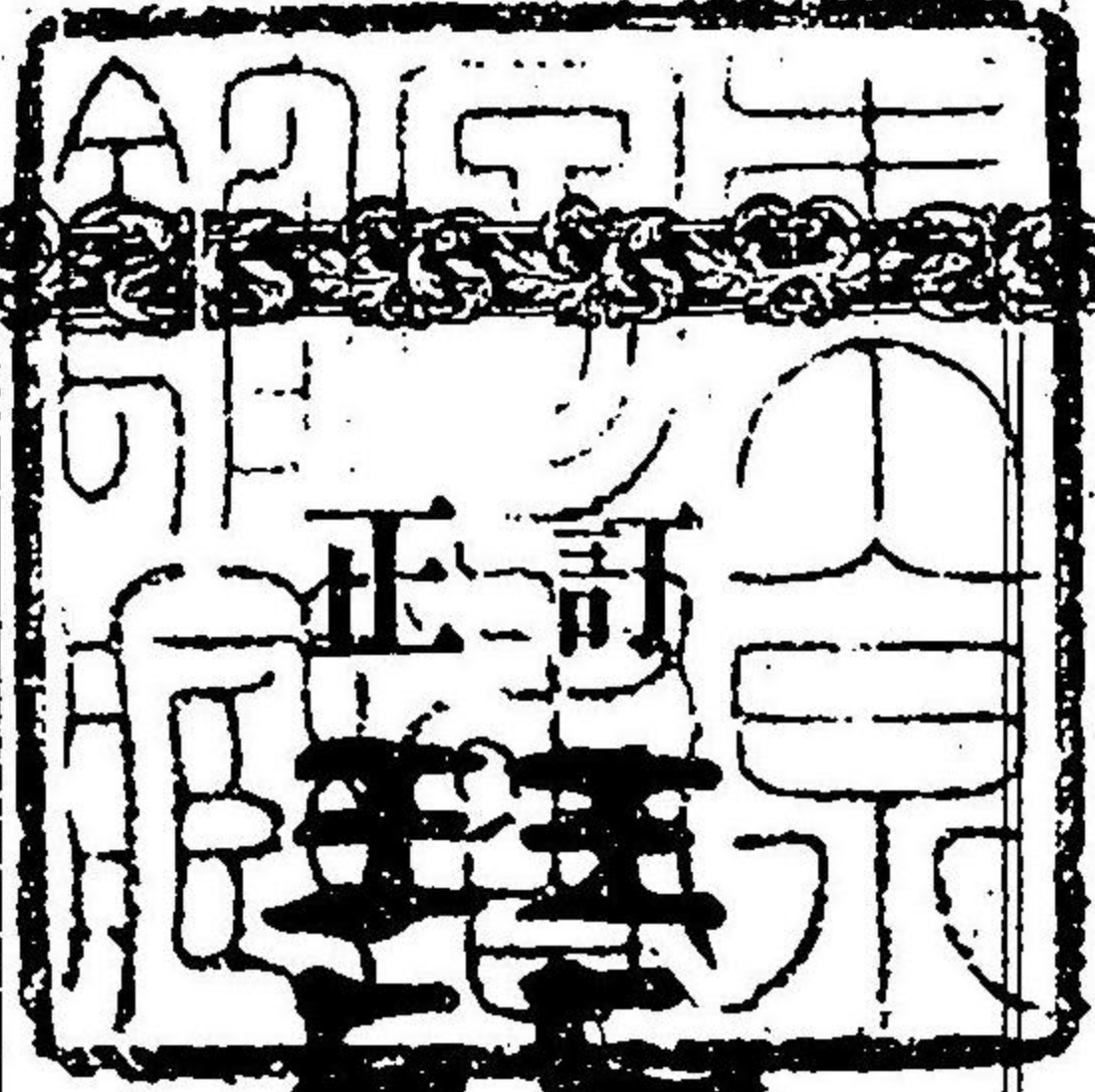


明治廿九年七月刊行

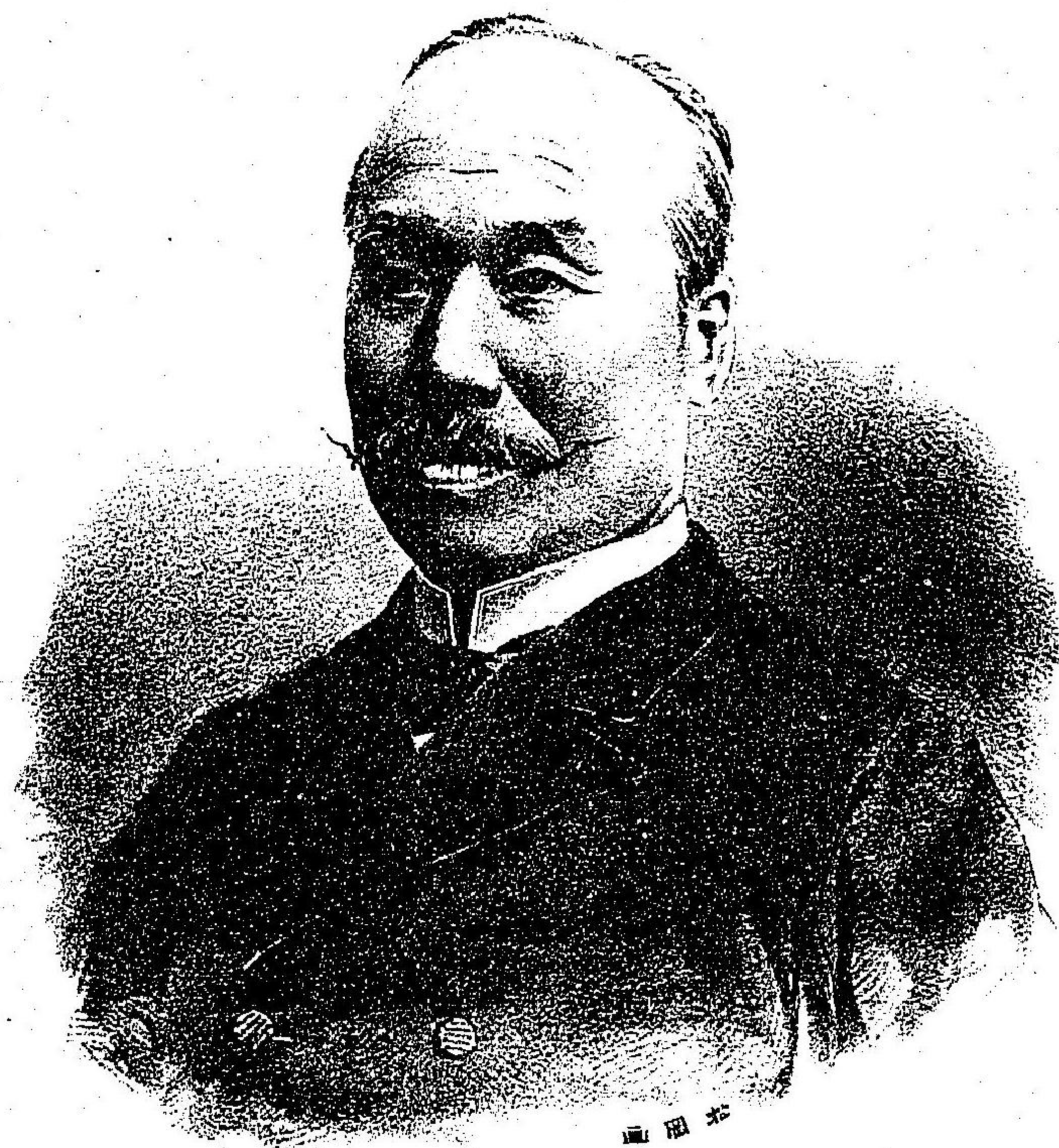


琴湖疏水要誌  
全

京都市參事會







等三勲位四從事知府都京  
像肖君道國垣北



夫レ一世ニ卓絶シ後代ニ不朽スルニ足ルヘキ事業ヲ創成セント欲  
セハ其ノ辛楚艱難タル拔山扛鼎モ雷ナラサルハ衆人ノ能ク知得ス  
ル所ナリト雖モ多クハ局外ノ皮相膚見ニシテ其事ニ當リ其地ニ處  
ズル者ニ非サレハ真正ニ知得シカタシ苟モ真正ノ知得者ニ非サレ  
ハ此等ノ實況ハ與ニ語ルニ足ラサルナリ  
凡ソ事物ノ状態ヲ詳カニシ時勢ノ情況ヲ悉サント欲セハ先ツ時勢  
推遷ノ階段ニ因テ觀察ヲ下サレハ其肯綮ヲ得ヘカラサルナリ時  
勢ノ推遷トハ何ソヤ則チ政治ノ方針人心ノ傾向等沿革同異スル所  
以是レナリ而シテ其ノ階段ナル者ヲ細分スレハ其數限リナシト雖  
モ之ヲ大別スレハ大約三階級ニ過キスシテ未開ノ世ヲ第一階、半開  
ヲ第二階、開明ヲ第三階トス試ニ看ヨ第一階ノ世ニ方テハ英雄豪傑  
互ニ崛起對峙シ人々東驅西馳只奔命ノ急ニシテ曾テ他志ヲ生スル



ノ暇ナシ是ヲ以テ英雄ノ頓指スル所萬里ノ長城モ日ナラスシテ成  
リ千尋ノ湯池モ瞬間ニ就ル是レ嬴氏ノ千萬夫ヲ役スルノ容易ニシ  
テ豊公ノ大土木ヲ起スノ艱難ナラサル所以ナリ既ニシテ此ノ第一  
階ヲ經テ第二階ノ世ニ進ムヤ人智稍ヤ開ケ世運方ニ旺盛ナラシト  
スルモ人心ノ傾向未タ一定セス政治ノ方針未タ確立セス朝ニ起ス  
ノ事業ハ夕ニ僵レ昨ノ是ハ今ノ非トナル是ヲ以テ社會必要ノ事業  
モ或ハ阻格シ先賢苦心ノ事跡モ或ハ湮滅スルノ例鮮ナシトセス是  
レ有志者ノ常ニ心ヲ痛メ思テ苦ム所以ナリ既ニシテ此ノ第二階ヲ  
過テ第三階ノ世ニ移ルヤ人心ノ傾向既ニ一定シ政治ノ方針既ニ確  
立スルヲ以テ設令政海ニ大波瀾ヲ起スモ社會ノ事業ハ之カ爲メニ  
搖動セス起ルヘキ事業ハ益起リ進ムヘキ事業ハ彌進ミ毫モ挫折退  
歩スル憂ハ之ナキナリ今ヤ疏水事業ハ此ノ三階級中何レノ階級時  
代ニ於テ其運動ヲ始メタルヤ既ニ其第一階世ニ非ス又其第三階世

ニモ非スシテ乃チ其ノ二階世タルヘキ確信シテ疑ハサル所ナリ果  
シテ然ラハ北垣明府カ此ノ本邦未嘗有ノ大事業ヲ成就セシメンコ  
チ肚裏ニ蘊蓄セラレシ以來焦心苦慮下ハ衆庶ノ贊成ヲ得上ハ廟堂  
ノ特許ヲ得テ遂ニ起工ノ大事ヲ舉行スルニ至リシハ其ノ艱難辛苦  
タル實ニ尋常意料ノ及フヘキ所ニハアラサルナリ  
嘗テ聞ク琵琶湖疏通事業ヲ企テシモノハ其ノ始メテ平相國トナス  
ト想フニ此平相國ハ彼ノ三階中何レノ階級時代ノ人ナルヤ第二第  
三兩階ノ人ナラスシテ即チ第一階世ノ人タルハ衆人ノ確信シテ疑  
ヲ容レサル所ナリ獨リ其ノ第一ノ世ニ乘シタルフミナラス其身ハ  
兵馬ノ大柄ヲ掌握シ生殺與奪ノ全權ヲ總攬シ加之彼ノ攝ノ福原ヲ  
埋立テ新地ノ市街ヲ創始シ彼ノ藝ノ音戸ヲ開鑿シテ舟船ヲ航通セ  
シ如キ其ノ經歷ノ較著ナル其ノ工業ノ偉大ナル其英畧想見スヘキ  
ナリ獨リ其ノ事業ノ成就セサルモノハ單ニ精神ノ貫徹セサルト忍



耐力ノ至ラサルト及長計遠謀ノ完美ナラサルトニ由ルノミ  
某一日公務ノ間某氏來リテ疏水工事成功ノ日ヲ問フ某職ヲ本事業  
ニ奉スルヨリ僅々三月ニ過キス是ヲ以テ實地事業ノ歩ヲ進ムル  
果シテ何レノ点ニ在ルヤヲ悉知セスト雖モ卒然答テ曰ク今ヤ工事  
半成ス豈ニ成功ノ日ヲ質スノ勞ヲ用ヒンヤト問フ者憮然トシテ曰  
予ノ見ル所ヲ以テスレハ東ハ大津湖岸ノ開疏三百間及藤尾堀鑿斲  
砌ニ過キス然ルニ工事半成ストイハルハ何ソヤ某答フルニ第二  
階世ノ狀ヲ以テス某氏唯々シテ去ル  
嗚呼是レ何ソ怪ムニ足ランヤ世ノ偉業ヲ創メ鴻圖ヲ起スモノ、心  
緒豈局促的ノ庸人等ノ能ク揣測シ能ク忖度シ得ル所ナランヤ抑モ  
世上ノ大利ヲ謀リ社會ノ鴻益ヲ興スモノハ必ス遠大ノ計慮堅確ノ  
志操アリ某今ヤ竊カニ琵琶湖疏水工事大成ノ淵源ハ遠ク且深キヲ  
覺知シ感歎仰慕ニ勝ヘサルモノアリ因テ聊カ所感ヲ記シ以テ同志

ニ告ク

明治二十三年

編纂主任若松雅太郎識



隧洞題名記

明治十有六年、本府設勸業諮問會及上下京聯合區會議、議疏通近江國琵琶湖於京都、以興水利、衆可決之、乃稟請批准、時物議百出、經年未准、三條太政大臣、伊藤宮內卿、井上外務卿、山縣內務卿、松方大藏卿、西鄉農商務卿、皆以爲可、十有八年歲在戊申一月、遂奏可、爰八月六日起工、二十有三年四月告竣、作長渠、鑿三大隧洞、蜿蜒西達鴨河、長二里二十九丁四十有七間有餘、此爲本流、日岡分流、又鑿三隧洞、迤北通小川、長二里零五丁二間強、此爲支流、本支合長五里矣、於是請諸公書、揭之三大隧洞、東面湖水者、曰氣象萬千、伊藤卿篆書、其出藤尾者、曰廓其有容、山縣卿篆、在山科者、東曰仁以山悅、智爲水歡、井上卿隸、其西曰隨山到水源、西鄉卿篆、與之相對、通于日岡者、曰過雨看松色、松方卿所篆、而其西臨京都市者、曰美哉山河、三條大臣之所篆也、嗚呼、非此六公、何得爲我京都慮之深、而以成府民之志、如此哉、



因集錄其題名以傳不朽云、

明治二十三年四月

京都府知事從四位勳三等北垣國道撰

隧洞題字記未刻碑適疏水要誌第三卷成因錄以爲弁言云

明治二十六年三月

編纂主任若松雅太郎記

訂正琵琶湖疏水要誌

目次

一發端

本章ハ明治十四年二月北垣府知事京都へ赴任ノ後琵琶湖疏水事業ヲ發起シタル顛末及經畫ノ整理ニ至ル迄其ノ事跡ヲ記述スルモノトス

一勸業諮問會

本章ハ疏水事業ノ經畫既ニ整理セシテ上下兩京區内ノ商工實業者及父老五十餘名ヲ招集シ起功ノ可否ヲ諮問セシ事跡ヲ記述スルモノトス

一上下兩京聯合區會

本章ハ勸業諮問會ニ於テ既ニ起功冀望ノ答議ヲ得タルヲ以テ事業ノ着手及工費ノ負擔ヲ上下兩京聯合區會ニ附議セシ事跡ヲ記述スルモノトス

一起功特許

本章ハ疏水起功ノ請願ヨリ工費増額會議大阪滋賀水防工費及政府ノ特許ヲ得テ起功ノ旨ヲ管内ニ公布セシ始末ヲ記述スルモノトス

一疏水事務所 附各工場

本章ハ明治十八年三月六日府廳内ニ疏水事務所ヲ置キ同年十月三十日之ヲ滋賀縣下藤尾村ニ移シ廿三年六月之ヲ廢セシ迄其ノ沿革及職制章程事務取扱心



得等ヲ記載スルモノトス

一起功式

本章ハ十八年六月二日三日ノ兩日間京都及大津ニ於テ起功ノ式ヲ舉行セシ始末ヲ記載スルモノトス

一議會

本章ハ上下京聯合區會及市會ニ於テ十七年度ヨリ廿三年度ニ至ル工費ノ收支ヲ議定セシ顛末ヲ記載スルモノトス

一産業基金

本章ハ恩賜金ノ沿革及利殖ノ顛末ヲ記載スルモノトス

一工費精算

本章ハ明治十八年以降全廿三年ニ至ルマテ各年度支出セシ工費ノ細目ヲ記載スルモノトス

一土地

本章ハ起功以來各官衙へ照會照復セシ事件中殊ニ其ノ効力ヲ永遠ニ存スルモノヲ記載スルモノトス

一水力配置方法

本章ハ水力配置方法ヲ調査セシ顛末ヲ記載スルモノトス

一竣功式

附夜會 祭典 追饗

本章ハ廿三年四月八日竣功式ヲ舉行セシ顛末ヲ記載スルモノトス

一附記

事務所員 議員 常務員 土木常設委員

本章ハ疏水工事ニ從事セシ諸員ノ人名ヲ記載スルモノトス

一附帶事項

本章ハ本工事ニ附帶セシ大阪府水防工事一件ヲ記載スルモノトス

一年表

本表ハ明治十四年二月以降全廿三年六月ニ至ル事跡ノ沿革ヲ掲グルモノトス

一工事摘要

本章ハ工事ノ大要ヲ摘載シ以テ看讀ノ便ニ供スルモノトス

一幹線之部

測量築地、閘門運河、隧道、傾斜鐵道、橋梁、船溜、附帶工事

一枝線之部

隧道、水路閣、開展水路

一用地

本章ハ幹枝線工事に用ノ爲メ買収及借入セシモノヲ記載スルモノトス

一木材工場



- 一 本章ハ隧道支保工及石垣基礎ニ使用セシ木材調製ノ終始ヲ記載スルモノトス
- 一 煉瓦工場
  - 本章ハ六隧道其他工事ニ使用セシ煉瓦製造ノ終始ヲ記載スルモノトス
- 一 石材工場
  - 本章ハ石垣及諸工事ニ使用セシ石材採掘ノ終始ヲ記載スルモノトス
- 一 水量看測
  - 本章ハ琵琶湖勢田川淀川及堀川水面ノ増減ヲ量定セシモノヲ記載スルモノトス
- 一 飲料水補給工事
  - 本章ハ専ラ大津市街西部ニ關係セシモノヲ記載スルモノトス
- 一 水力工場
  - 本章ハ水力ヲ管理スル爲メ設置セシモノニシテ今疏水工事ノ結果ノ一部分ヲ示スモノトス

### 琵琶湖疏水要誌附錄

#### 目次

- 一 摘要
  - 本編ハ最初ヨリ終局ニ至ル來歴甚々錯雜セルヲ以テ特ニ本章ヲ設ケ其大要ヲ摘載シ以テ看讀ノ便ニ供ス
- 一 市會
  - 本章ハ市會ニ於テ明治二十二年度ヨリ同二十七年度ニ至ル工費ヲ議定セシ顛末ヲ記述スルモノトス
- 一 起工特許
  - 本章ハ工事起工ノ請願ヨリ政府ノ特許ヲ得タル始末ヲ記述スルモノトス
- 一 水路事務所
  - 本章ハ明治二十三年一月十八日府廳内ニ新運河事務分擔ヲ定メ同二十五年八月十九日紀伊郡深州村大字福稻ニ水路事務所ヲ設ケ同二十七年十月三十日之ヲ廢セシ迄其沿革及施行順序並ニ内規等ヲ記載スルモノトス
- 一 土地
  - 本章ハ起工以來各官衙へ照會往復セシ事件中殊ニ其効力ヲ永遠ニ存スルモノヲ記載スルモノトス



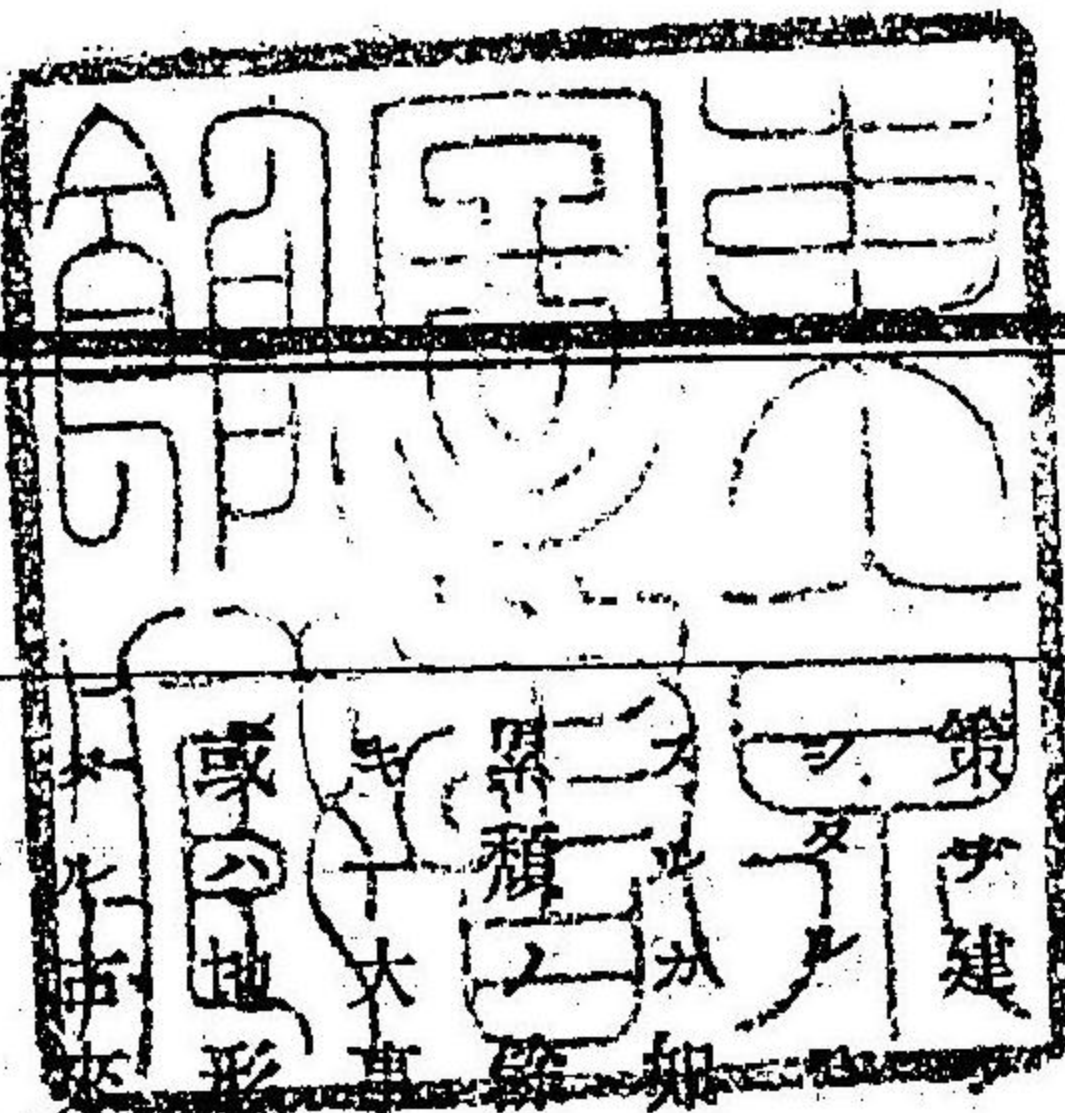
- 一 工費精算
  - 本章ハ明治二十三年一月以來同二十八年三月ニ至ル迄各年度支出セシ工費ノ細目ヲ記載スルモノトス
- 一 工事
  - 本章ハ測量用地開門運河傾斜鐵道橋梁船溜放水場水越場暗溝等各工事ノ詳細ヲ記載スルモノトス
- 一 疏水工費通計
  - 本章ハ疏水工費支出ノ金額ヲ記載スルモノトス
- 一 疏通式 附宴會
  - 本章ハ明治二十七年九月二十五日疏通式ヲ舉行セシ願末ヲ記載スルモノトス
- 一 附記
  - 本章ハ事務所員議員臨時土木委員等本工事ニ從事セシ諸員ノ人名ヲ記載スルモノトス
- 一 雜記

### 琵琶湖疏水要誌

京都府屬若松雅太郎編集

發端

明治十四年



明治十四年二月北垣府知事ノ初メテ京都ニ赴任シタルヤ都下ノ狀況日チ逐テ衰頽ニ赴キ隨テ千有餘年ノ舊都モ其盛觀ヲ損傷スルヲ慨嘆シ之ヲ挽回興復スルノ策ヲ建テ欲スレトモ奈何セン地形便ナラス昔時ハ山河襟帶自然ノ城ヲ以テ稱貿易頻繁勝敗ヲ市場ニ制スル今日ニ當テ依然舊習ヲ墨守シ故例ヲ保持スルガ如キハ其衰頽萎微亦當ニ甚シカルヘシ然ハ則之ヲ改更セントスル乎積衰頽廢ノ尋常ノ事業モテ之ヲ回興スルニ足ラサレハ斷然之ヲ回興スルニ足ルヘシ

事業ヲ興サ、ルヲ得ス然リト雖假令一大事業ヲ起スモ或ハ人情ニ悖リ或ハ地形ニ反シ其收利得益ハ却テ其消費廢財ト相償ハス然ルニ都下ノ事業工作製造ヲ以テ専ラ生計ノ本料トナセハ其ノ人情慣習ニ基キ猶之ヲ擴充シテ工業ノ規模ヲ宏大ニセハ初メテ衰運挽回民業隆昌ノ基本立ツヘキモ徒ラニ手足ノ勞ヲ以テ之ヲ經營スルカ如キハ到底工業ノ盛大ヲ望ム可カラサレハ必ス水火力ノ中其一ヲ藉ラサルヲ得ス今火力ヲ藉ラントスル乎必ス石炭ヲ使用セサルヘカラス然ルニ石炭ノ如キハ舟楫ノ便アルモ收支尙相償ハサルノ困難アリ況ヤ京都ノ如キ海濱ヲ距ル十數里其收支ノ相償ハサル固ヨリ龜トヲ待タサルナ



リ是ヲ以テ此困難ヲ免レントスレハ水力ヲ藉ルノ外他ニ其方法アルコトナシ然ラ  
ハ水力ヲ使用セントスル乎鴨川白川ノ如キハ四時涓々徒涉猶チ裳ヲ濕サ、ル現  
狀ナリ桂川ノ如キハ水量稍多キモ地形不便ニシテ工場ヲ設置スルニ適セス故ニ  
此ノ目的ヲ達セントスレハ他ヨリ水力ヲ延テ此ノ地ニ達セサルヲ得ス幸近接ノ  
地ニ皇國第一ノ大湖ノ在ルアリ今之ヲ開鑿シテ其水ヲ疏通セハ不斷一定ノ水量  
ヲ得ルコト確然ナリ古ヨリ之ヲ疏通セント企シモノアリト雖正一モ其目的ヲ達セ  
シモノナカリシハ即チ京都今日ノ衰運ヲ回興スル爲メ豫備シタル造化ノ餘澤ト  
言モ不可ナキカ如シ依テ今之ヲ疏通シ不斷一定ノ水量ヲ得テ工場ヲ設置シ器械  
ヲ使用シ以テ此地ヲシテ物品製作ノ本場ヲラシメハ初メテ衰運挽回民業隆昌ノ  
基礎確立スヘシトナス

同年四月地理掛ニ命シテ京都三條橋ト琵琶湖々面トノ高低ヲ測量シ且疏水線路  
ヲ定ムル爲メ三條ヨリ大津ニ達スル道路白河村ヨリ白河越本道ヲ經テ滋賀縣下  
滋賀里村ニ達スル道路同白河村ヨリ白河越新道ヲ經テ滋賀縣下錦織村ニ達スル  
道路及南禪寺村ヨリ滋賀縣下古關越ヲ經テ大津ニ達スル道路ヲ普ク跋涉測量シ  
テ適當ノ線路ヲ求メシム

同年五月府知事ハ公務ヲ以テ東上シ此議ヲ以テ伊藤參議松方内務卿ニ開陳セシ  
ニ共ニ其贊成ヲ得テ松方内務卿告テ曰ク猪苗代疏水第一着手工事既ニ成ルチ

以テ之カ落成式ヲ舉行セントス幸ニ彼ノ地ニ赴キ工事ノ實況ヲ目撃セハ大ニ腹  
案參考ノカト爲ルヘシ云々府知事ハ乃チ同七月ヲ以テ猪苗代ニ至リ工事ノ實況  
ヲ視察シ其管理官奈良原農商務大書記官及ヒ主任官農商務省一等屬南一郎平ニ  
該工事ノ沿革及方法順序等ヲ質シ始メテ琵琶湖疏水事業ノ必ス成ルヘキヲ確信  
セリ猪苗代疏水ハ僻陬山間不便ノ地ニシテ延長十一里ニ亘ルモ既ニ三十余ノ隧  
道盡リ成テ告ケ第一難工事トスル處落成通水ノ式ヲ舉行シ内務大臣之レニ臨ミ  
府知事モ亦之レニ陪シテ其實況ヲ洞察シ此レニ比スレハ大津京都ノ間ハ人家路  
ホ連接シ距離僅ニ三里ニシテ百事至便ノ地ナルヲ以テ其必ス成リ難キ事ニ非サ  
ルヲ確信シタルナリ

同年八月湖面水量ノ増減ヲ觀測スル爲メ滋賀縣下三保崎ニ量水標ヲ建設ス是ヨ  
リ先キ熊本縣六等屬嶋田道生ニ委囑シテ疏水線路ヲ調査セシメ且ツ同屬ノ建言  
ヲ用ヒ此ノ量水標ヲ設ク

同年十月測量圖成ル此圖タルヤ一ハ京津間ノ距離ヲ示ス爲メ六千分一ノ三角圖  
ニシテ一ハ平面ヲ示ス爲メ三千分一ノ平面圖ナリ而シテ此測量ヲナスニ當テ假  
ニ滋賀縣下ニ在テハ北方ハ坂本村南方ハ大津市街ヲ以テ基点トナシ京都府下ニ  
在テハ北方ハ一乘寺村白川村南方ハ三條橋ヲ以テ基点トナシ此ノ線内ニ係ル高  
岳深谷ヲ實測シテ初メテ此成績ヲ奏ス



明治十五年

同年十一月府知事ハ測量圖ヲ以テ上京シ初メテ農商務省ニ稟議シ且同省一等屬南一郎平ヲシテ實地檢按セシメントテ請求ス  
十五年二月農商務省一等屬南一郎平來京シ滋賀縣下三井寺山近傍ヲ踏査シテ水路ノ位地ヲ撰定シ且ツ意見書及ヒ水利目論見表ヲ製ス意見書及水利目論見表ハ疏水全誌ニ載ス府知事ハ乃チ同屬ノ撰定セシ水路按檢ノ爲メ滋賀縣下尾花川藤尾村及府下四宮村安朱村御陵村南禪寺村ヲ巡視ス

同年四月高知縣六等屬嶋田道生ヲシテ疏水線路ヲ測量セシメ測量ノ技術ハ總テ其指示ヲ受ケシム同屬ハ明治八九年ノ比内務省地理局ヨリ京都市街ヲ測量セシキ三條街道分水町及聖護院村ニ建設シアル兩測点ヲ以テ測量線ノ基点トナシ三角法ヲ以テ漸次大津ニ及ホサントシ初メテ實測ニ着手ス尋テ同屬ヲ本府六等屬ニ兼任セシメ水路開鑿測量事務ヲ擔當セシム後チ本府屬ニ專任ス

同年六月滋賀縣下高嶋郡田中村安原權兵衛疏水ノ舉アルヲ聞キ玄米二百俵ヲ獻納シテ工費ノ幾分ニ供セントテ請願セシモ未ダ工事ニ着手セサルヲ以テ之ヲ受理セス  
同年九月福嶋縣下安積疏水開通式アルヲ以テ七等屬林成清ヲシテ其ノ實況ヲ視察セシム  
十六年二月五等屬嶋田道生ハ初メ内務省地理局ニ於テ京都市街ヲ測量スル爲メ

明治十六年

設置セシ三條街道及ヒ聖護院トノ基線三千七百六十二尺九寸一分零八分ヲ以テ第一基線トナシ三角法ヲ以テ漸次測量シテ大津ニ及ホシ更ニ大津分營練兵場内ニ於テ第二基線ヲ設ケ以テ積算セシニ一千三百七十一寸七分六厘ニ對シ一千三百十六尺九分一厘八毛ヲ得乃チ其ノ差短キト二寸六分八厘ナリ抑モ測量ノトタル技術ノ異ナルト使用器械ノ同カラサルト及氣候ノ寒暖空氣ノ濃淡等ニ由テ些少ノ差異ヲ免レサルハ測量ノ常ナリ今僅々二寸六分餘ノ差ヲ生セシ如キハ實ニ測量ノ好結果ヲ得タルモノト謂フヘシ是ニ於テ運河堀鑿隧道開通ノ位置既ニ定リ隨テ測量圖モ亦成ル

同年三月府知事ハ疏水線路ノ既ニ定リシヲ以テ製圖ヲ携ヘ東上シ之ヲ農商務省ニ稟議シ翌四月同省ト協議セシ琵琶湖疏水設計書成ル本書ハ全誌ニ載ス  
同年五月五等屬嶋田道生ヲ福嶋縣下猪苗代及宮城縣下野蒜港ニ差ハシ工事ノ實況ヲ調査セシム

同月工學士田邊朔郎ヲ本府准判任御用掛トナシ專ラ疏水工事ヲ擔當セシム  
同年八月准判任御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲシテ滋賀縣ニ遣シ疏水線路ニ接続スル山岳ノ高低ヲ調査セシム  
同年九月府知事ハ御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲ隨ヘ滋賀縣柳ヶ瀬ニ赴キ隧道工事ヲ視察ス

疏水要誌 ○發端



勸業諮問會

同年十月下京區第七組大黒町古川爲三郎第廿四組東餅屋町山崎久兵衛第十六組上五條町井上藤兵衛第廿五組上珠數屋町檜村彦右衛門第十七組小泉町鹽山恒次郎第廿四組東餅屋町木村與三郎ハ疏水起工ノ爲メ勸業諮問會ヲ開設アルヘキヲ開キ上下京聯合區會ニモ諮問アラシメテ建議シ又上京區會議員莊林維英富田半兵衛畑道名河野通經河村信正川端庄七福住源太郎川邊祐次郎上田安兵衛等ハ疏水起工ノ爲メ勸業諮問會ヲ開設アルヘキヲ開キ工費ハ官ノ補助ヲ仰クノ外上下京協議費ヲ以テ負擔シ純然ナル上下京區共有物トナシ其ノ方法順序等ハ上下京聯合區會ニ附議セシメ其議定ヲ以テ施行セラレンコトヲ建議ス全文ハ全誌ニ載ス

同年十一月府知事ハ籠手田滋賀縣令ト協議シ各疏水取調委員ヲ置ク是ニ於テ滋賀縣令ハ同縣一等屬齋藤眞男全七里定嘉全高谷光雄ヲ取調委員トナシ府知事ハ一等屬森本後洞四等屬片山正中ヲ取調委員トス

勸業諮問會

同年九月疏水事業ノ可否ヲ都下ノ父老及商工實業者ニ諮問セン爲メ一等屬森本後洞四等屬片山正中ニ命シテ勸業諮問案取調委員トナシ一等屬野村彦四郎全大坪格全尾崎班象二等屬清永公敬三等屬板原直吉准判任御用係廣瀬知之四等屬坂本則美全野村永保全多田郁夫全田所重禮准判任御用掛田邊朔郎五等屬嶋田道生全東五一七等屬林成清全丹羽圭介及上京區書記關東下京區書記岡田爲七ニ命シ

ヲ全取調委員トナス又特ニ上京區長杉浦利貞下京區長竹村藤兵衛ニ命シテ全取調ニ從事セシム

同月五日諮問案成ルヲ以テ上下京兩區ノ名望アル者ヲ召集シテ中學校講堂ニ於テ勸業諮問會ヲ開ク

勸業諮問會員

- |      |             |         |
|------|-------------|---------|
| 一 番  | 上京區廿一組下丸屋町  | 山本覺馬    |
| 二 番  | 下京區廿八組橋東二丁目 | 中村榮助    |
| 三 番  | 上京區七組西五辻東町  | 田中善右衛門  |
| 四 番  | 全區十七組甲斐守町   | 西村七三郎   |
| 五 番  | 全區卅三組新東洞院町  | 竹鼻仙右衛門  |
| 六 番  | 全區廿一組春帶町    | 濱岡光哲    |
| 七 番  | 全區十八組分銅町    | 鈴鹿辨三郎   |
| 八 番  | 全區廿七組二條油小路町 | 三井八郎右衛門 |
| 九 番  | 下京區廿八組橋東二丁目 | 中野忠八    |
| 十 番  | 上京區九組西無者小路町 | 富井政恒    |
| 十一 番 | 下京區六組米屋町    | 能川登     |
| 十二 番 | 全區十三組立賣東町   | 大喜多隆景   |



十三番	上京區廿九組丸木材木町	市田文次郎
十四番	下京區四組御射山町	中村半兵衛
十五番	全區十八組玉津島町	長瀬彦三郎
十六番	上京區十六組役人町	岸田九兵衛
十七番	全區廿六組姉西町	矢野長兵衛
十八番	下京區十二組萬里小路町	三澤友七郎
十九番	全區十三組鍋屋町	山本清太郎
二十番	全區十八組玉津島町	磯野小右衛門
廿一番	上京區十八組丸屋町	山中平兵衛
廿二番	全區一組北仲之町	波多野庄兵衛
廿三番	全區三十組下白山町	船橋清左衛門
廿四番	全區全組給屋町	林治作
廿五番	全區九組仲之町	野原新造
廿六番	下京區廿四組諏訪町	辻忠四郎
廿七番	上京區廿二組頭町	中川安修
廿八番	下京區十七組下味金佛町	安村吉兵衛
廿九番	上京區八組元妙蓮寺町	富久田太郎兵衛

三十番	下京區八組堀池町	吉村逸明
卅一番	上京區卅組橋町	内貴甚三郎
卅二番	全區廿四組少將井御旅町	池田八郎兵衛
卅三番	下京區十九組本覺寺前町	長尾理兵衛
卅四番	全區十四組糺波町	清水吉右衛門
卅五番	全區十二組立賣仲之町	市原平兵衛
卅六番	全區四組菱屋町	川嶋甚兵衛
卅七番	全區三組御倉町	千田忠八郎
卅八番	全區十一組函谷餘町	一井政七
卅九番	上京區廿一組春日町	下村庄太郎
四十番	全區三十二組東丸太町	野村揆一郎
四十一番	全區四組梅忠町	遠藤彌三郎
四十二番	下京區十八組徳万町	高木文平
四十三番	上京區五組安樂小路町	岩佐孫兵衛
四十四番	下京區十三組京極町	河瀬勘兵衛
四十五番	上京區廿三組火文字町	山鹿九郎兵衛
四十六番	全區十六組下石橋南半町	千田寶守

疏水要誌 ○勸業詰問會



四十七番 全 區廿八組 圓福寺町 野橋 作兵衛  
 四十八番 全 區八組 梅宮町 小西 好頼  
 四十九番 全 區十一組 野山町 川勝 利平  
 五十番 全 區五組 大文字町 譽田 與助  
 答辯委員 四等 屬 片山 正中  
 全 五等 屬 嶋田 道生  
 全 七等 屬 丹羽 圭介  
 全 御用掛 田邊 朔郎  
 全 上京區書記 關田 爲七  
 全 下京區書記 岡田 爲七  
 全 書記 金崎 壽  
 全 細岡 靈深  
 諮問案 滋賀縣下近江國琵琶湖々水ヲ疏通シ全國大津三井寺ノ下ヨリ當府下宇治郡山科地方ヲ經テ愛宕郡南禪寺村ヨリ某々村ヲ北ヘ高野川ヲ西ヘ下鴨ヨリ加茂川ニ沿ヒ通船ノ便ヲ東高瀬川ニ聯絡シテ大阪海港ノ水運ヲ琵琶湖ニ達セシメ其分水力ヲ以テ堀川ニ船路ヲ通シ市街用水ノ缺乏ヲ補ヒ又器械運轉ノ用ニ充テ及田畑灌漑等ノ爲メ此一大土功ヲ創起シ之レカ經費ノ負擔ハ上下京區聯合ノ力

二任セシトス其起工主意ノ如キハ別紙第一號其開鑿線路工事方法ノ如キハ別紙及圖面第二號ヨリ第九號其ノ經費ノ如キハ別紙第十號ニ詳ニセリ其可否如何トス  
 起工趣意書 京都ノ地タル固ヨリ四通五達ノ便アルニアラス其繁盛ヲ極メシハ延曆ノ朝 寶鼎ヲ奠キ帝都ヲ此地ニ定メラレ官省ハ勿論神社佛寺ヲ創建シ諸職工業ノ司部ヲ置キ工人ヲ董督セシメラレタルニヨレリ然シテ後文物大ニ開ケ製品日チ逐テ精巧ニ起キ内國人民一般帝都ヲ景慕シ製作物品ニ至テモ皆其開雅ナルヲ贊稱シ來テ模範ヲ取ルモノ購求スルモノ陸續相接シ自ラ土地ノ繁盛ヲ基井シ度屋連斐五畿七道ノ首府タルノ實ヲ表スルニ至レリ保元平治以後政權武門ニ移リ輒モスレハ干戈ヲ葦殺ノ下ニ動カシ人民其堵ニ安ンセス爾來小盛衰アリト雖比其繁華ヲ語レハ京都ヲ除クノ外他ニ大都會アルヲ開カス應仁年間ニ及ヒ數百余年ノ帝都悉ク兵燹ニ罹リ人民所々ニ逃遁シテ何ソ其ノ盛衰ヲ問フニ遠アラシ乎元龜天正ノ間織田氏一タヒ起リテ御所ヲ修繕シ市街人民ヲ撫育シ較舊觀ヲ復シ豐臣氏其ノ志ヲ繼キ徳川氏ニ至リ益前緒ヲ擴張シ絶テ繼キ廢テ興シ專ラ京都ノ繁榮ヲ保ツモ以テ政畧ノ要旨トシ之カ力ヲ盡スコト至レリト云ヘシ文久年間一二大罷勤王ヲ唱ヘ京都ヘ參入シ尋テ幕府ノ上洛アリ諸藩ノ士人風ヲ仰テ此地ニ赴ク者日一日ヨリ多シ遂ニ勤王佐幕ノ軌轢ヲ生シ元治甲子市街ノ半部炮



火ノ爲メニ灰燼セラレ、ノ災アリト雖モ其間前後得ル所ノ利潤亦賞ラレサル所  
ノモノアリ明治元年維新ノ鴻運ニ際シ太政官ヲ始メ諸局ヲ置カレ全國ノ士民羣  
下ニ輻輳シ當時京都ノ繁盛殆ント前古ニ超軼スルニ至リシカ翌年春御東幸以來  
京都ノ面目頓ニ一變セリ然レ維新前後得ル所ノ餘澤ヲ以テ未ダ強チニ衰頹スル  
ニ至ラスト雖レ既ニ官局諸司ノ衙門ナク府藩縣官ノ往復參集ナク寂寥トシテ年  
ヲ經ルコ茲ニ十數年一般ノ人情自テ東京ニ傾向シ日用ノ物品モ亦東京ノ風尙ニ  
倣フモノ多シ今ニ於テ京都維持ノ策ヲ按セサレハ彼ノ奈良ノ舊都是レ其殷盛ニ  
非スマ蓋シ御東幸以後時勢變遷ノ然ラシムル所ト雖レ抑亦地形ノ不便ナルト製  
作物品ノ未ダ改良セサルトニ原由セル所アラシク夫レ京都ノ繁盛ヲ維持セント  
欲セハ其ノ策亦少ナカラサルヘシ然レハ風俗地理ニ因テ之ヲ考フレハ工藝ヲ精  
巧ニシテ以テ物産ヲ振興シ水利ヲ開通シ又以テ運輸ヲ便ニスルヲ第一トス幸ニ  
近接ノ地方ニシテ其ノ高低ノ位置ヲ得ヌル近江國琵琶湖水ノ疏通スヘキモノア  
リ是レ我カ京都全區ヲ潤澤セシムル一大元素ト謂ハサル可カラス此水利ニ因リ  
テ運輸ヲ便ニシ器械ヲ運轉シテ以テ諸製造ヲ盛大ニセハ將ニ衰頹セントスルノ  
京都ヲシテ忽チ轉シテ天府富裕ノ地トナスヲ得可シ其ノ餘力ノ及フ所管内ニ  
在テハ之ヲ京都市街縱横ニ引用シテ以テ井水ノ欠乏ヲ補ヒ又火災防禦ノ用ニ備  
フヘク水車ヲ製シテ精米ノ用ヲナシ下水ヲ清淨ニシ衛生ニ取ルヘク加之宇治紀

伊及愛宕葛野ノ郡内旱損ノ田面ヲ灌漑シテ若干ノ收穫ヲ得ヘシ其ノ管外ニ在テ  
ハ舟楫ノ利東近江國ヨリ西礪津國ニ及ヒ内外公益ノ大ナル未ダ遮ニ概算スヘカ  
ラサルナリ琵琶湖疏水ノ工事一舉シテ百益相聯貫シテ創興スヘキヲ如此是レ此  
工ヲ起サントスル所以ノ大旨ナリ其管下公益ノ尤モ著シキモノ數件ヲ概記シテ  
別ニ參考ニ付セリ

其一製造機械之事 工業ノ精巧ヲ要セント欲セハ必機械ノ作用ニ據ラサルヘ  
カラス大ニ諸工業ヲ起サント欲セハ必宏大精巧ノ機械ヲ要セサルヘカラス其  
ノ宏大ノ機械ヲ運轉センニハ之ヲ水力ニ假ルヲ以テ最モ便捷利益ナリトス今  
京都市街近傍ニ流ル、モノ鴨川桂川アリト雖レ鴨川ノ如キハ僅々十馬力ノ水  
力ニモ達セス加之夏時三ヶ月間ハ稻田灌漑ノ爲メ殆ト流水ヲ絶テ車輪ノ回轉  
ヲ止ム又桂川ハ水量多シト雖レ地形甚ダ不便ニシテ到底其ノ用ニ適セス先年  
製紙場ヲ設置シタル時機械ノ運用ニ百方心ヲ苦シメ漸ク地ヲトシテ梅津ニ一  
車ヲ裝置セシモ僅ニ水力六十馬力ニ過キスシテ夏時五六十日間ハ尙休業ヲ免  
レズ剩ヘ洪水毎ニ本川漲溢シテ機械ヲ浸シ損害ヲ被ル鮮少ナラス其ノ水利ニ  
缺乏スル此ノ如何ソ工業ノ振起ヲ計ルヘケンヤ然ルニ若王寺鹿ヶ谷村近  
傍ハ下ニ白川ノ流アルノミナラス土地ノ勻配甚急ナレハ水車ノ設置ニ尤適當  
ナル疑ヲ容レサル所ナリ又運河ヨリ分水シテ之ヲ水車ニ用ヒ殘餘ヲ白川ニ流



スキハ以テ運船ノ便ヲ白川ニ開キ製造場ニ便ヲ與フルト夥多ナリトス今運河ヨリ一秒時間一百四個四ノ水量後チ此水盤ヲ改メテ三百個トス分ツテ水車ノ力ニ供スルキハ能ク三百十六馬力ノ機械ヲ運轉セシムルヲ得ヘシ此他本川ノ流域勻配ノ緩ナル所ニアリテモ三十餘町ノ間ニ於テ各所ヲ合シ尙三百馬力ヲ有スヘシ此緩流ニ係ル馬力ハ精米一途ニ供スル水車機械ヲ設置スルニ最モ便アリ精米水車ノ事ハ別記ニ載ス且堀川筋等ニ於テ多少精米水車ヲ増設シ得ヘキナリ

通常蒸氣機械ニ於テ一時間凡一馬力毎ニ石炭六斤ヲ費スモノト假定スレハ十四時間一日ニ付六百十六馬力ノ機械ヲ運轉セシムルニハ五萬千七百四十四斤ノ石炭ヲ要ス此價三百三拾六圓三拾三錢六厘一ケ年間拾貳萬貳千七百六拾貳圓六拾四錢ヲ費サ、ルヲ得ス則水車ノ利益ハ大約一ケ年間拾貳萬餘圓ノ純益アル石炭山ヲ京都ニ造リシト一般然レ水車ノ利ハ之ノミニ止マラス其ノ蒸氣機械ニ勝レル少カラス今蒸氣機械ト水車トヲ相比較スルト左ノ如シ

蒸氣機械ハ緩急器ヲ以テ其運轉ヲ定ムル故ニ水車ノ如キ一定不動ノ速力ヲ有スル能ハス故ニ製糸機械織機等ヲ運轉セシメンニハ水車ヲ以テ勝レリトス又水車ニ在テハ蒸氣機械ノ如ク鐘ノ水ノ沸騰スルヲ待ツヲ要セスシテ隨意ニ運轉セシムルヲ得

水車ハ煙ヲ出サス故ニ市中ノ機械ニハ甚適當ナリ

又水車ハ蒸氣機械ヨリ造作容易ニシテ危險ナラス

又水車ハ蒸氣機械ヨリ製造修繕費共甚々少ナリ

附言水利ニ依ラスシテ前行ノ如キ馬力ヲ要スレハ之ヲ石炭ニ假ラサルヘカラス然ラハ六百十六馬力ニ付年々拾貳萬餘圓ノ石炭ヲ費スノミナラス其煙突ヨリ吐出スル煙量一日ニ付無慮七百七十六萬千九百立方尺此重サ六十二萬千九百三十斤則七萬五千五百一十一貫目一ケ年ニ於テ十七尺厚サノ煙ニテ全市街ヲ覆フニ至ル或ハ英國龍動府ノ煙霧ヲ見ルモ圖ルヘカラス衛生上ニ大害アル推シテ知ルヘシ

右ノ如ク水力ニ因ルヲ以テ大ニ此地ニ利益ヲ得ルノ道ヲ開通セハ陸續機械ノ業興リ以テ物産ノ繁殖ヲ基スヘシ

其二運輸之事 運輸ノ方ヲ圖ルニ或ハ迂路ヲ改良シ或ハ峻坂ヲ平低ニシ或ハ港灣ヲ開築シ或ハ鐵道ヲ築造シ或ハ運河ヲ開通スル等之ヲ施設スルノ土地ニ由テ適不適アリト雖モ其運河ヲ開通シ船舶ヲ往來セシムルノ便益ヲ以テ最第一トナスヘシ今此疏水ニ依リ運河ヲ開通セハ舟楫ノ路西大阪海港ヨリ東琵琶湖ニ聯絡シ大ニ運輸ノ便ヲ達スルニ至ル豈管其ノ益スル所獨リ京津ニ止マラシヤ假ニ現今京津間及京伏間ニ來往運輸スル所ノ物貨ヲシテ此運河ニ由リテ回漕スルモノトシ之ヲ起算スルモ一ケ年ニシテ其ノ運賃ヲ減スルノ額無慮八萬餘圓ノ巨額ニ及フヘシ然レモ此巨額ノ利ヲ計ルハ想フニ五六年ヲ經過スル



ニアラサレハ望ム可カラスト雖其ノ半額即チ四萬餘圓ノ額ヲ見ルハ容易ノ業ナルヘシ且水理ニ因リ大ニ工作製造所等ヲ創設スヘケレハ其レカ爲メ製造ノ原品及製品等運輸出入往復ヲ増シ又運賃ノ低減スルト漸次此地繁盛ニ赴クドニ依リ輸出入ノ貨物從前ノ額ヨリ幾倍スルニ至ルモ測ルヘカラサルナリ茲ニ新舊運賃ヲ比例スルト左ノ如シ比較表ハ全誌ニ載ス

其三田畑灌溉之事 此地周圍ニ接スル耕地中愛宕葛野宇治紀伊ノ四郡ニシテ南宇治川ニ沿ヒ西桂川ニ據ル田畑ヲ除クノ外ハ皆水利ノ乏シキニヨリ年々ノ收穫ヲ減耗スルヤ極テ大ナリ本年ノ如キ稀有ノ旱魃ハ暫ク算外ニ措キ平常ヲ以テ統計スルニ四郡中早損ニ罹ル處ノ反別凡千貳百四十七町餘アリ此收穫凡平均九千七百餘石ヨリ現收スル能ハス若シ之レニ用水ヲ疏通シ灌溉ヲ充分ナラシメハ普通良田トナリ貳萬五千九百餘石ヲ得ヘク此増獲壹萬六千貳百餘石今假リニ壹石六圓ト見積ルルハ年々九萬七千圓餘ヲ得ルニ至ルヘシ收利調表ハ全誌ニ載ス

其四精米水車之事 蒸潔潔罐ニ換フルニ水力功用ハ別冊ニ載スル如ク著大ナル諸製造場ノ設置ハ漸次有志者ノ發企ヲ待テ公益ヲ得ルニアリト雖田精米一途ノ用ニ供スル水車ノ機械ヲ設置スルニ大ニ便アリ目下ノ車數及精米ヲ調査スルニ別表ノ如ク一歲二十五萬石ニ過キス京都ニ費用スル所ノモノ一歲凡五十萬石ニ近シ現今水車ハ其ノ半數ヲ精磨スルノ實況ニシテ殘半數ナルヤ他

邦ヨリ白米ノ輸入ニ係ルト自家ノ足踏トノニアルノミ其ノ勞力其ノ賃金水車ニ比較スレハ極メテ廉ナラス故ニ疏水ノ工事成ルニ當テ忽チ精米水車ヲ設置スルモノ陸續ナルヲ信ス今別表ノ如ク歲計凡二十五萬石ノ所得六萬餘圓ト見ルルハ又殘數ノ二十五萬石モ全額ニ至ル可ク之レカ器械ノ費途ニ其ノ半額ヲ充ツルト見做スモ猶年々三萬餘圓ノ所得アルカ如シ水車取調表ハ全誌ニ載ス

其五火災防虞之事 京都市街切火ノ爲メ數百戸ヲ灰燼ニセシテ天明以來屈指スルニ迫アララス然ルニ之ヲ防クノ術タル僅カニ各戸限アルノ井泉ヲ以テスルニ過キス風力ノ少シク加ハルニ及テハ火勢益烈シク人力已ニ盡キ自然ノ消滅ヲ俟ツノミ是レ市街縱橫ニ環流スル河泉ナキニヨレリ往年屢々大火ニ罹リタルヤ京都市方ニ繁昌ノ頃ナリシモ猶且十數年ヲ經過セサレハ連管ノ富市街ノ美容易ニ舊觀ニ復スルヲ得ヌ况ヤ今日ノ景狀ニシテ萬一天明或ハ嘉永安政元治ノ災厄ニ遭ヒ無數ノ財產ヲ灰燼ニ歸スルアラハ其ノ復舊ノ時又何ノ年ヲ期スヘケンヤ實ニ人民ノ不幸土地ノ衰微之レヨリ大ナルハナシ宜シク市街ニ數派ノ水路ヲ延キ此ノ防虞ニ備ヘスンハアル可カラス

其六井泉之事 此地飲料ニ供スル井泉ノ水量タル古ヨリ之ヲ調査セシメテ十餘年ノ極度ヲ知ルニ由ナシト雖近來時々渇水ノ聞ヘアリ殊ニ客年十一月及ヒ本年八月ノ頃ニ當リ續々渇水ニ到リ減量既ニ別冊ノ如シ其ノ起因



ノ細カナルハ未ダ之ヲ審ニセスト雖井泉瀾濁ノ景況ト舊來ノ實蹟トヲ以テ  
此地ノ水脈ヲ考フレハ左ノ理ニ外ナラサルヘシ蓋市街ノ井泉ハ深ク山嶽中心  
ニ丕胎スルノ原水ヨリ脈絡相通シ滾々流レ出ル所ノ者ニアラスシテ單ニ山嶽  
ノ溪谷ヨリ浸潤シテ市街地中北高南低ノ地盤石上ニアル壘層ノ砂石地皮ノ間  
ヲ滲透下流スル者ナルカ故ニ僅々數十日ノ晴雨モ能ク井泉水量ノ増減ヲ致ス  
實ニ頼ムヘカラサルノ井泉ト云ヘシ已ニ客年十一月中旬ヨリ同十二月に至  
ル僅々四旬内外ノ降雨ナキモ上京區内ニ於テハ井水ノ涸ル、モノ甚シトセ  
本年大旱ノ時ハ其ノ涸ル、モノ擧テ數フ可カラス此レ疏水ノ力ニ依リ用水ノ  
缺乏ヲ補ハ、遂ニ此患ヲ免ル、ニ至ルヘシ 井泉淺深測量表  
ハ全誌ニ載ス  
其七衛生上ニ關スル事 此地市街流水ノ乏キハ人々常ニ遺憾トスル所ナリ僅  
々西堀川ヲ首トシ細小ノ川路アルモ畢竟路傍溝渠ノ數脈ヲ合シタルモノニシ  
テ惡水ヲ通スルニ過キス或ハ其川筋ニ塵芥淹滯シ所在死水ノ滯溜スル等ヨリ  
シテ常ニ腐敗ノ汚氣ヲ釀成シ彼ノ猛烈ナル傳染病毒ヲ發生スルニ至リ其攝生  
上ニ害アルコト之ヨリ甚キハナシ今疏水事業ヲ繼キ市街縱横ニ環流セシメ清泉  
ヲシテ溝渠川流ニ疏通セシメハ腐敗死水ノ淹滯スルナク且樹木繁茂ヲ助ケ空  
氣ヲ清潔ニシテ凡テ病毒ノ素因タルヘキモノヲ排除スルニ至リ自ラ健康ヲ保  
持セシムルノ功實ニ少ナラサルヘシトス

### 工事方法要點

工事費額 此兩項ハ上下聯合區會議案ト参照スヘシ

同月五日府知事ハ親ラ會頭ノ任ニ當リ開會ノ趣旨ヲ述ヘテ曰本日諸氏ヲ召集シ  
本會ヲ開設セシ所以ハ永ク京都ノ繁榮ヲ維持セン爲メ一大事業ヲ創起セントス  
ル所ノ可否ヲ特ニ諮問セント欲スルニ在リ抑京都ニ於テ舉行スヘキ事業ハ一ニ  
シテ足ラスト雖在就中最大急務トナス可キモノハ琵琶湖々水ヲ京都市街ニ疏通  
シ其ノ水利ヲ活用スル是ナリ而シテ今日此事業ヲ舉行セントスル所以ノモノハ  
往昔 桓武帝此地ニ帝都ヲ定メサセ玉ヒシヨリ都下ノ繁榮初メテ基井ヲ隨テ工  
商ノ業帝都ノ餘澤ニ因リ全國人民ノ仰望スル所トナリ終ニ工商業者ハ自然ニ專  
賣權ヲ特有セシモノ、如クナレリ是レ各員ノ祖先以來永ク此地ニ住居シテ熟知  
セル所ナラン然ルニ時運變遷一朝帝都東遷アリシヨリ前日特有セシ專賣權モ亦  
自ラ他ニ移轉セシモノ、如クナレリ嗚呼今ニ當テ此繁榮ヲ挽回セントスル實ニ  
難中ノ難事ト謂フ可シ斯ク論シ來テハ 陛下ノ還幸ヲ奉願スルノ外別ニ挽回ノ  
策ナキモノ、如シ然ラハ之ヲ奉願セン乎皇都ハ業ニ既ニ確定シ今日ニ在テハ復  
如何トモナス能ハサルナリサレハ舊都ノ繁榮ヲ永遠ニ維持セント欲セハ宜シク  
將來ノ計畫ヲナサ、ル可ラス夫レ京都ノ位置タル四方輻輳ノ地形ト謂フ可ラス  
何トナレハ河海舟路ノ利アルニ非ス又四通五達ノ便アルニ非ス是ヲ以テ帝都



リシト雖正政治家ハ多ク心ヲ工業ニ用ヒタリヨリ織物ノ如キ陶器ノ如キ其  
ノ他玩弄品ニ至ルマテ皆帝都ノ餘光ヲ以テ四方人民ノ鍾愛スル所トナリ又物産  
製造者ノ模範トナリ所謂製造本場ノ地位ヲ占メ此繁榮ヲ有テタリキ夫レ帝都ノ  
時ニ在テモ尙心ヲ工業ニ盡セシト此ノ如シ況ヤ時運變遷人事日新外交頻繁物品  
輸出其ノ便利ノ歲ヲ逐テ増進スルノ今日ニ於テオヤ今ニシテ此衰頹ヲ挽回スル  
策ヲ計畫セサレハ恐クハ之ヲ救済スヘキ時機ヲ失シ他日嚙臍ノ憂アラソトテ是  
レ今日ニ於テ挽回ノ策ヲ求ムル所以ナリ而シテ是ノ挽回ノ策タル他ナシ京都固  
有ノ工業ヲ振起シ益製造場ヲ増置シ物品ノ製作ヲ培加スルニ如クナシ夫レ工商  
業ハ相須テ成ルモノト雖正京都ニ在テハ製造物之カ主タリ是ヲ以テ工業振起セ  
ハ商業モ亦隨テ盛大ニ赴クハ自然ノ道理ナリ今此等ノ策ヲ畫セシニハ廣ク眼ヲ  
世界ノ形勢ニ注カサル可ラス何トナレハ各國ト廣ク通商スルノ今日ニ當テ離  
トシテ一國內ニ於テ錙銖ヲ爭フカ如キハ獨リ爲ストテ欲セサル耳ナラス縱令之  
ヲ爲スモ其ノ益ナキト昭々ナリ試ニ萬國工業ノ景況ヲ看ヨ其ノ競進ト云ヒ其ノ  
發明ト云ヒ實ニ活潑タルモノニ非スヤ苟モ思ヒ此ニ至ラハ豈因循苟且悠悠送光  
スヘキ秋ナランヤ各進取ノ氣象ヲ發シ奮然競進セサル可ラス而シテ此工業ノ繁  
盛ヲ圖ラント欲セハ水火力二者ノ中其一ヲ假ラサルヲ得ス今火力ヲ假ラン乎  
火力ノ如キハ數多ノ石炭ヲ要スルノミナラス其ノ他費用モ亦少シトセス故ニ工

業ノ盛大ヲ極ムルノ日ニ非サレハ其ノ得失相償ハサルナリ水力ニ至テハ否ラズ  
一旦之ヲ疏通セシ以後ハ別ニ要スヘキ費用アルニ非ス其ノ他使用ニ至テモ頗ル  
便利ナリ是レ水力ヲ假テ工業ヲ起サント欲スル所以ナリ且ツ水力ヲ使用スルト  
キハ隨テ起ルヘキ利便モ亦大ナリ彼ノ物貨運輸ノ如キ是ナリ今ヤ鐵道布設ノ爲  
メ不便ノ感ナキモノ、如シト雖正之ニ加フルニ水運ノ便ヲ以テセハ其ノ利果  
テ如何ソヤ況ヤ運賃ノ如キモ之ヲ鐵道ニ比スレハ幾多ノ減額ヲ見ルニ於テオヤ  
又京都ハ元來水ニ乏シク秋夏ノ交ハ論ナク冬期ニ至ツテハ鴨川ノ如キ殆ト流水  
ヲ見サル有様ニシテ從テ井水モ缺乏ス即チ本年ノ如キ非常ノ旱魃ニ際シテハ市  
街至ル所トシテ飲料水ニ困難セサルハナシ然レ正永住ノ人ハ既ニ其ノ缺乏ニ習  
慣セシヲ以テ左マテ不自由ノ感ナキモノ、如シト雖正始メテ此地ニ來リタル者  
ヨリ之ヲ觀レハ獨リ飲料水ニ困難ナル而已ナラス彼火防ノ資ノ如キモ實ニ憂慮  
ニ堪ヘサルナリ昔時往々非常ノ火災ニ罹リ莫大ノ財產ヲ蕩盡セシト皆此ニ職由  
セサルハナシ加之空氣常ニ乾燥セシヲ以テ田畑ハ勿論花卉竹樹ノ如キモ其ノ發  
生宜シカラズ從テ灌溉ノ力乏シキヲ以テ自然不潔ニ流レ或ハ臭氣ヲ發シ或ハ惡  
蟲ヲ生シ大ニ衛生ニ害アリ是某カ實驗シテ欺ク可ラサレ所ナリ而シテ又精米水  
車ノ如キモ目今其ノ設置ノ多カラサルハ全ク水ノ不自由ナルカ爲ナリ今若シ水  
ヲ自由ナラシメハ從來不足ノ精米モ十分日用ヲ足スニ至ラン此地利益ノ在



ル所枚舉ニ違アラヌ以上陳述セシ如クナレハ一朝水利ノ便ヲ得ハ京都ノ面目ハ忽チ一變シ工業ハ日々改良進歩シ初メテ萬國ト競進スルコトヲ得ヘケン彼ノ米國ノホリヨリクノ如キハ全ク疏水ノ力ニ因テ許多ノ製造場ヲ設置セシ爲メ人民輻輳土地繁榮遂ニ一都會ヲ開キタリキ故ニ京都ノ如キモ其ノ繁榮ヲ將來ニ求ント欲セハ水利ヲ棄テ他ニ最大緊切ノモノアラサルナリ然ルニ幸ニ近接ノ地ニ疏通スヘキ琵琶湖ノアル在リ直徑僅カ二里餘ニ過キス實ニ無上ノ位置ト云ヘシ此地ニシテ此湖水アルハ殆ト造物者カ京都今日ノ衰頹ヲ救済セン爲メ豫メ備ヘ置キタルモノ、如ク然リ某去ル十四年二月本府ニ赴任セシ以來琵琶湖々水疏通ニ起念シ其ノ冬之ヲ農商務卿ニ開申シ又同省吏員南一郎平氏ニ工事ノ利害得失ヲ質シ之レカ概算ヲ委託シ終ニ此工事ノ困難ナラサルコトヲ知リ客年四月實測ニ着手シ同五月以來分水線其他水車用又ハ旱魃ニヨリ水量ノ減損等ヲ調査シ漸ク今日ニ至テ百般ノ取調初メテ完全シ茲ニ此會ヲ開クコトヲ得タリ然レ其ノ事業ノ大ナル未ダ分水支線等ノ詳細ニ及ハサレハ此等ハ姑ク他日ニ譲リ其ノ要點トスル所乃チ分水ノ箇所堤防橋梁開門等ハ仔細ニ取調及圖面ハ充分ノ實測ヨリ成リシモノニシテ尙工事ノ雛形ヲモ調製シ置ケリ依テ各員之ヲ熟覽シ上疑義ノアル所ハ掛員ニ質問スヘシ抑此工事タル我國開闢以來未曾有ノ大事業ナルヲ以テ世人或ハ疑惑ヲ抱クモノナキニ非ラン然レ其ノ疑惑ハ皆臆測想像ニ外ナラス所謂

杞憂ニシテ學術及實驗ニ出タルモノニ非レハ更ニ憂フルニ足ラサルナリ況ヤ今日ノ日本ハ昔日ノ日本ニ非ス學術ニ工事ニ測量ニ圖式ニ著シキ進歩ヲ加ヘ此等ノ工事ヲ起スニハ既ニ十分ノ材料ヲ備具セシニ於テオヤ且政府ニ向ツテモ今日ナレハ工事ノ補助ヲ仰クコトヲ得ヘキモ國家有事ノ時ニ當テハ縱令京都ニ如何ナル樞要ノ美舉アリト雖モ政府ハ爲メニ補助スルコト能ハサルヘシ今ヤ海内昌平無事ナレハ此工事ハ補助ヲ仰クモ亦難キニ非サルヘシ實ニ起工ノ好事機ナレハ遲疑シテ其ノ機ヲ誤ル可ラス而シテ某本月十五日ヲ限リ東上ノ命ヲ拜シ時期已ニ迫レリ各員幸ニ之ヲ諒シ逐日審議討論シテ速ニ答議セラレントヲ望ム是ニ於テ會員ハ圖面及參考書ニ就キ質問ノ爲メ小會議ヲ開キ延テ翌六日ニ及フ

全月七日會頭府知事ハ前會ノ議事ヲ續キ且曰今聊カ前日演述セシ所ノ不足ヲ補ハシ此經費ノ負擔ヲ上下京區聯合ノ力ニ任セントスルモノハ他ニ其ノ方法ナシト云フニハ非ス今其ノ一二ヲ舉クレハ當府下一管内ノ力ニ任スル方法アリ又會社法ノ組織ニ據ルモ可ナリ然ルニ故ラニ上下京區ノ力ニ任セントスルモノハ大ニ將來ニ向テ望ム所アレハナリ抑此水利得益ノ所有權ハ其資力ニ歸スヘキハ勿論ナレハ今會社組織ニ據ルハ其ノ得益モ亦會社ノ所有トナサ、ルヲ得ズ之ヲ上下京聯合ノ力ニ因テ起工スルハ其ノ得益モ亦兩區ノ專有トナルヘキハ素ヨリ論ヲ待メサルナリ會社法ニ據ラン乎水利ハ會社ノ協議ニ制セラレサル可ラス



之ヲ上下京區聯合ニ任セン乎此水利ハ兩區ノ協議ニ因テ自由ニ之ヲ左右スヘシ  
 是此經費ヲ上下京聯合ノ力ニ任セント欲スル所以ナリ  
 一番山本覺馬曰此工事ノ美舉ニシテ其ノ方法ノ善良ナル蓋世界ニ稀ナル事業ナ  
 リト信ス而シテ此經費ノ負擔ハ上下京區人民ノ負擔トナシ速ニ工事ヲ起サン  
 ヲ望ム  
 三十番吉村逸明曰分水工事高瀬川堀川改良法ノ書面ニハ川上ノミアリテ川下ナ  
 キハ何故ナルヤ  
 會頭府知事曰通船ノ便ヲ高瀬川ニ連絡セシムルトハ高瀬川ヲ取擴ルニハ非ス開  
 門ヲ置テ水量ヲ増シ通船ノ差支ナカラシメ營ヘハ此川ノ平水八寸ナレハ八寸ヲ  
 以テ定量トナシ若シ水量漲溢スルヲアラハ之ヲ鴨川ニ殺キ高瀬川ニハ定量ノ水  
 ノミヲ送ル見込ナリ尤モ工事ノ着手ハ書面ニアル耳ノ見込ヲ付ケタリ故ニ此見  
 込ヲ實施シテ後尙水ヲ要スル敷派ニ及ハ、又第二着工事ニ於テ之ヲナス可シ到  
 底高瀬川ハ水量ヲ深クスル迄ナリ  
 六番濱岡光哲曰疏水工事ノ起サ、ルヘカラサルヤ復論ヲ待タサレモ只經費ノ點  
 ニ至テ或ハ起スヘキ工事も起シ得ラレサルノ場合アリ今諮問案ハ上下京區聯合  
 ノ力ニ任セントノ趣旨ナレモ兩區共有ノ産業基金ヲ以テ之ニ當テサレハ別ニ  
 町費トシテ課出セシメサル可ラス若シ町費ヲ以テ之ニ當ルトセハ實ニ困難ナリ

依テ一ノ協力會社ヲ設立シテ負擔スルヲ良策トナス而シテ此會社ハ上下京區一  
 括ノ結社トナスヘキヤ將々有志ノ協力トナスヘキヤ若シ有志ノ協力トナスハ  
 隨テ弊害ヲ生スルヲ以テ上下京區ノ結社トナスヲ最良トナス然レモ一上下京  
 區結合ノ負擔ニ堪ヘサルハ假令他日弊害ハ生スモ有志ノ協力ニ任セサルヘ  
 ラス而シテ又成功後ノ收利見積書ハ所持スレモ本會ニ要用ナラサルヲ以テ敢テ  
 贅言ゼス如聞スルニ上下京區内ニテ或ル紳士ハ此工事ヲ起サンヌメ既ニ建議セ  
 ラレシト人心ノ傾向推知スヘシ實ニ起工ノ時機到來セリト謂フヘキナリ然レモ  
 第二隧道以下ノ迂回及分線ノ事ニ至テハ輕々賛成ヲ表シ難シ且工事ハ六箇年ヲ  
 經テ成功スルモノナレハ熟考ノ上進ル所アラントス  
 會頭府知事曰第二隧道以下ノ迂回ヲナシタル所以ハ第一開門ヲ設クルヲ要セス  
 第二勾配ノ遲緩ニ赴ク爲メニ水流急ナラスシテ通船ニ便アリ夫レ開門ヲ設クル  
 時ハ日常通船毎ニ開閉ノ時間ヲ費シ且時々修繕ヲ要シ隨テ費用モ亦尠カラス故  
 ニ迂回ハ早損ニ備ヘ通船ニ便シ費用ヲ除クノ三益アリ實ニ工事中ノ要點ニシテ  
 最モ力ヲ盡セシ所ナリ  
 十三番高木文平曰此工事ハ譬ヘハ秋季木葉枯落セントスル時ニ當リ反リ花ヲ咲  
 カシメト云カ如キ美事ニシテ實ニ萬代不易ノ工事ナリ且今日ノ日本ハ昔日ノ比  
 ニアラス氣運活潑ノ日本ナレハ萬國ト競争セサル可ラス此工事ヲシテ早ク成功



ヲ告ケシメ當地ヲシテ日本第一ノ製造場トナサンコトヲ望ム又此工事ヲ喜ブノ聲ハ市街ニ充滿シ至ル處歡聲ヲ聞カサルハナシ猶悅フヘキハ區會議士ハ此諮問會ノ舉ヲ聞キ經費ヲ區會ニ負擔セントスルノ建議アリシト實ニ議士ノ任ヲ盡セリト謂フヘキナリ又此工事費額ヲ負擔シテ所有權ヲ掌握セントスルモノアリト聞ケリ故ニ本會ニ於テ可決ヲ告ケ他人ノ手ニ委セザランコトヲ務ムヘシ而シテ工事計畫書中ニ製造場設置ノ箇所ナキモ此等ノ地所モ豫メ定メ置キ後日其ノ地主ノ賣却等ヲ拒ムカ如キ患ナカラシメ又小川頭等ノ沿岸ニ水車場ヲ併立シテ製造ニ便チ與ヘ土地ノ繁華ヲ他ニ比類ナキニ至ラシメンコトヲ望ム工費ハ上下京區聯合ノ力ヲ以テ負擔スルヲ可トス

十番富井政恒曰此成功年限ハ滿六箇年ヲ期スレモ明治二十年申ニハ成功アラントヲ望ム

會頭府知事曰此年限ハ大工事故注意ノ上注意ヲ加ヘテ六箇年ト豫定セシモノニテ實際ハ四年ヲ期シテ成功ノ見込ナリ況ヤ農商務省疏水掛南氏ノ見込ニテハ三箇年ナリ然レモ彼ノ豐公ノ割普請法ヲ取テ分擔工事ニナセハ二箇年ニテモ成功スヘシ併シ分擔工事ヲナスキハ隧道ニハ井狀坑ヲ穿テ掘鑿セサル可カラズ之ヲ爲スキハ多分ノ費用ヲ要スヘシ西洋ニテ工事ヲ急クキハ五年六年ノ工事ヲ一年間ニ竣功スルモノアリ是皆工事分擔法ニ由テ然ルナリ故ニ此工事モ四箇年ヲ超

ヘサル見込ナレモ鄭重ニ見込テ六年トナセシナリ

四十五番山鹿九郎兵衛曰本案ハ素ヨリ賛成ナリ而シテ費用ノ支出方法ハ幾種モアリ必シモ此六拾萬圓ノ豫算額ニ泥マズ總合超過スルモ工事ハ可成鄭重ニナラントヲ望ム

是ニ於テ會頭府知事曰本日出席ノ各員ハ本案ニ對シテ悉ク賛成セリ而シテ經費ノコトニ付二三會員ノ說アリト雖モ此ハ會頭ノ決ス可キモノニ非ス又六番ノ說ニ線路迂回ノコトニ付見込アレモ今之ヲ述ヘストノコトナリシカ抑此線路迂回ノコトハ工事上要點トスル所ニシテ殊ニ勾配ヲ重スル所以ハ此勾配ヨリ流水ニ速力ノ差ヲ來スシ速力ノ強弱ニ因テ通船ニ便否ヲ與フルモノナリ故ニ線路迂回スルモハ彼ノ米國ノホリヨクノ漸次製造場ヲ設置セシ如ク沿岸至ル所水車ヲ設置スルニ便ナリ又幸ナルハ北方白川口ヨリ三條ニ至ル迄平面百尺即チ十丈ノ高低アリ此沿岸ニ於テ後年如何程ノ製造場ヲ設クルモ便ナラサルハナシ故ニ迂回ノコトハ最緊要ナレハ六番ニ於テモ此意ヲ諒シ尙研究アリヌシ各員ニ於テモ亦然リ抑本會ニ於テハ疏水工事ノ起工ヲ可トスル乎不可トスル乎ノ答議ヲ望ミタリシニ滿場起工ヲ望マル、ヲ以テ彌疏水工事ヲ創起スヘシ附テハ各員繁忙ヲ厭ハス逐日出會審議ヲ遂ケラレ更ニ可否決ノ數ヲ問フニ及ハス全會一致速ニ可決了セシハ實ニ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ依テ此ニ閉會スヘシ是ニ於テ會員一同相慶シテ退



場ス

上下兩京聯合區會

同年十一月府知事ハ既ニ勸業諮問會ノ答議ヲ得タルヲ以テ更ニ前取調委員ニ命  
シテ上下兩京聯合區會ニ下附スヘキ議案ヲ編製セシム  
同月十三日議案成ルヲ以テ左ノ達書ヲ發ス  
番外五百五十三  
琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業別紙ヲ以テ上下兩京聯合區會ニ附議可致此旨相  
達候事

上下兩京區役所

明治十六年十一月十三日

京都府知事北垣國道

議案

第一條 疏水新川開鑿及市中川筋改修方法

一 琵琶湖ヨリ京都ニ達スル新川開鑿及東高瀬川小川堀川等改修ノ方法左ノ如シ  
其一 大津三井寺山下ヨリ府下宇治郡山科地方ヲ經テ愛宕郡南禪寺村ヨリ北  
方高野川ニ達ス其線路并ニ工事仕様ハ別紙甲號圖面及積書ニ據ル  
其二 高野川以西下鴨村ヨリ加茂川ノ西岸ニ達シ一ハ加茂川ニ沿ヒ東高瀬ニ  
通シ一ハ鞍馬口村小山村ヲ經テ小川頭ヨリ堀川ニ通シ及東高瀬川小川堀川  
改修工事仕様ハ別紙乙號圖面及積書ニ據ル

圖面

第二條 經費豫算方法

前條工事ノ經費豫算ヲ定ムル左ノ如シ

一金六拾萬圓

內 譯

金五拾三萬五千三百拾八圓六拾壹錢九厘

第一 工事

內

金五萬千七百九拾四圓九拾八錢

堀割、堤防費

金三拾五萬五千三百三拾五圓八拾貳錢

隧道費

金七千五百六拾五圓六拾錢

開門費

金壹萬千七百三拾七圓

石垣費

金壹萬百六拾七圓四拾六錢

橋梁、暗溝費

金九千四百九拾七圓九拾八錢九厘

土地買上費

金八萬九千貳百拾九圓七拾七錢

工事準備金

第二 工事

第二 工事

金六萬四千六百八拾壹圓三拾八錢壹厘

堀割費

金三千四百六拾七圓九拾七錢

開門費

金三萬六千六百四拾八圓三拾貳錢

堤防、堰費



金七千四百六拾圓貳拾壹錢六厘  
金壹萬七百七拾三圓六拾七錢五厘

土地買上費  
工事準備金

第三條 經費支出方法

一 前條經費ノ支出方法ヲ定ムル左ノ如シ

其一 上下京區共有産業基金ヲ以テ此經費ニ充用支出スル者トス  
但經費半額三拾萬圓ハ府廳ヨリ補助アル者トス

其二 前項支出金ハ一年度七萬五千圓トス  
但事業ノ景況ニヨリ増減スルヲアルヘシ

其三 第一項ノ基金金ハ公債證書ニ交換保管セシモノナレハ第二項ノ支出ヲ要スル時ニ該當スル所ノ證書ヲ其ノ時々見競直段ヲ取り賣却スル者トス

其四 年々賣却殘公債證書ヨリ生スル利子及當籤金ハ見競直段ヲ取り公債證書ヲ購求スル者トス

其五 産業基金立金ヲ以テ此經費半額三拾萬圓ニ充テ支拂タル後過不足アル時ハ更ニ本會ノ議定ニ付シ其ノ補充及處分方法ヲ定ムヘシ

右事業ハ本會議定ノ後其筋ニ稟請シ上下京公共ノ專有トシ供用スルノ許可ヲ得着手スル者トス

甲乙號附屬書 附屬書ハ工費ノ内譯ナルヲ以テ全誌ニ載ス

起功趣意書 本會勸業諮問會ニ下附セシモノト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス

參考書 此工事竣功ノ後得ル所ノ利益枚舉スルニ違アラスト雖最著ナルモノヲ左ニ概記ス  
金拾貳萬圓  
白川分水地其ノ他數個處機械運轉ノ爲メニ水力ヲ使用スル者凡六百馬力トス石炭ヲ使用シ此馬力ヲ有スル時ハ本項ノ金額ヲ要ス今水力ヲ換用スルヲ以テ如此

金八萬圓

舊來三條街道及ヒ瀛車ニ依テ京津間ニ往來スル物貨運送ヲ運河ニ據ル時ハ其ノ運賃ヲ減スルヲ如此

金九萬七千圓

宇治紀伊愛宕葛野郡中田畑灌溉ノ爲メ收入實獲ヲ増ス凡壹萬六千貳百石今假ニ米價五ヶ年ノ平均壹石六圓トナシ算出スル如此

琵琶湖疏水議按編製大意ヲ左ニ掲ケ參考ニ附ス  
一起功及ヒ其ノ負擔ヲ上下京區聯合ノ力ニ歸セントスルモノハ勸業諮問會ノ答議ヲ參酌シタルモノナリ

一起功ノ大旨ハ掲ケテ趣意書ニ在リト雖最ニ適切緊要ナル事件ヲ平易ニ分明



ナラシメン爲メ之ヲ掲ク  
 抑今起サントメル事業タル區民産業ノ元資ト謂フヘキモノニシテ苟クモ已レ  
 カ作ス産業ノ元資ヲ求ムルニ當リ之ヲ使用スルノ道ヲ講セシテ徒ニ其ノ元  
 資ヲ求ムルモノアラズ哉夫レ然リ是ヲ以テ區民此事業ヲ起サント決スル精神  
 アレハ今日ヨリ豫メ此元資ヲ將テ工業ニ製作ニ運漕ニ其ノ他區内公共ノ福祉  
 ヲ増進スヘキ事業ニ充テ餘贏ヲカラシメ工事竣成ト共ニ機械ハ運轉シ舟船ハ  
 回漕シ其ノ他百般競起シ毫モ區外者ノ使用ニ餘スカ如キテアル可ラヌ豫メ注  
 意奮心其ノ準備ヲ講究シ日夜怠慢忘却スヘカラス若シ此心ナクンハ之ヲ起功  
 スルモ其ノ實利ハ舉テ他人<sup>區外ノ者</sup>ノ收拾スル所トナリ區民ハ徒ニ空權ヲ握ル  
 ニ過キサルニ至ルモ亦測ルヘカラス只區外ノ者ニ幾分ヲ割キ使用ヲ許シ其ノ  
 間利ヲ收ムルハ田畑灌溉ノ一アルノミ宜ク大旨ヲ茲ニ定メ目的ヲ茲ニ着ケ  
 サル可ラス此ノ如クシテ初メテ工業ノ精巧物産ノ振興ヲ得京都全區ヲ潤澤セ  
 シメ天府富有ノ地トナスヘキナリ  
 一産業基金ヲ以テ之カ經費ニ充ルモノハ則此事業タル前述セシ如ク區民産業  
 ノ元資タルニ外ナラス抑産業基金ナルモノハ區民一般産業ノ基ヲ立ルノ資  
 金ナリ故ニ之ニ充ツルハ適當ニシテ恩賜ノ旨ヲ失ナハサルモノナリ然リト雖  
 此疏通スル所ノ水ヲ區民ニ於テ使用スルノ目的ナケレハ寧ロ今ノ儘ニテ公

債証書等ニ据置ニ如カサルヘシ  
 一右各項ノ目的ヲ以テ確定議決シタルハ其筋ハ稟請スルハ別紙ノ旨意ヲ以テ  
 ス  
 政府ノ認許ヲ請フ大意  
 一曩年上下京區民ヘ恩賜在ラセラレタル金員ハ區民産業ヲ立ルノ基本ニ充用ス  
 ヘキモノニ外ナラス今起ス所ノ疏水工事ノ如キハ此京都ヲシテ永ク帝都ノ觀  
 ヲ失ハヌ繁昌ヲ保有シ無限ノ幸福ヲ受クル一大基本ナリ即チ器械ノ用ニ供シ  
 船運ノ用ニ供シ田畑灌溉ニ井水ニ衛生ニ火災防虞ニ其他百般皆帝都ノ觀ヲ永  
 久ニ保存シ繁昌ヲ増進シ福祉ヲ有ツニ供用スルノ元資タリ故ニ右恩賜金ヲ此  
 費ニ充用シ永ク區民ノ專有供用トスル特許ヲ請フ  
 一右敷地及ヒ家屋官有ニ係ルモノハ無借料使用ヲ請フ  
 一同民有ニ係ルモノ買上ノ旨ハ公用土地買上規則ニ準スルノ免許ヲ請フ  
 一右ニ屬スル土地ハ國稅免除ヲ請フ  
 同月十三日上下京區長ハ上下京聯合區會開設ノ旨ヲ届出且區内ヘ同會開設ヲ公  
 示ス  
 今般<sup>番外五百  
五十三號</sup>達ニ基キ來ル十五日中學講堂ニ於テ上下京聯合區會開場候ニ付此  
 段及御届候也



明治十六年十一月十三日

上京區長 杉浦利貞

下京區長 竹村藤兵衛

京都府知事北垣國道殿

上下京兩區

來ル十五日中學講堂ニ於テ上下京區聯合區會相開候條此段區内へ及告示候事  
明治十六年十一月十三日

上京區長 杉浦利貞  
下京區長 竹村藤兵衛

上下京聯合區會議員(人名ハ後編ニ記載ス)

十一月十五日北垣府知事ハ臨場シテ本會開設ノ要旨ヲ演ヘテ曰今般上下京區長ニ命シ本會ヲ開設セシメタル所以ハ琵琶湖疏通工事ニ付曩日勸業諮問會ヲ開キ以テ事業ノ可否及ヒ工費ノ支出等ヲ諮問セシニ會員ハ皆之ヲ賛成シテ速ニ起工セシコト望メリ故ニ此事業ヲ上下京ノ共有トナシ此經費ヲ上下京聯合ノ支辨トナスコトハ當然ノコナルヲ以テ今諸氏ヲ招集シテ更ニ此議ヲ下附セシ所以ナリ抑此事業ヲ起サントスル目的ハ既ニ諸氏ニ頒布セシ起工趣意書ニ詳カニセシカ如ク目下京都ノ狀況ヲ察スルニ從來ノ繁榮ハ既ニ去テ衰頽ノ氣運方ニ今日ニ迫ルコトハ諸氏ノ熟知セシ所ナリ今ニ當テ之ヲ維持スル方法ヲ立テ之ヲ挽回スルノ計盡クナサレハ他日齒臍ノ憾免ル能ハサランコト恐ル是此案ヲ發セシ所以ナリ

而シテ我京都ノ沿革ヲ考フルニ從來商工業ノ繁盛ヲ維持セシモノハ必竟人爲ニシテ天然ニ由リシモノニ非サルナリ何トナレハ帝都東遷以來京都ノ繁榮ハ日ヲ逐テ退歩シ其極遂ニ今日ノ衰頽ヲ現出セリ是則此ノ地ノ繁榮ハ天然ニ由ラスシテ人爲ニ出テシ所以ナリ然ラハ將來ニ向テ此繁榮ヲ挽回セントスル者ハ惟舊様ヲ墨守セシテ非常ノ新案ヲ工夫セサル可ラス熟考フルニ京都ノ地タル天然ノ形勢ヲ以テ人ノ輻輳スヘキ所ニ非サレハ從來享有セシ福利ヲ將來迄維持セント欲セハ工業ヲ振起シテ之ヲ隆盛ナラシムルニ如クモノナシ曠昔此地帝都タリシ時ニ在テモ政治家ハ大ニ力ヲ工業ニ用ヒ彼ノ有名ナル板倉周防守ノ如キハ最モ意ヲ此ニ注キ諸ノ物産ヲ振作シ諸ノ事業ヲ發達シ大ニ京都ノ繁榮ヲ圖リタリト聞ケリ此ノ如ク此地繁榮ノ時ニ在テモ猶然リ況ヤ衰頽ニ傾ケル今日ニ於テ豈袖手傍觀スヘケンヤ宜シク進テ挽回ノ策ヲ執リ振起ノ策ヲ講セサル可ラス譬ハ西陣ノ物産ハ足利桐生ト競争シテ一步ヲ讓ラサルヲ以テ足レリトス可ラス今ヤ万国ト對峙セシキナレハ大ニ工業ノ地位ヲ進メ彼外國ト競争スルノ規模ナカル可ラス西陣ノ織物清水粟田ノ陶器等ノ如キハ彼ノ上位ヲ占ムルニ非レハ到底京都ノ繁榮ハ永ク維持スルコト能ハサラン夫レ商工業ノ改進ヲ圖ラントセハ物品ヲ精良ニシテ安價ナラシメサル可ラス物品ヲ精良安價ナラシメントセハ機械ノ作用ニ頼ラサル可ラス機械ノ作用ニ頼ラントセハ必水火ノ力ヲ假ラサル可ラス然ラ



ハ今火力ニ頼ラン乎諸氏モ知ラル、如ク其ノ費用極メテ多ク既ニ神阪等ノ如ク  
海濱ニ接スル土地メラ往々收支相償ハサルノ景況アリ況ヤ海濱ヲ隔ツル十數里  
ナル我京都ニ於テオヤ若シモ石炭ヲ用フルトセハ其ノ困難ナル知ルヘキナリ然  
ラハ水力ニ頼ラン乎鴨川ノ流水アルモ十馬力ノ水力スラ求ルヲ得ス其ノ他桂  
川白川等アレハ一ハ地形惡澁ニシテ機械場ヲ設置シ難ク一ハ細流ニシテ工場ニ  
供スルニ足ラス是レ不得已他ヨリ水力ヲ延テ之ヲ使用セント欲スル所以ナリ幸  
ナル哉我カ隣地ニ日本第一ノ大湖ノ在ルアリ今之ニ因テ水ヲ延クハ假令數千  
馬力ノ機械ヲ運轉スルモ更ニ支障スル所ナク加之地形ハ百餘尺ノ高低アリ今之  
ヲ疏通シテ利用スルハ京都ノ中央ニ無盡藏ナル一大石炭山ヲ開造セシト一般  
實ニ非常ナル福利ノ基ヲ起セシト謂フヘシ既ニ之ヲ開鑿疏通セシ以上ハ假令將  
來如何ナル時運ノ變遷ニ遭遇スルモ此福利ハ依然トシテ毫モ變遷スルノ憂ナシ  
殊ニ京都ノ地質ハ上層ハ砂礫ナレ下層ハ花崗石ナルヲ以テ恰モ砂礫ヲ以テ盤  
上ヲ覆ラカ如シ故ニ市街ノ井水ハ眞ニ涌出スルモノニ非スシテ只盤上ヲ通過ス  
ルモノナレハ不斷地形ニ從テ北方ヨリ南方ニ向テ流ル是レ京都ニ於テ掘抜井戸  
ノ未ダ曾テ奏功セサル所以ナリ夫斯ノ如キ水源ナルヲ以テ一朝旱魃ニ遭遇スル  
ハ井水ハ忽チ涸渴シテ使用スルヲ能ハス豈危殆ナラザランヤ本年ノ大旱魃ハ  
暫ク之ヲ論外ニ措キ昨年ノ如キ其十一月ヨリ本年一月三十日迄降雨ナカリシ

ハ井水ノ涸渴スルモノ甚タ多ク其際各井ノ水量ヲ検査セシニ上京區ハ實ニ著シ  
キ減水ナリキ又當年モ五ヶ度調査セシニ僅カ三日間ニテ長ルヘキ減量ヲ見タリ  
若シモ此際不幸ニシテ出火アラハ如何シテ之ヲ撲滅セン乎實ニ危殆モ亦甚シト  
謂フ可シ古來京都ニテ大火ノ際ハ何ツモ消防ニ苦シミシナラン遠クハ天明ノ如  
キ近クハ元治ノ如キ是ナリ彼ノ元治甲子ノ役ニ於テ一橋氏ハ諸藩ニ嚴令シテ火  
防ニ盡力セシモ悲哉獨高瀬堀川ノ二水ヨリ外消防ノ用ニ供ス可キ水ナキヲ以テ  
猛火烈焰益威ヲ逞シ消防モ遂ニ徒勞ニ屬セリト然レハ維新前ハ帝都タラシキ以  
テ假令全府火災ニ罹レルモ舊形ニ復スルヲ亦難キニ非サリシモ今日ノ狀況ニシ  
テ若シモ一朝此ノ如キ大火アラハ焉ソ復舊ヲ望ムヘケンヤ故ニ今水路ヲ開キ維  
横市中ニ疏通セハ工場ハ勿論火防衛生運輸等ノ便益ハ實ニ枚擧スルニ遑アラサ  
ルヘシ殊ニ愛宕葛野其他郡村旱損ノ田地ニ灌漑シテ永世不朽ノ上田トナサハ其  
利益モ亦莫大ナルヘシ斯ク一舉ニテ百益相生スルモノハ此ノ疏水工事ヲ措テ他  
ニ決メテ之ナキヲ信ス故ニ京都ノ繁榮維持法ハ此起工ヲ以テ最モ適切ナルモノ  
ト思考ス依テ曩日都下ノ先輩實業家ヲ集メ此事ノ可否ヲ諮詢シ其答議ヲ得テ更  
ニ議案ヲ編成シ以テ本會ヲ開カシメタルナリ故ニ此起工ノ成否ニ就テハ大政府  
ニ向テ敷件ノ特許ヲ請フヘキモノアリ然レニ本月十五日迄ニ上京スヘキ旨内務  
省ヨリ内達アリタレハ斯カル緊要ナル議會ノ決議ヲ見スシテ東上スルハ實ニ遺



憾ニ耐ヘス依テ本會ノ決議ヲ聞キ然ル後東上シテ本會ノ景況ヲ具狀シ以テ特許  
 ヲ請願セシトス故ニ特ニ電報ヲ以テ内務省へ猶豫ヲ求メ一昨日指令ヲ得タリ之  
 ニ依テ廿日ニハ必東上セサルヲ得ス此ノ如キ次第ナレハ諸氏ニ於テモ非常ノ勉  
 強ヲ以テ一日モ早ク決了シ某カ特許ヲ得ルノ機ヲ失ハサラシメンコトヲ企望ス  
 同月十六日議長莊林維英ハ本案ノ第一次會ヲ開ク  
 五十九番東枝吉兵衛曰此起工趣意書ニ因レハ此工事ハ將來ノ益ヲ圖ルモノニテ  
 落成後ハ主トシテ工業ヲ振起シ以テ衰退ヲ挽回セント欲スルニ在リト雖トモ個  
 人ニ是レ未來ノ無形物ニシテ今日豫メ充分ノ信ヲ置クコトハ最モ難シトスル所ナリ  
 而シテ成功ノ際利ヲ目前ニ見ルモノハ獨リ運輸ノ便ニ過キス此運輸上ヨリ生ス  
 ル利益ハ實ニ僅々タルモノニテ此ノ如キ大工事ヲ起ス目的トナスニ足ラス然ル  
 ニ主任者ハ此未來ノ無形物ニ頼リテ巨額ノ資金ヲ投シ京都ノ衰退ヲ挽回セント  
 スル其ノ立案ノ精神ハ何レニ在ルヤ  
 答辯委員曰此起功趣意書ニ詳記セシ如ク疏水事業ノ利益ハ都テ直接ノ利益ニ非  
 スシテ專ラ間接ニ受クル公益ナリ昨日モ府知事カ演說セラレタル如ク京都ノ衰  
 運挽回ノ策ハ工業製作ノ振起ヲ圖ルヨリ外術アルコトナシ而シテ之ヲ振起センニ  
 ハ大ニ機械力ヲ用ルヲ要トス其機械ヲ運轉センニハ水火ノ力ニ因ラサルヲ得ス  
 火力ニ因ルキハ巨万ノ石炭ヲ消費シ之ニ附隨スル經費モ亦夥シ況ンヤ鑛山ニ離

隔スル我カ京都ニ於テオヤ然ルニ水力ニ因ルキハ之ニ反シテ經費ノ容易ナル多  
 言ヲ俟タスシテ明ナリ故ニ水力ニ因テ以テ機械ヲ運轉シ工場ヲ設置シテ以テ製  
 作ヲ盛ニセハ無産ノ人モ産ニ就キ無職ノ徒モ職ヲ得ルニ至ラン果シテ然ラハ昨  
 日ノ衰微モ忽チ變シテ天府富有ノ地トナルコト信シテ疑ハス是此ノ案ヲ發セシ所  
 以ナリ  
 六番安田善兵衛曰若王子村ヨリ下加茂ニ至ル水利ハ總テ愛宕郡ニ在テ區内ニハ  
 更ニ得益ナシ然ルニ其工費ヲ上下京區ニ負擔スルハ當チ得サルカ如シ  
 答辯委員曰愛宕郡ニ限ラス葛野郡ニモ多分ノ旱損地アリ既ニ愛宕郡ニテハ從來  
 ノ旱損地ニ分水スルキハ壹萬貳千六百石ノ新田地ヲ得ル豫算ナリ之ヲ壹石六圓  
 ト假定スレハ即チ一年間ノ收穫ハ七萬五千六百圓ナリ故ニ此工事竣功ノ上ハ該  
 郡村ヨリ相當ノ義務ヲ區民ニ酬報セシメサルヲ得ス且專有ノ特許ヲ得シ上ハ其  
 分水ノ多寡ニ由テ相當ノ水稅ヲ徵收スベキハ勿論ナリ而シテ是等ノ方法ハ追テ  
 專有ノ特權ヲ得ヌレ後設ク見込ナリ  
 七番安田專太郎曰此水力ヲ用テ何馬力ノ機械ヲ何箇所ニ設置シ得ヘキ乎且小川  
 堀川東高瀬川ハ皆改修ノ費目アレバ獨リ西高瀬川ハ其ノ費目ナキハ該河川ニ限  
 リ改修セサル見込ナルヤ而シテ堀川等ノ水量ハ何程ナルヤ  
 答辯委員曰愛宕郡南禪寺村ヨリ鴨川ニ至ル間ニ六百馬力ノ水量アリ之ヲ何箇所



ニ延クモ工場設置ノ都合ニ依テ自由ナリ就中若王子村ヲ以テ最上トス其他適當ノ地所ニシテ必要ト認ムル箇所ハ忽チ地價騰貴スルハ必然ノ理ナルヲ以テ右様ノ場所ハ公用土地買上規則ニ據リ豫メ買上置キ以テ附屬地トナス見込ナリ而シテ西高瀬川改修ハ工事成功ノ時ニ讓ル見込ナリ且東高瀬川ハ目下ノ水量七寸位ニテ夏日ハ三寸若シ旱魃ニ遭ヘハ全ク涸渇ス依テ之ヲ改修シテ不斷七寸ノ常水トナシ堀川モ之ト同様ニシテ小川頭ハ成ルルハ人家ヲ取拂ハス其床下ヲ通過スル見込ナリ

三拾八番富田半兵衛曰第一土地買上ノ方法第二三拾萬圓ハ區長カ府廳へ申請セラレ、モノニシテ且年々下賜セラレ、ヤ將々專有ノ特許ヲ得ハ一時ニ下賜セラレ、モノナルヤ第三半額ノ補助金ハ豫算額ノ半額ニ非スシテ實費ノ半額ナルヤ第四毎年支出スヘキ七萬五千圓ハ産業基立金ヲ以テスル乎

答辯委員曰第一ノ問即土地買上ノ方法ハ現今ノ賣買直段ヲ參酌シテ買上ルモノナリ第二ノ問即補助金ノ申請ハ質問ノ通ナレト下賜ノ期限ハ豫定シ難シ併シ先ツ四年ニ割當下附セラレ、モノナラン第三ノ問即補助金ノ半額ハ豫算ノ半額ニシテ即三拾萬圓ナリ第四ノ問ハ即質問ノ通ニテ四箇年ニ割出スモノナリ三拾九番大澤善助曰産業基立金ハ豫メ工事ノ半額ニ充ルモノト定メタルカ現今該金ノ總計ハ何程アル乎

答辯委員曰當今現在高ハ公債証書ノ額面ニテ總計貳拾九萬六拾圓アリ此内乙號拾壹萬五千六百九拾圓丙號拾七萬四千三百七拾圓但十一月ノ利子ハ未タ收入セサルヲ以テ之ヲ算入セス且四箇年ニ支出スレハ其末年ニ至リテ乙號八千圓丙號七千七百七拾圓ヲ餘ス豫算ナリ

五十九番東枝吉兵衛曰人民カ直接資産ヲ擲ツト此産業基立金ヲ支出スルトハ自然感覺ノ異ナル所アリト雖ト主任者ハ此事業ニ對シテ此貴重ナル産業基立金ヲ以テ其ノ資本ニ供用セントスル目的ハ如何

答辯委員曰恩賜金ヲ以テ此地衰運挽回ノ爲メ使用スルハ適當ノモノト信ス是レ之ヲ協議費ニ負擔セシメスシテ基立金ヲ使用セント欲スル所以ナリ三十八番富田半兵衛曰水路ノ内船ノ往來スヘキ箇所ハ何所ナルヤ又小川頭ハ往々人家ヲ取拂ハシムル見込ナル乎

答辯委員曰通船ノ本路ハ鴨川ニ沿フテ東高瀬ヲ伏見へ又一方ハ鴨川ノ西ヨリ小川堀川ヲ下リテ西九條ニ至リ同所ヨリ東高瀬ニ合シ同シク伏見ニ達ス而シテ小川頭ノ人家ハ大体官地拜借人カ多キ故何時ニテモ取拂ハシムルハ容易ナレト可成ハ現今ノ河幅ヲ其儘ニシテ強テ人家ハ取除カサル積リナリ五十四番木村與三郎曰此事業ハ工業製作ニ便ナルトハ承知セシカ關ク所ニ據レハ淀川ノ船賃ト瀛車ノ賃金トヲ比較スルニ船賃ノ方不廉ナルヲ以テ多クハ瀛車



ニテ貨物ヲ運送スト然ルニ今日既ニ京津間ノ鐵路開ケ運輸自在ナルニ矢張主任者ハ運河ノ便ヲ取ラントスル乎

答辯委員曰京津間運賃ノ下ヲ取調シニ拾貫目ニ付平均漚車ニテ三錢八厘運河ニテ貳錢貳厘ナレハ既ニ壹錢貳厘ノ差アリ然ルニ此廉價ノ舟運ヲ藉ラスシテ高價ノ漚車ニ依ルモノハ經濟ノ密ナラサルヨリ起ルモノナラン

五十四番木村與三郎曰斯ク琵琶湖ノ水ヲ疏通スルモ阿區ノ井水ニハ少シモ障礙ナキヤ

答辯委員曰障礙ハ更ニアラサルナリ

四十一番栗山敬親曰往古ヨリ此地ニハ京染トテ井泉ヲ以テ最上ノ染色ヲ出シ他國ニ比類ナキ名産アリ又鴨河晒トテ當地ノ水ハ大ニ賞揚セラル、モノナリ然ルニ今湖水ヲ疏通スルハ是等ノ物産ニ障礙ヲ來スノ憂ハナキヤ

答辯委員曰若シ障礙アルハ下加茂落合ノ北ニ於テナセハ更ニ差支ナキナリ五十二番井上松兵衛曰運河ノ線路ヲ松ヶ崎ニ迂回セシハ土地ノ勾配ニ因テ不得已爲セシヤ將テ便利上ヨリ然セシヤ

答辯委員曰線路ノ迂回ハ勾配ニ因テ然カセシナリ湖水面ヨリ高低ヲ測ルニ三條大橋ニテ低キト四拾貳尺餘出町ニテ百三尺出町ヨリ千貳百間北ニ進メハ地勢漸ク高キト四拾七尺貳寸從テ流水ノ速力モ稍緩ニシテ大約高瀬川ノ速力ト同様

ナレハ尤モ通船ニ便ナリ其他早田ノ灌養ニモ供スル爲メ斯ク迂回セシナリ

三十七番中嶋源次郎曰專有ノ特許ヲ得ルハ在來ノ東高瀬川モ共ニ專有ノ權アル乎

答辯委員曰東高瀬川モ專有ノ内ニアレハ其專有ノ權ハ獨リ水ノミニテ河ニハ及ハサルナリ

五十三番大塚文治曰此豫算通ニテ工事成セハ可ナルヘキモ但書ニ増減云々ノ事モアリ且千四百間ノ隧道ニ僅カ煉瓦二百間ヲ積ム如キ豫算ハ少シク危懼ナキ能ハス萬一豫算ニ多分ノ差違ヲ生スルヲアラハ甚々遺憾ナリ

四十一番栗山敬親曰抑此工事ハ萬代不易ノ大美舉ト謂フヘシ今日京都ノ景況ヲ觀ルニ漸次北方ヨリ衰微シ西陣ノ如キハ既ニ大疲弊ヲ顯出セリ若此儘ニシテ回復シ策ヲ講セズンハ遠カラスシテ奈良舊都ノ故轍ヲ蹈ムトアルヲ恐ル今此工事

ヲ起スハ實ニ時機ヲ得タリト謂フヘシ又補助金ノ如キモ今日之ヲ請願セスシテ茲葛廿三年ニモ至リナハ或ハ事甚々難カラシテ一日モ早ク着手スルハ第一ノ得策ナリ本員ハ深ク信ス京都ノ衰運ヲ挽回スルハ此工事ヲ措テ決シテ他ニ之ヲ

モテテ  
三十五番西堀徳二郎曰此起工ハ此地ニ對シテハ無限ノ美舉ニシテ其ノ利益ヲ豫想スルハ一日モ早ク着手センコトヲ希望ス



議長莊林維英ハ一次會ノ可否決ハ之ヲ明日ニ延スヘキ旨ヲ告ケ本日ノ會ヲ閉ツ  
 十一月十七日議長莊林維英ハ昨日ノ議事ヲ繼續スヘキ旨ヲ陳告ス  
 五十九番東枝吉兵衛曰此工事ハ果シテ兩區人民ニ公益アルヤ否又經費ハ區民ノ  
 力ニ耐ルヤ否ニ付今一回ノ説明ヲ望ム何トナレハ本事業ハ將來必此地ノ繁榮ヲ  
 振起スルノ一大基礎ナリト雖モ眼前ニ利ヲ得ルモノハ獨リ運搬ノ便ノミ其他ハ  
 概シテ將來無形ノ利ナリ而シテ京都人民ノ氣力ハ進取ニ乏シク守成ニ足ルハ一  
 般ノ通慣ナリ然ルニ此工事ヲ以テ京都ノ衰運ヲ挽回スルトハ少シク解スル能ハ  
 サルナリ既ニ桂川ノ水利アルモ之ヲ利用スルモノハ僅カニ梅津ノ製紙場一箇所  
 アルノミ併シ數十年ノ後ニ至ラハ里昂ノ如キ有様ヲ現出スルヤモ知ルヘカラサ  
 ルモ今日ノ景況ヲ以テ推測スレハ難キモノト謂ハサルヲ得ス且水利ニ因テ精米  
 機械ノ如キハ増加スヘキモ若シ彼我競争シテ工場ヲ設置スル氣力ナク唯流水ヲ  
 觀望シテ居ナハ必他府縣ヨリ來テ工場ヲ設置スルナラン成程況ク觀察ヲ下セハ  
 國益ヲ増進スル一段ニ至テハ敢テ不可ナキカ如シト雖モ起工趣意書ニ依レハ專  
 ラ京都ノ繁榮ヲ圖ルモノニシテ則一地方ノ公益ヲ起スニ在リ故ニ區民ハ巨萬ノ  
 共有金ヲ擲テ此土功ヲ起スモ若シ成功ノ日ニ至テ因循苟且依然舊慣ヲ更メス  
 ハ恰モ自己ノ財産ヲ擲テ隣家ヲ富マシムルト一般ナリ且豫算額ハ充分ノ調査ヲ  
 遂ケシモノト信スレモ其見込ニ反シ不幸ニモ猶巨額ノ費用ヲ要スルカ如キトア

トハ如何スヘキヤ

答辯委員曰只今ノ問ハ昨日來既ニ答辯セシ如ク京都ノ衰運ヲ挽回センニハ工業  
 ヲ振作スルヨリ外更ニ術ヲシ而シテ工業ヲ盛ナラシメンニハ孰レモ機械ノ作用  
 ニ賴ラサルヲ得ス機械ノ作用ハ尤モ水火ノ力ヲ要ス然レモ火力ハ巨額ノ費用ヲ  
 要シ水力ニ賴ルハ經費僅少ニシテ其得失ハ故テ委員ノ言ヲ俟ダスシテ明ナリ  
 且商工業ノ事ハ今日ヨリ充分ノ獎勵充分ノ誘導ヲナスヲ以テ區民爭フテ水利ヲ  
 利用スルハ勿論ナリ猶近來東京或ハ他府縣人ヨリ水利ヲ假ラントテ依賴シ來ル  
 モノアレモ到底是等ノ人ニ任スコトハ出來サルナリ依テ益工業ヲ擴張シテ以テ起  
 功ノ趣旨ニ反セシメサル様獎勵スルハ充分委員ノ見込ニアリ第二豫算ノ問ハ實  
 地ノ經歷ニ徴シテ取調ヘシモノ故豫算額ヨリ増加スル如キ憂ハ決シテナキナリ  
 四十一番栗山敬親曰本員ハ聊カ所見ヲ異ニス此迄ハ區民カ因循シテ此工事ヲ企  
 望セサリシモ今此舊習ヲ一洗シテ進取ノ氣象ヲ發シタルハ實ニ好機會ト云フヘ  
 シ然ルニ民度ニ適セス民力ニ堪ヘス假令起工スルモ精米位ノ利ナリト云フモノ  
 アレモ決シテ然ラヌ此工事落成セハ水利ヲ活用シテ各種ノ工場ヲ設置スルハ今  
 ヨリ期シテ疑ハサル所ナリ然ルニ時尙早シトテ荏苒此好時機ヲ失スルハ遂ニ  
 臍臍ノ悔アラン京都今日ノ形勢ハ宛モ衰弱セシ病者ノ如シ早ク良醫ヲ求メテ投  
 藥セサレハ長逝復歸ラサルノ悲嘆アラン本員ハ飽マテ原案ヲ賛成ス



拾番中村榮助曰一次會ハ原案ヲ賛成ス併シ輕々ニ賛成スルニ非ス茲ニ尤モ注意スヘキハ第一工事ノ難易成功ノ結果第二經費ノ變動ニヨリテ豫算額ニ超過スルコト是ナリ然レモ從來ハ充分ノ研究ヲモナサス唯難事トシテ放棄セシモ今日學術漸ク進ミタルハ此學理上ヨリ觀察スルハ工事ノ難易經費ノ豫算ハ其ノ實地ト大差ナキハ万々信ツテ疑ハサルナリ且此土功タルヤ寔ニ美譽ニシテ今日ノ急務ナリ然ルニ或ハ區民進度ノ適否ヲ以テ論セラルレモ此ノ如キ須要ノ事業ヲ起スニ當リ何爲ソ區民ノ進度ヲ俟ツヘキ理アラザヤ

四十六番古川爲三郎曰只今四十一番ノ説ヲ聞クニ此工事落成セハ安坐シテ利ヲ得ラル、様ナレモ左様ノコトハ決シテ望ム可ラス若シ原案ニ可決セハ彌進テ工事上ニ一層ノ力ヲ盡シ水利ヲ活用スヘシ依テ希クハ諸君ト心ヲ共ニシ方ヲ合セ區民ヲ嚮導者トナリ我京都ノ衰替ヲ挽回センコトヲ努ムヘケン依テ原案ヲ賛成ス

五十九番東枝吉兵衛曰本員モ固ヨリ起工ハ望ム所ナレモ區民カ自ラ進テ起工ノ念ヲ生シタルモノナレハ甚美ナレモ此事タルヤ元來府知事ノ計畫ニ出タルモノニシテ必竟區民ハ其ノ誘導ニヨリ之ニ同意ヲ表セントスルモノナリ且原案賛成者ニモ種々ノ分子アリテ或ハ依頼心モアリ或ハ經費ノ直接關係ナキ故賛成セシモノモアラシク或ハ水利スラ起ラハ坐シテ利ヲ得ル如キ説モアレモ果シテ起工スル以上ハ確乎不板ノ氣象ナクンハ決シテ竣事スルコト能ハサラシク唯府知事ノ計畫

故萬々失錯アルマシ杯ノ依頼心ヨリ原案ヲ賛成スル如キ精神ニテハ本員ハ俱ニ與ニ同意ヲ表スルコト能ハサルナリ

答辯委員曰五十九番ノ疑問ニ對シテハ再三陳辯セシ如ク此事業ハ卒然ノ計畫ニ非ス實ニ四五年前ヨリ考究セシ所ニシテ又區民ノ進度ニ適スル乎否ハ一々之ヲ區民ニ質スコトヲ得サル故曩日商工業其他名望アル人即區民ノ意向ヲ代表セシムルニ足ルヘキモノヲ招集シ以テ勸業諮問會ヲ開キ此事業ノ適否ヲ諮詢セシニ全會一致起工ヲ可トセリ是ヲ以テ此事業ハ充分區民ノ進度ニ適セシモノナルコトヲ確信シ此ニ本會ヲ開キ所以ナリ

五十九番東枝吉兵衛曰始メテ了解セリ一次會ハ原案ヲ賛成ス

五十二番井上松兵衛曰抑此舉ハ明治ノ今日ニ始マリシニ非ス遠ク徳川ノ頃ヨリ既ニ計畫セシモ當時ハ未ダ斯ノ如キ緻密ノ測量ヲナス人ナク唯難事トシテ遂ニ願ミサリシカ其ノ後前知事モ亦計畫スル所アリ是モ充分ノ測量ヲ果サスシテ止ミヌ而シテ今日斯ク精細緻密ノ測量成ルハ實ニ稱賛ニ堪ヘサルナリ故ニ原案ヲ

賛成ス

三十九番大澤善助曰元來工業者アリテ後水ヲ疏通スレハ萬々都合ナレモ概シテ事業ハ先ニ成ルモノニ非ス譬ヘハ借人ヲ待テ貸家ヲ建ツルニ非ス貸家アリテ借人來ルモノナレハ先ツ新川ヲ開鑿シ而シテ後工業者ノ聚ルハ自然ノ理ナリ敢テ



掛念スルニ及ハス且ツ工事ハ速ニ成功スルモノト信ス  
議長ハ既ニ論議盡キマリト認メ原案ノ總体ヲ可トスルモノヲ起立セシメシニ起  
立者全員續テ第二次會第三次會ヲ開キシニ孰レモ異議ナク原案ニ確定セシヲ以  
テ議定書ヲ上下京兩區長ニ呈ス

今般本會ニ發附相成候琵琶湖新川開鑿事業方法議案總テ原案ノ通全會ノ意見  
ニ依リ評決致候條此段及具申候也

明治十六年十一月十七日

上下京聯合區會議長 莊林維英

上京區長 杉浦利貞殿

下京區長 竹村藤兵衛殿

上下京兩區長ハ乃チ議會評決ノ旨ヲ上申ス

今般番外五百五十三御達ニ基キ琵琶湖新川開鑿及市中川筋改修方法議案ヲ以  
テ上下京聯合區會ニ附議仕候處原案ノ通決了仕候旨同會議長ヨリ別紙ノ通申  
出候就テハ施行順序ノ儀府廳ニ於テ可然御處分被成下度此段併テ上申仕候也  
明治十六年十一月十七日

上京區長 杉浦利貞

下京區長 竹村藤兵衛

京都府知事 北垣國道殿

同月十九日府知事ハ既ニ勸業諮問會ノ答議及上下京聯合區會ノ評決ヲ得タルヲ

明治十七年

東上委員  
撰舉

以テ之ヲ政府ニ請願セシカ爲メ東上ス

明治十七年一月十三日內務省准奏任御用係田邊儀三郎疏水工事取調ノ爲メ來京

同年二月廿三日上下京兩區長ハ臨時聯合區會開會ノ旨ヲ上申ス

琵琶湖疏水事業ニ付上下京聯合區會議員中兩三名東上委員ヲ撰ミ其筋ノ事狀  
具申爲致度旨同會議員半數以上連署ヲ以テ建議仕候ニ付別紙議案ヲ以テ本日  
上京區第三十一組下丸屋町商工會議所ニ於テ聯合區會相關候ニ付此段及上申  
候也

明治十七年二月廿三日

上京區長 杉浦利貞

下京區長 竹村藤兵衛

京都府知事 北垣國道殿

同日上下京聯合區會ハ議員中村榮助全古川吉兵衛ヲ公撰シテ疏水東上委員トナ  
ス同日勸業諮問會員モ亦集會シテ東上委員兩名ヲ撰舉ス濱岡光哲高木文平其撰  
ニ當ル

同月廿六日府知事東上ス

同年三月七日三等屬片山正中七等屬丹羽圭介ヲ滋賀縣ニ差ハシ疏水事業ノ爲メ  
利害ヲ諮問スル該縣勸業諮問會ヲ傍聽セシム

傍聽筆記ハ  
全誌ニ載ス



起功特許

琵琶湖疏水起功伺

同年五月五日琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起功ノ爲メ始メテ主務省へ左ノ伺書ヲ呈ス

號外第八號

琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起功ノ儀ニ付伺

京都ノ地タル延曆ノ朝

神寶ヲ此ニ移算在ラセラレシ以來千有餘年ノ久シキ五畿七道ノ首府トナリ御歴代御陵墓ハ勿論御由緒深キ大社巨刹洛ノ内外ニ森列シ宏壯偉觀自カラ土地ノ韻致ヲ加ヘ

神聖ノ遺風前哲ノ舊蹟咫尺ノ間ニ歷々マリ實ニ千歳ノ活歴史ト謂可シ是以テ内國臣民ノ此地ヲ景慕スルヲ其父母ノ國ヲ懷フカ如シ管ニ内國臣民ノミナラス外國賓客來テ此地ヲ欣賞シ風關ノ盛觀ヲ拜シ又風俗ノ淳厚ヲ感歎スルモノ陸續踵ヲ接ス故ニ此地ノ盛衰ハ獨リ全國人心ノ向背ニ係ルノミナラス外國ニ對シ國光ノ如何ニ關ス可シ是故ニ假令時勢ノ變ニ因リ皇居ハ東京ニ御遷移アラセラレ候ニ此平安京ヲ永久ニ維持シ土地ノ繁盛ヲ潤色シ以テ益全國臣民景慕ノ心ヲ振起セシメ苟モ一ヌヒ此地ニ遊ヒ此勝境ヲ觀ハ肅然往事ヲ追懷シ我國ノ萬邦ニ卓

越タル所以ヲ感悟シ國体ヲ誤ル者ナキニ至ラシムルモノ方今國家ノ一要事件ニシテ其忽ニスヘカラサルハ國道ノ信シテ疑ハサル所ニ有之曾テ赴任以來維持保存ノ方法ヲ按スルニ其策一ニシテ足ラスト雖此地元來水利ニ乏シク年々井水ノ涸渴スルモノ十ノ四五日用ノ飲水ニ困ムト冬夏概テ然リ偶客年ノ如キ大旱魃ニ遭フハ水ヲ求メ雨ヲ請ヒ困頓至ラサルナシ又祝融ノ災ニ罹ルカ如キニ至テハ殆ト防禦ノ手段ニ盡キ空シク延燒ヲ待ツノ外無之元治甲子ノ年兵火ノ時ノ如キ是其近例ナリ其他巨利ノ灰燼ニ歸シ看古蹟ヲ損シ帝都ノ美觀ヲ傷スルト往々之レアリ此帝都ニシテ此憂アルハ洵ニ寢食ノ安カラサル義ニ有之且此地古來工業製作ヲ以テ生産ヲ立ツルニモ機械ヲ運轉スルノ水利ナキヲ以テ工業ノ改良製作ノ進歩ヲ圖ルニ至ラズ一ニ奮然率先工業ヲ設ケ火力ヲ假リ以テ機械ヲ運轉セシムル者アルモ其石炭ハ皆之ヲ神戸大阪ニ仰カサルヲ得ス此運費少ナカラサルヲ以テ到底收支相償フニ至ラス爲メニ半途工場ヲ鎖スニ至ル是ニ因テ之ヲ觀レハ水利講修ノ術尤緊要ニ有之然ルニ幸ニ接近ノ地琵琶湖ノ疏通スヘキモノアルヲ以テ豫メ新川開鑿ノ調査ニ着手シ今般其工事計畫相整ヒ乃府下ノ名望アル資産家五拾名ヲ撰ミ勸業諮問會ヲ開キ該工事ノ可否諮問ノ末全會ノ賛成答議ヲ得ヌリ因テ其旨ニヨリ上下京區長ニ命シ上下兩京聯合區會ヲ開キ新川開鑿舊川改修及費用支辨ノ方法ヲ議定セシメ候處亦異議ナク可決シ該費金ノ半額三拾萬圓



ナ右兩區内ニ於テ負擔スルコト相成候抑此事業ヲシテ上下兩京區ノ負擔トシ討  
議セシメタルハ此水利ニ據テ工業ノ機械ヲ設置シ舟楫ノ便ヲ開キ其他田畑ノ灌  
漑ニ火災ノ防禦ニ井水及衛生上等大ニ諸般ノ公益ヲ起シ前ニ所謂京都ノ繁盛ヲ  
潤色スルノ手段ニ有之内ハ萬民景慕ノ心ヲ與シテ以テ淳厚ノ俗ヲ保テ外ハ外賓  
愛敬ノ意ヲ慰メ以テ神州ノ光華ヲ輝スヘシ然ルハ府民ノ福祉焉ヨリ大ナルハ  
ナシ則聯合區會モ亦此精神ヲ以テ速カニ前段ノ評決ヲナセリ實ニ此起功ノ將來  
京都ノ盛衰ニ係ル重大ナルヲ以テ府民ノ此舉ヲ奮進熱望スル意思ノ外ニ出テ恰  
モ趣向機會ノ相投スルノ狀勸業諮問會及聯合區會ノ答議評決ニ因テ明了致シ候  
右等ノ情狀篤ク御洞察特別ノ御詮議ヲ以テ左ノ項々宜敷速ニ御指令相成度候

- 一琵琶湖水ヲ京都ニ疏通スルノ土功ヲ起シ其水利ヲ上下京區ノ共用トスル事
- 一川床及堤防敷地并ニ附屬地等官有ニ係ルモノハ無借地料貸渡ノ事
- 一同民有ニ係ルモノ買上ノ時ハ公用土地買上規則ニ準スル事
- 一川床及堤防敷地ニ屬スル土地ハ國稅免除ノ事
- 一此工事經費豫算六拾萬圓ニシテ其半額三拾萬圓ハ前ニ陳述ノ通上下京區内ニ  
於テ負擔シ其半額三拾萬圓ノ中拾五萬圓ハ一昨年四月大藏卿へ御届致候當府  
限取扱金ノ儀ハ素々勸業基立トシテ借入セシ資本運轉上等ヨリ成立セルモノ  
ナルニ付之ヲ以テ補助シ尙不足金拾五萬圓ハ前陳ノ通り千有餘年ノ帝都内外

人民ノ景慕セル勝地ヲ永久維持保有シ大政上裨益鮮ナカラサルノ大土功ナル  
ニ由リ特別ヲ以テ三ヶ年間ニ國庫ヨリ御補助相成度候

一此工事ナル何分稀有ノ大土功ニシテ事業ノ繁雜ナル素ヨリ尋常工事ノ比ニア  
ラス到底實地ノ經驗ニ富ミ工事ニ熟達セル者ヲ以テ擔當セシメサレハ能ハサ  
ル儀ニ付府廳内ニ特ニ該事務取扱ノ一局ヲ設ケ熟達ノ者ヲ撰任シ專ラ之ニ從  
事セシメ御主省ノ監督ヲ得テ萬事府廳ニ於テ擔任取扱致度候事

右之通相成候ハ、京都維持上ニ付テハ申迄モ無之其忠厚ノ風俗ヲ振起スルノ功  
益ニ於テモ亦淺勘ナラサル儀ニ存候就テハ主任ノ者東上爲致居候間水利計畫ノ  
如何ハ別冊ニ就キ御調査御不審ノ廉ハ右主任へ御質問ノ上第一項ノ趣御特許併  
セテ第二項第三項以下ノ御詮議相成度公益中著明ノ件々別紙調書御參考ノ爲メ  
相添此段相伺候也

明治十七年五月五日

京都府知事北垣國道

内務 卿山縣有朋殿  
大藏 卿松方正義殿  
農商務卿西郷從道殿

別紙

琵琶湖ヨリ京都へ達スルノ疏水工事竣功ノ後得ル所ノ利益枚舉スルニ違アラス



ト雖其最モ著シク算出ノナシ易キモノヲ概記シ御參考ノ爲メ掲載致候  
一金拾貳萬圓

此譯水カヲ以テ機械運轉ノ用ニ供スルモノ凡ソ六百馬力餘ヲ有ス今石炭ヲ使  
用シ此馬力ヲ得ント欲スレハ一馬力ニ付一箇年凡ソ金貳百圓ヲ費消スルニ至  
ル此六百馬力分ヲ公益トシ積算スルト如此  
一金九萬七千圓

此譯同上運河ニ關係スル所山城國宇治紀伊愛宕葛野郡中本年ノ如キ稀有ノ旱  
魃ハ之ヲ算外ニ措キ平年ヲ以テ統計スルニ右四郡中旱損ニ罹ル田畑凡ソ千貳  
百四拾七町餘アリ此收穫九千七百餘石ヨリ現收スル能ハス今運河ノ分水ヲ以  
テ灌溉ヲ充分ナラシメハ普通耕田トナリ貳萬五千九百餘石ヲ得ヘク此増獲壹  
萬六千貳百石ヲ假リニ五箇年平均ノ米價壹石六圓ト見積リ公益ヲ算出スル  
如此  
一金八萬圓

此譯舊來三條街道一箇年平均ノ物貨輸出入運賃總額金拾壹萬六千圓ニシテ此  
量目千四百貳拾萬四千貫タリ今新運河ニ依リ通船ヲ以テ運送スルトキハ即チ  
左表ノ如シ

舊來一箇年	此運賃牛馬人負	同上上下平均	新運河船賃上	上項ノ實額ヲ以テ初 頭千四百廿萬四千貫 目ヲ運送スル高
運送量目	車運等總計	拾貫目ニ付	下平均拾貫ニ付	
千四百廿萬四千貫目	拾壹萬六千圓	八錢壹厘六毛六	貳錢五厘三毛五	三萬六千圓

差引舊來ノ實額ヨリ減スルモノ八萬餘圓ナリ之レ即運河ノ公益タルニヨリ  
算出スルト如此

右ハ利益ノ最著明ナルモノニシテ此他精米水車目下最寄ノ白敷ニヨリ精磨スル  
モノヲ調査セシニ一箇年貳拾五萬石ニ過キス京都ノ人口ニ費消スル所凡五拾萬  
石ニ近シ現今水車ヲ以テスル漸ク其半數ニシテ殘半數タル他國ヨリ白米ノ輸入  
ニ係ルト自家ノ足踏トノニアルノミ其努力及賃金ハ之チ水車ニ比較スレハ甚廉  
ナラス疏水工事ノ成ルニ當リ猶陸續精米水車ヲ設置スルモノアルヲ信ス此公益  
概算年計三萬餘圓ノ所得アルカ如シ且客年渴水ニ際シ市中井泉ノ水量ヲ測リシ  
ニ上京區内ハ渴水ノ箇所最モ多ク乾涸セシ數既ニ其半ハニ及ヘリ之レカ準備タ  
ルモ清泉ヲ環流セシムルノ外無之併テ御參考ニ供候也

同年六月廿七日右伺書ニ左ノ指令アリタリ

書面伺之趣ハ當省土木局調製ノ別紙甲乙兩通設計書ニ據リ増費并ニ將來修繕  
ニ要スル費途支辨ノ方法等取調其府聯合區會ノ議決ヲ取り更ニ伺出シ



明治十七年六月廿七日

内務卿山縣有朋

別紙

琵琶湖疏水工事設計甲乙兩通別紙進呈候也

明治十七年六月

土木局

但甲號設計書ハ單ニ京都府ノ計畫ニ基キ取調タルモノニシテ乙號設計ハ同府計畫ニ據ラズ專ラ改良ノ見込ヲ以テ取調且甲號設計中未ダ取調ヲ了ヘサル者ヲ補ヒタル者トス

京都府琵琶湖疏水工法及工費豫算京都府計畫ノ件ニ付得ル所ノ意見ヲ左ニ掲ク

右ノ計畫ニ據リ其起功ノ目的ハ之ヲ達シ得ラルヘシト雖其工法頗ル堅全ナルクモノアルヲ信スルナリ

第一隧道工事ノ如キハ唯壹百間ノ支保工ヲ施シ其他ヲ京都府ノ計畫通りニ施行スルハ恐クハ落成ヲ待タズシテ壞崩ヲ來サントナ患ルナリ好シヤ幸ニシテ無

難ニ落成スルモ數年ナラスシテ不慮ノ災害ニ遭フナキヲ保シ難シ何トナレハ京都府ニ撰定スル隧道ノ橫断面ハ石質最善ナル所ニ於テハ施シ得ヘシト雖古關

越山ノ如キ所ニハ到底行ヒ難シトス

前陳ノ如ク古關越山岩質ハ粘板石及花崗石ヨリ組成シ又南禪寺越山ハ全長粘板石ヲ貫カサルヲ得サルカ故ニ兩隧道全長トモニ煉瓦石等ヲ以テ支保工ヲ施ス見

込ニテ起工セサルヲ得ス

抑粘板石質ニ硬軟ノ差アリト雖何レモ水脈甚多クシテ隧道工ニハ最モ困難多シ既ニ逢阪山鐵道開鑿工事モ此粘板石ヲ貫クニ當リ出水ノ患ハ幸ニシテ甚ナカ

リシモ壓力ノ強キニ堪ヘサルカ故煉瓦工ヲ施サ、ルヲ得サリシナリ

又江州柳ヶ瀬山隧道モ石質ハ古關越山等ト同質ニシテ悉ク粘板石ナリシカ故岩石ノ壓力ニ堪ヘス地水モ多ク工事上甚困難ナリシ柳ヶ瀬山隧道ノ幅ハ疏水路隧

道ト同ク拾七尺ナリ穹窿ノ厚サ平均壹尺五寸ナリシト雖花崗石ノ壓勢最強ニシテ厚サ貳尺ノ穹窿ヲ要セシ所モアリシ

此度新水路ヲ貫カントスル古關越山ハ中ニ花崗石ノ所ニ於テハ其質同性水脈ニシテ硬石ナルハ京都府ノ撰定スル工法ヲ以テ十分トシ得ルト雖是亦前以テ假

定シ得サルナリ其花崗石ノ山ノ上面ニ顯ル、ハ多クハ石質惡シキヲ以テ到底穹窿工ヲ施サ、ルヲ得サルヘキカ如キト雖其上面ノ質ノミヲ以テ論シ難ケレハ隧

道ヲ貫ク處マテ下テハ花崗石ノ質硬クシテ同性ナルモノアルモ測リ難シトス

粘板石ノ個所ハ上面ノ石質ニ據レハ硬クシテダイナマイトヲ以テ爆發スルニハ多ク費用ヲ要スト雖花崗石ナルカ故ニ解落シ易ク到底穹窿工ヲ施サ、ルヲ得ス

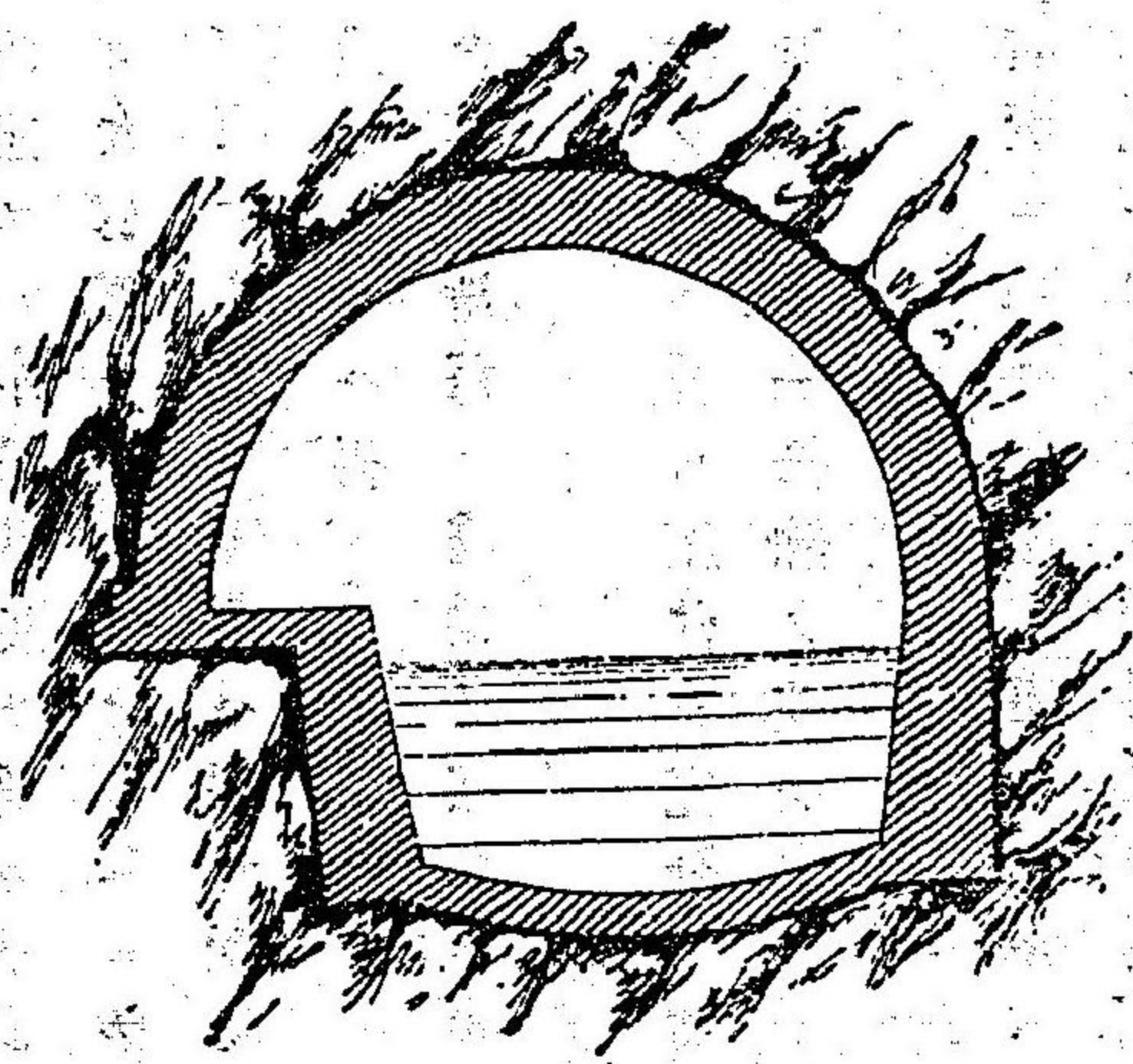
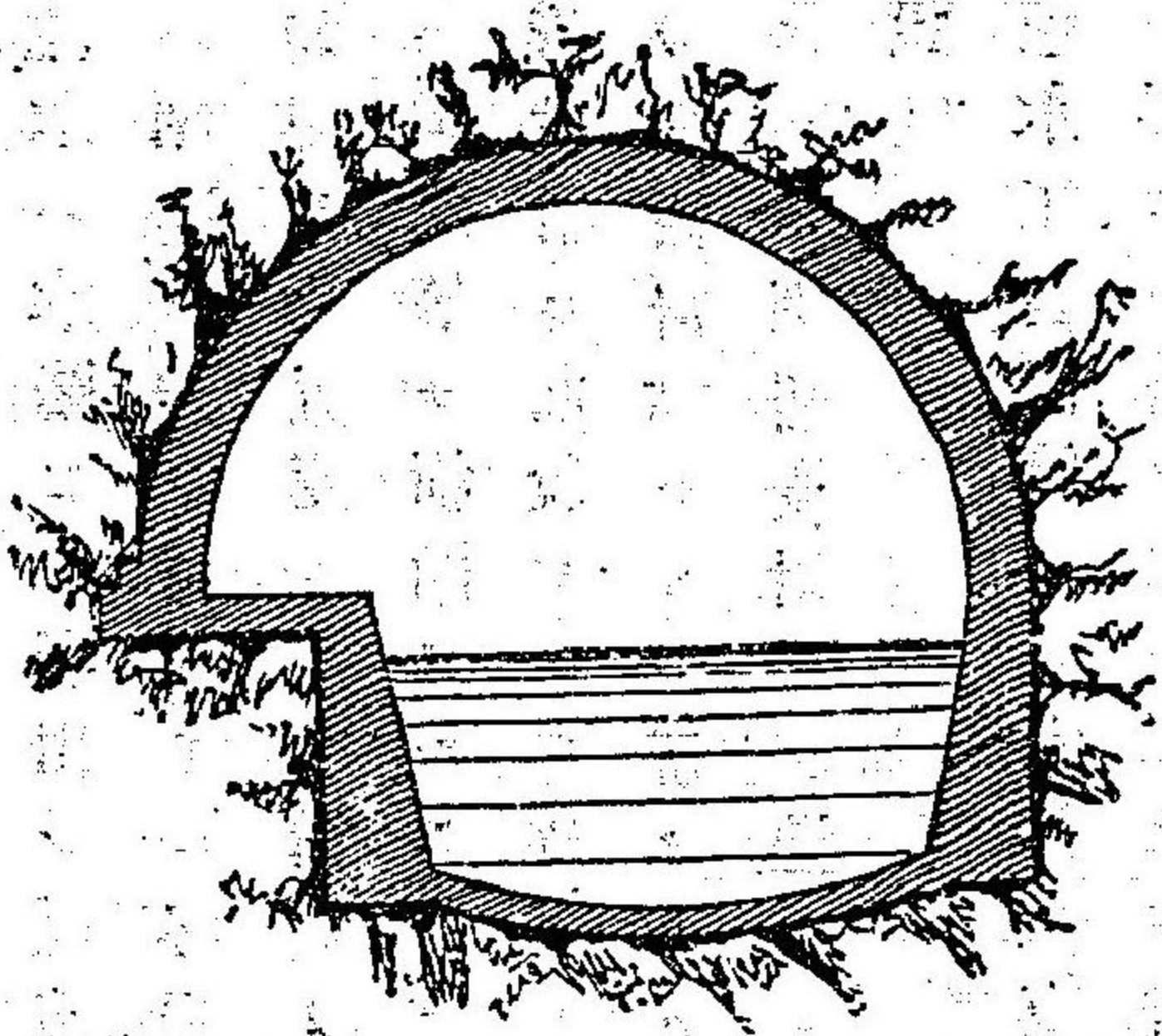
隧道工ニハ不適當ナル岩石ナリ加之古關越谷ヲ負ヒ其ノ谷水ハ粘板石ノ脈

ヲ追ヒ岩ヲ橫斷スルカ故ニ此ノ岩石ヲ貫クニ至リ其地水ノ爲メ工事ノ困難甚

疏水要誌 ○起功特許



シカルヘシ  
 古關越ノ隧道ハ右陳述ノ如ク到底延長百間ノ穹窿工ノミニテ十分トナシ難キニ依リ全長トモニ煉瓦工ヲ施スヲ以テ目的トセサルヲ得ス尤モ四百間花崗石ノ分ハ海キ穹窿工ヲ施スモノトス  
 南禪寺ノ隧道モ同ク全長トモニ粘板石ナルカ故ニ京都府ノ見込全長五百三拾五間ノ内貳百間丈煉瓦石ヲ以テ支保工ヲ施スノミニテハ十分トセス全長トモ穹窿工ヲ施行スヘシ兩隧道トモニ上ニ岩石ノ壓力ヲ支フル穹窿ヲ要スルノミナラス水路ノ床及兩岸モ水流ニ抵抗シ得ル爲メ煉瓦ヲ以テ卷カサルヲ得サルナリ如何トナレハ隧道中ノ水流速力一秒時間四尺餘ニシテ是レ軟質粘板石兩岸河床ハ穹窿ヲ支保シ岩石ノ壓力ヲ穹窿ヨリ下ノ岩石ニ傳ル者ナルカ故ニ其裝置堅固ナル様注意セサルヘカラス故ニ床ハ敷石ヲ以テシ兩岸ハ側壁ヲ以テ水勢ニ抵抗シ得ル様構造スヘシ  
 右ノ理由ニ付得ル所ノ隧道横断面左ノ如シ



隧道開鑿ノ積面貳百九拾五立方尺

粘土石之分

穹窿積面四拾三平方尺五七

側壁積面貳拾六平方尺四五

下穹窿敷石積面五平方尺

隧道工ノ外京都府ノ計畫ニ對シテ難スル件ハ第一ニ疏水路水流ノ速力ナリ此レ

花崗石之分

穹窿積面三拾壹平方尺二五

側壁積面貳拾壹平方尺

下穹窿敷石積面五平方尺



川床ノ水ニ洗ハレ破壊スル患ヲ有スルノミナラズ隨テ修繕費ヲ増加シ要セサル  
ヲ得サルカ故ニ其川床ニ低下ヲ防クニハ捨石ヲ以テシ其工法ノ堅全ヲ欠ク所ヲ  
補フモノトス

疏水工事ノ如ク一定水量ヲ保シムヘキ水路ニ於テハ兩側ニ惡水溝ヲ通セサル  
ヲ得ズ是亦此ノ側溝ヲ脱漏シタルハ京都府計畫ノ不十分ナル所ナリ

前陳ノ通リ新水路ハ處々山ノ斜面ヲ追ヒ山麓ヨリ八拾尺モ高キニ居ル所アリ  
ノ如キ個所ニ於テ他ヨリ流入スル爲メニ流過スル水量其度ヲ過キサル様注意セ  
サレハ流水ハ水路ヨリ溢出シ堤防ヲ破壊シ大水害ヲ醸ス丁アルヘシ依テ運河ノ  
爲メニハ側溝ヲ避ク可ラサル必用ノ附屬工事ナリ尤モ側溝ハ深サ壹尺床幅壹尺

兩岸ノ勾配四拾五度トシ其溝渠ノ兩側ニ設ケサルヲ得ス  
新水路ハ道路等ヲ横斷スル丁屢ナルヲ以テ其個所毎ニ橋梁ヲ架セサルヲ得ス是  
亦京都府設計ニ漏脱シタル所ナリ

右ノ如ク原設計盡サ、ル所アルカ故ニ其次ノ所ヲ補ヒ工法ヲ完全シ新ニ其工費  
ヲ概算スルニ別冊概計書ノ通ニシテ京都府豫算ト一倍餘ノ差ヲ生スルニ至レリ  
概算説明

琵琶湖疏水工費概算ハ其大体ハ京都府ノ計畫ニ基キ隧道工事ノ如キハ其堅固ナ  
ラントテ要スル爲メ煉瓦工ヲ設計シ併テ側溝道路木橋等不得已附屬工事ノ計算

ヲ立タルモノニシテ新水路即チ琵琶湖大津三保崎ヨリ西京小川頭迄開鑿工事ニ  
係ル費額ノミヲ舉ルモノトス故ニ田地灌溉ヲ始メ水車其他製造所等ニ供スヘキ  
用水路引入口等ノ費用及小川堀川筋改良工及堀川東高瀬兩川間横運河等ノ費ハ

都天ニテ除キ單ニ京都府ノ豫算書中ハ唯新水路開鑿工費ノミナラス其他小川堀  
川筋改良工事ニ要スル閘門等ノ費額モ算セシモノナルカ故ニ該概算ハ京都府以  
豫算書トハ符合セサルナリ

隧道工費ハ今年四月初ニ落成セシ柳ヶ瀬山隧道工費ニ基キ開掘費中粘板石ノ分  
ハ一立方尺ニ付拾五錢花崗石ノ分貳拾錢ト算セシ者ニシテ其内ダイナマイト導  
火等都天附屬品ヲ含ミタル者ニ付乃チ一方尺開掘セシ個所モアリト雖モ如斯處

ニハ地水多キカ爲メ工事ニ困難甚シク地水及岩石壓勢防禦ノ爲メ巨多ノ工費増  
額ヲ要セリ又石質硬キ所ニ於テハ一立方尺貳拾五錢ヲ費セシ丁屢アリシ

古關越隧道ノ内花崗石ノ分四百間ハ一立方尺開鑿費貳拾錢其他九百間ハ一立方  
尺ニ付拾五錢又南禪寺越隧道開掘費ハ都天一立方尺ニ付拾五錢ト見積リシナリ

第一隧道ノ内西九百間ハ水下ヨリ東四百間ハ水上ヨリ掘鑿スル者ト假定スル  
ハ大津方ノ工事ハ滯水ノ爲メニ困難ヲ加フルト雖モ水路ノ勾配緩ナルカ故ニ汲  
水器水車等ヲ以テ之ニ勝フヘキヲ信ス新水路ノ勾配一間ニ付三厘五毛四ナルカ

故ニ汲水極度ノ高直壹尺四寸ナリ東西工事共ニ土砂運送距離平均六百間ト



スル特ハ輕便ナル運送鐵道ニ因テ運送スルト見做シ壹坪ノ土砂運送賃貳圓ト積  
 レリ尤モ岩石壹坪ヲ開掘シ壹坪半ノ岩屑ヲ得ル見込ナリ  
 第二隧道東西折半ニシテ每二百六拾七間半ヲ開掘ト平均運送距離三百間岩屑壹  
 坪ニ付運送賃壹圓五拾錢ナリ  
 隧道ノ横断面ハ第一第二隧道トモニ粘板石ノ分ハ既ニ隧道說明中ニ載セシ第一  
 横断面ノ如シ第一隧道花崗石ノ分ハ第二横断面ノ如シ  
 煉瓦ノ形長七寸五分幅三寸五分厚サ二寸  
 モルタルノ混合ハ壹セメント三砂ノ割合  
 煉瓦壹坪ニ付穹窿ノ分壁石夫三人壹人ニ付 助工夫三人五四人ニ付  
 側壁ノ分壹坪ニ付二人八壁工夫三人四ノ助工夫ヲ要ス三拾五錢  
 煉瓦ノ代價百本ニ付壹圓セメント壹樽ニ付六圓砂壹坪ニ付三圓  
 隧道開鑿ニ付最要用ナルハ木匠ノ假支保工是ナリ開鑿工ノ進ムニ隨ヒ直ニ穹窿  
 ヲ施スハ工事ノ順序ナリト雖モ普通其運ヒニ至リ難キヨリ假ニ木匠ヲ以  
 テ岩石ノ崩落ヲ支ヘ岩石ノ壓勢甚キ處ニ於テハ木匠ノ材木ハ悉ク裂摧シ再用シ  
 得ラシサルヲ屢アリ其材木及職工費トシテ隧道長サ壹間ニ付拾五圓ヲ算ス  
 川路開鑿工費ヲ算スルニ掘割土砂ノ分ハ壹坪三拾錢岩石ノ分ハ壹坪七拾五錢築  
 立ノ分ハ三拾錢堤防ノ如キ高キ築立ノ分ハ七拾錢運送費ハ其距離貳拾間ヨリ四

百間迄ハ土砂岩屑壹坪ニ付三拾七錢五厘ヨリ壹圓五拾錢ヲ積レリ  
 道路木橋ハ上面壹坪ニ付四拾圓ニ算ス  
 水床ノ捨石ハ一坪ニ付壹圓即チ豫算中ニ敷石費ト名クル者ナリ  
 其他水路石橋隧道洞門開門高野川鴨川横堰石等ノ計算ハ主ニ京都府豫算ニ基  
 キン者ナリ  
 土砂運送鐵道ハ長サ壹間ニ付金五圓ト算セシ者ニシテ第一隧道ノ土砂運送鐵  
 道ノ全長貳千貳百間第二隧道ノ分全長七百間ト見積レリ  
 設計外ノ附屬工事  
 右疏水工事ハ其起工ノ目的ヲ達セント欲セハ左ノ附屬工事ヲ施サ、ルヲ得ス  
 一第三工事ノ内山科平地灌溉ノ爲メニ二箇所ニ於テ分流スヘキ數千間ノ用水  
 工及其分流口ニ要スル樋門工  
 二若王子村ニ於テ百四個ノ水量ヲ分流シ其水力ヲ工業ニ供スル爲メ爰ニ要ス  
 ル用水路及其引入口ノ樋門工  
 三第六工事ノ内白川太田川流域灌溉ノ爲メニ二箇所又高野川鴨川間ノ平地ニ  
 灌ク爲メニ要スル壹箇所ノ用水路工及其分流口ノ樋門工  
 四東高瀬川ヘ水量四拾六個ヲ流送スル支水路工  
 五京都市中ノ飲水ニ供スル爲メ三拾個ヲ御所用水ニ流ス分流口及御所用水路



ノ改良工

七堀川ヨリ東高瀬川へ通スル數百間ノ横運河工

右諸工事ニ要スル費額ノ概算ハ京都府ニ於テモ未ダ調出無之カ故ニ之ヲ除ク  
琵琶湖疏水工事計畫改良

水路ノ勾配

京都府計畫ノ線路ハ勾配甚々急峻ニシテ水流速度ニ秒時間四尺四寸ニ至ル所アリ之レ流水積面ノ平均速度ニシテ流水中心ニ於テハ五尺ヨリ五尺五寸ノ速度チ有スヘシ斯ノ如キ流速ニ向テハ非常ニ勞力ヲ費サレハ容易ニ曳船シ能ハサルナリ加之地質硬石ナラサル處ニ於テハ兩岸川床ハ水流ニ抵抗シ得ヌシテ凹鑿セラルレ巨多ノ修繕費ヲ要セサルヲ得サルナリ

府ノ計畫ハ西京東高瀬川ニ基キ其流水速度凡ソ四尺ナルカ故同速度チ新運河ニ用ヒ得ルト見做セシ者ナリト雖モ東高瀬川ハ深壹尺以下ナルカ故ニ其平均速度四尺チ中心速度ト見做シ得ルノミナラス航運ノ船ハ吃水僅カ四五寸ナルカ故到底高瀬川ノ比例チ以テ新水路ノ曳船ニ對スル抵抗力チ能ク量リ得サルモノナリ加之東高瀬川ハ曳船ノ爲メニ多分勞力ヲ費スカ故ニ其運送賃他ノ船運ト比較スル時ハ高價ニシテ新水路ノ如キ大工事ノ模範トスヘキ運河ニハアラサルナリ勾配チ緩ニシテ得ル所ノ利益ハ唯修繕費ヲ節儉スルノミナラス京都地ニ於テハ灌

漑ノ流域チ増シ且ツ運河ノ運送賃チ減シ得ルヘキチ信ス

新運河流水速度ハ最速四尺ヨリ急ナル處無カラシムヘシ然ルレハ流水積面平均速度ハ大凡三尺ナリ

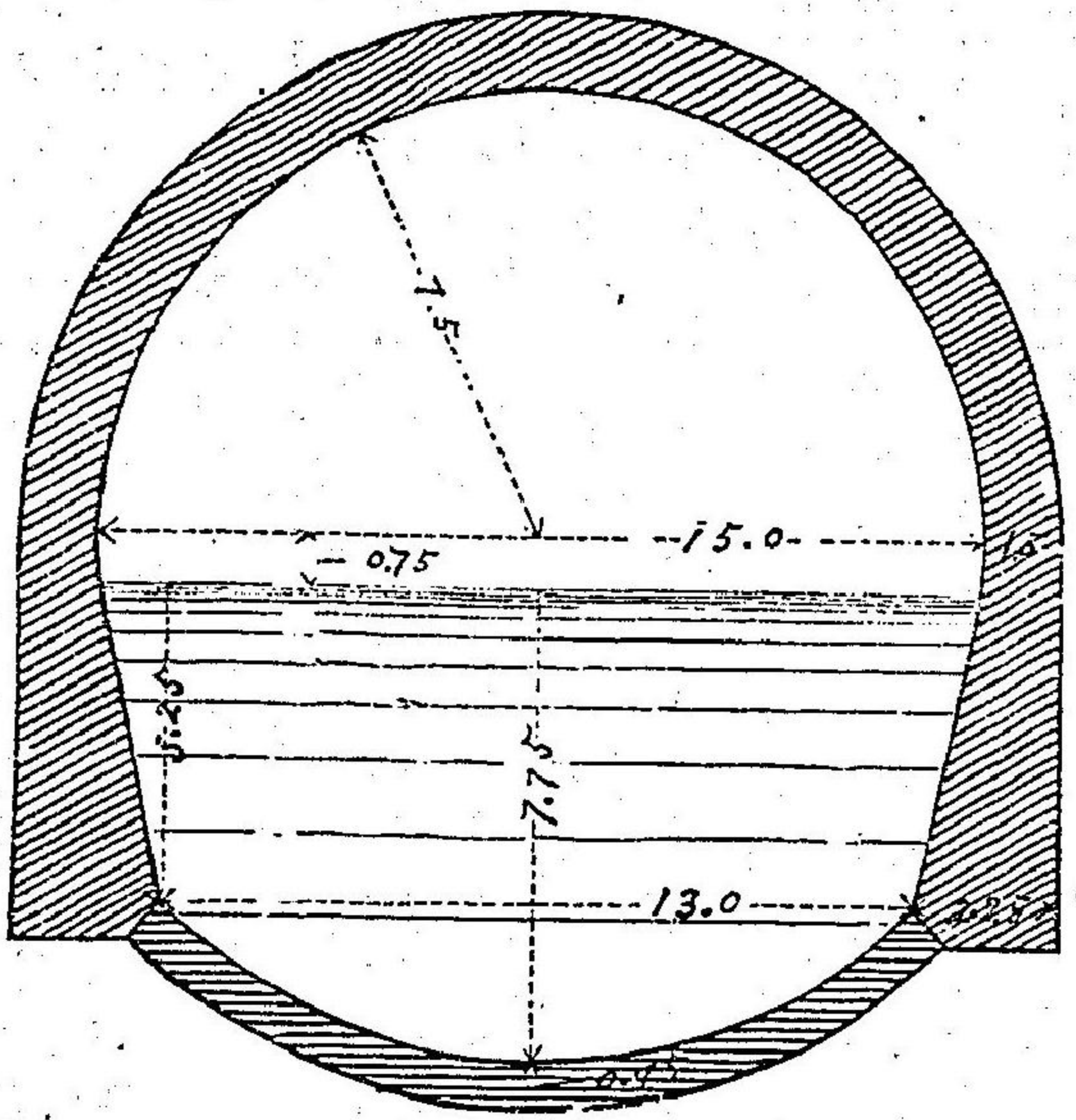
隧道ノ横断面

府ノ計畫横断面ハ粘板石等ノ隧道工ニハ到底施行シ難キカ故ニ其欠ク所ノ堅全ヲ補ヒ隧道工費概算ノ基ヲシメシ者ナリシカ工費節儉ノ点ニ向テハ尙更ニ左ノ改良チ加フルヲ得策トス抑隧道工費ハ其開鑿スル積面ニ依ル者ニシテ水路幅ノ最小ハ隧道チ通航スル船ノ幅ニ基ク者ナルカ故ニ船幅六尺深三尺ト見做シ昇降兩船相并テ通航スルヲ目的トナシ兩岸及船ノ間毎距離一尺ヲ要スレハ船路ノ幅狭クモ十五尺ヲ必要トス又舟便ノ改良チ加ヘ修繕費チ減スル爲メニ流水ノ速度チ三尺ニ減少スルニ於テハ三百立方尺ノ水量通過ノ爲メニ百平方尺ノ積面ヲ要ス府ノ計畫ニ依レハ幅三尺ノ隧道チ隧道内ニモ設置スル者トスト雖モ之チ省ク爲メニ驅道ニ從ヒ艇ヲ牽ク慣習チ廢シ隧道中ノミハ舟路ニ沿テ常ニ一本ノ綱ヲ備ヘ置キ艇中ニ居ナカラ此綱ニ頼リテ艇ヲ牽キ上ケ得ル方法ヲ設ケハ隧道内ノ驅道ハ廢シ得ルナリ

右ノ考案ニ基キ得ル所ノ隧道ノ横断面ハ第一横断面ノ如クニシテ隧道開鑿ノ積面貳百七拾五平方尺ナリ概算ノ基タル隧道横断面ト比較スレハ貳拾平方尺ノ積



面ヲ減スルニアリ右ノ改良ヲ加ヘハ第一隧道ノミニシテ大凡四萬圓ノ工費ヲ節  
 儉スルノミナラス支保工ハ堅固ヲ増スカ故ニ修繕費モ減少スル者ナリ  
 水路ノ横断面ハ壹〇〇五平方尺ニシテ三百個ノ水量ヲ流過セシメント欲セハ速  
 力ハ貳九九五トナル兩岸川床煉瓦石ナルヲ斟酌シ左ノ公式ノ内摩擦係數mチ一  
 〇ト見做シ



$$V = \frac{100 R}{m + 0.3 R} \sqrt{y}$$

Rハ動水學的平均深(ハイドラウリック  
 ミンデプス)ニシテ三九六ナルカ故ニ

$$\text{分配 } y = \left( \frac{m + 0.3 R}{100 R} \right)^2 = 0.0011111111$$

即チ壹間ニ付壹厘三毛五ノ水面落差ナ  
 リ

第一隧道ノ位置

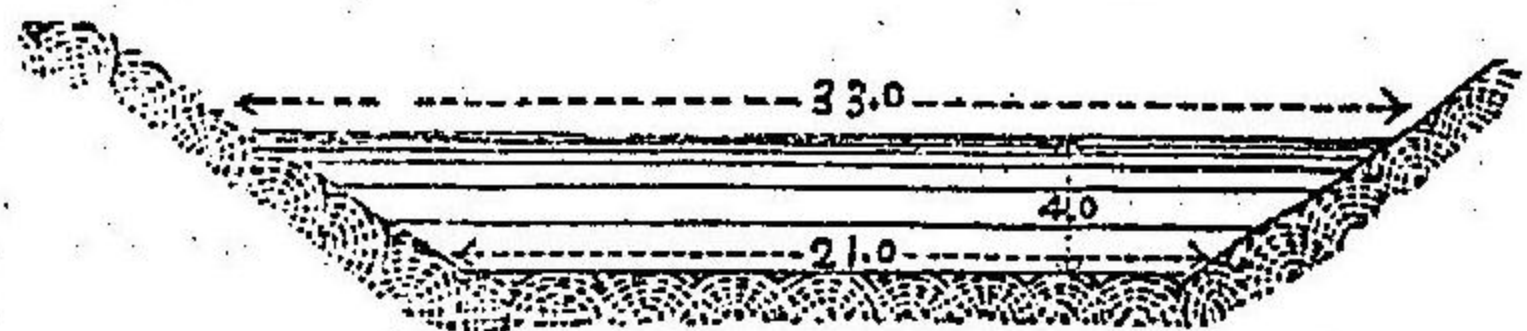
第一隧道ハ小關越ノ下ヲ貫クヨリ外良好ノ方向ナキト雖モ隧道ノ長短ノミニ着  
 目シテ其位置ヲ撰定セシ者ニシテ恐クハ技術上困難甚シカルヘシ何トナレハ府  
 ノ計畫ノ線路ハ西部ニ於テハ小關谷小川ノ下ニ沿フカ故ニ岩石ヨリ出水甚シカ  
 ルヘケレハナリ第一隧道ノ東門ヲ府ノ計畫ヨリ凡百間西門ヲ凡五拾間北方ニ設  
 ルヲ以テ最良ノ方向ナリト信ス其爲メニ隧道ノ伸長スルヲ凡五拾間ナリト雖モ  
 多少岩石ノ滯水ヲ避ルト隧道中花崗石ノ分ヲ伸長シ從テ工事困難ナル粘板石ノ  
 分ヲ減縮スルカ故ニ巨多ノ工費ヲ節儉シ得ルヘキト思考ス此点ニ向テ要スル所  
 ノ地質ノ調ハ更ニ熟練ナル地質家ニ依リテ調査ヲナサシメ然ル後線路ヲ撰定ス  
 ヘシ

水路ノ断面

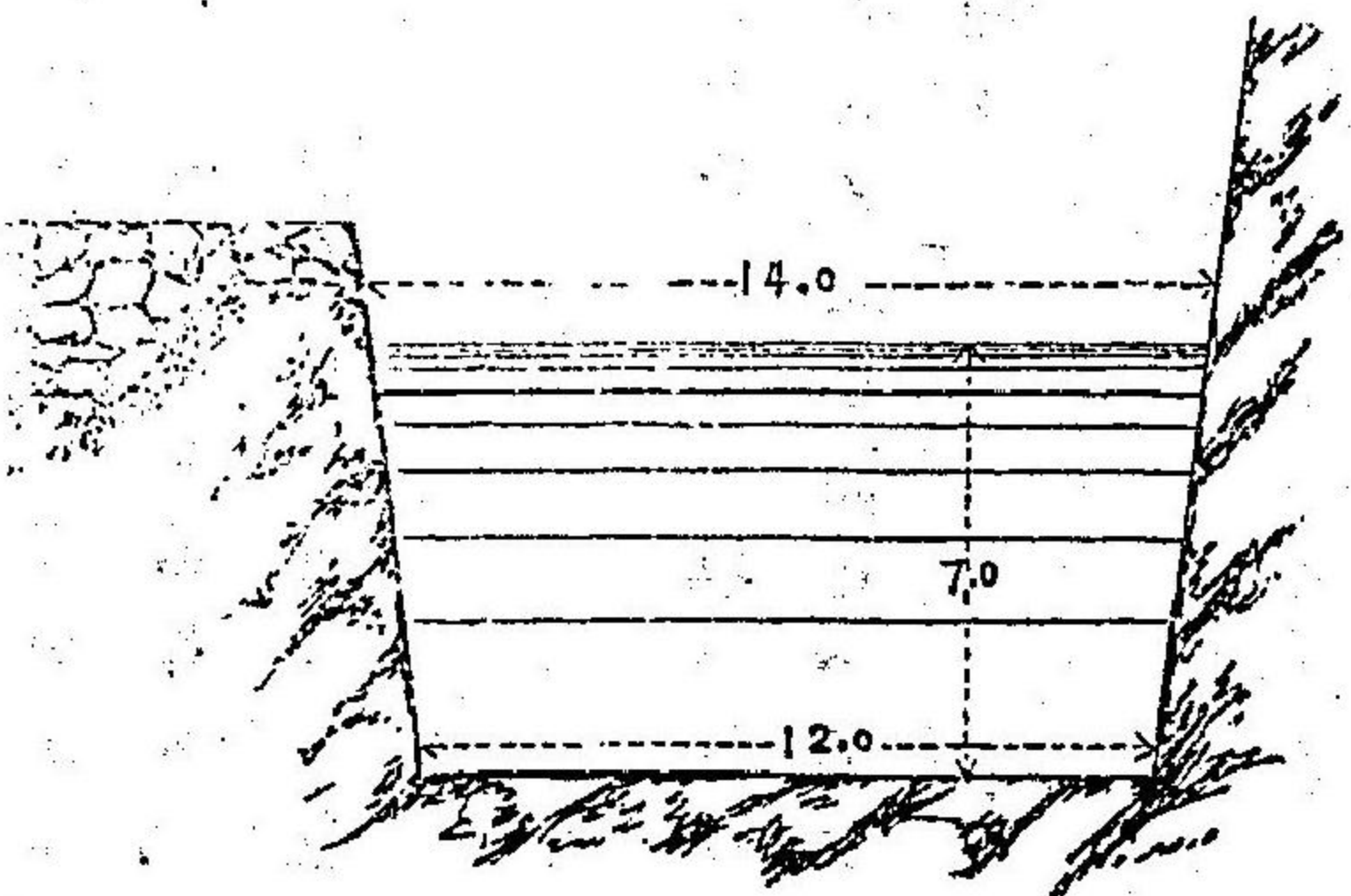
平坦又ハ勾配緩ナル所ニハ水路ノ面積不十分ナルヲ以テ艇ノ運動ニ抵抗ヲ増加  
 セシメサル様十分ノ截断面ヲ與ルヲ要ス其ノ最小面積ハ船ノ截断面ヲ六倍スル  
 通則ニ由リ得ル處ノ断面第二横断面ノ如シ



第二横断面



第三横断面



斷面積ハ百八平方尺ニシテ川床土質ナルカ故ニ摩擦係數 $m$ チ一・五ト見做シ  
 三百個ノ水量ヲ流過セシメントスレハ水ノ平均速力貳七八尺ナルカ故ニ  
 勾配 $y$  || ○○○五チ得ル  
 三百個ノ内三拾個ヲ分流セシ後ニハ水ノ速力二五ナルカ故ニ  
 勾配 $y$  || ○○○四チ得ル  
 山ノ斜面石質ナル所ニハ水路ヲ第三横断面ノ如ク開鑿スヘシ山科地ノ如ク貳百

八拾個ノ水量ヲ流過セシメントスレハ速力二九ナルカ故ニ摩擦係數 $m$ チ壹・五ト  
 見做セハ  
 勾配 $y$  || ○○○四チ得ル

工費節儉ノ爲メ運河ノ短部分ヲ狭小ニシ一艇ヲ通スルニ足ル程ノ廣サトナスモ  
 妨ケ無ケレト一般ニ二艇十分ニ航通シ得ル様断面ヲ撰フヘシ幅六尺深三尺ノ艇  
 ヲ容易ニ通シ得ルカ爲メニ深サハ四尺ヨリ小ナラシムヘカラス

第二隧道ノ位置

水路ヲ山科地ヨリ京都地ニ通スルニ府ノ計畫ニ基キ南禪寺越下ヲ貫テハ五百三  
 拾五間ノ隧道ヲ要ス日ノ岡下ヲ貫カント欲セハ開展水路ハ伸長スルト雖モ隧道  
 ハ大ニ減縮スルナリ兩計畫ノ工費ヲ比較スル左ノ如シ

南禪寺越隧道東門前第三七〇〇点ヨリ南方へ周行シテ三條街道日ノ岡阪ニ至ル  
 全長六百拾間爰ニ長サ三百三拾間ノ隧道ヲ貫キ京都地ニ出テ南禪寺背へ周行ス  
 ルニ山ノ斜面ヲ追フテ貳百三拾五間爰ニ又百拾間ノ隧道ヲ貫キ府ノ計畫水路第  
 四五五〇点ニ達スルニ尙百貳拾間ノ開展水路ヲ要ス全長千四百拾五間ニシテ其  
 内隧道ノ全長四百四拾間開展水路九百七拾五間ナリ隧道工費ハ南禪寺越隧道工  
 費ノ比較ニヨリ凡貳拾萬圓開展水路ノ分ハ第三工事工費ニ基キ貳萬圓ト見做ハ  
 合計金貳拾貳萬圓ノ工費ヲ要ス之ニ反シ府ノ計畫水路第三七〇〇点ヨリ第四五



五〇点長ハ百五拾間其内五百三拾五間ハ隧道ニシテ三百拾五間ハ開展水路ナリ  
隧道工費貳拾四萬六千圓餘ニシテ三百拾五間ノ開鑿工費ヲ第三工事ノ比較ニヨ  
リ六千五百圓ト見積レハ合計工費貳拾五萬貳千五百圓トナル依テ日ノ岡坂隧道  
ヲ以テ工費ヲ減少シ得ルヲ三萬貳千五百圓ナリ加之日ノ岡坂ハ石質軟ナルノミ  
ナラス岩石中ノ滯水ナキカ故ニ隧道ヲ容易ニ開鑿シ得ルノ利ヲ有スルナリ  
京都地ノ水路撰定

府ノ計畫水路ハ南禪寺ヨリ北方ニ周行シ二里餘ノ迂路ヲ以テ漸ク西京北小川頭  
ニ達ス其目的ハ途中運河ノ水ヲ分流シテ通行スル土地ノ灌溉用ニ供セントスル  
ニアリ然リト雖モ灌溉用水路ノ爲メニ運河水路モ共ニ斯ク迂回セシムルハ得策  
ナリト信セサルナリ新水路ノ目的ハ主ニ運送ノ水路ト用水路ノ二ニアリ其目的  
ヲ十分ニ達セント欲セハ水路一度京都地ニ出テ後ニハ之ヲ二分チ一ハ運送ノ  
用ニ供シ閘門ヲ以テ直チニ京都平地ニ降り東高瀬川ニ接スルヲ以テ目的トスヘ  
シ一ハ大凡府ノ計畫線路ニ從ヒ尙用水路ノ勾配ヲ可成緩ニシ灌溉用水ノ流域ヲ  
大ニスルニアリ運河ノ線路ハ日ノ岡隧道ヲ出テ後直ニ三四ノ閘門ヲ以テ山ノ  
麓ニ降り平地ニ於テ北方ニ周行シ吉田山南ノ麓ニ從ヒ鴨川ヲ横斷スルニ水路橋  
ヲ以テシ東高瀬川ニ接スルヲ最良方向トス然ルハ日ノ岡隧道西門ニ於テハ些  
少ノ水量ヲ分流シ水路漏口蒸發等ヨリ耗失ト船ヲ送ルニ閘門ヲ開ク爲メニ起ル

消費ノ給水ニ用ヒ用水路ヨリ若王子ニ於テ分流シ其水力ヲ工業ニ供セシ百個餘  
ノ水量ヲ更ニ運河ニ流入セシメ得ルヘシ用水路ノ分ハ屈曲ヲ厭ハス地形ニ隨ヒ  
水路ヲ開掘シ且又水路ノ幅ヲ減シ得ルノミナラス日ノ岡坂隧道ヨリ南禪寺ニ至  
ル間ノ長百拾間ノ隧道モ用水路ノミナラス開展水路ヲ以テ代ラシメ得ルカ爲メ  
ニ多分ノ工費ヲ節儉シ得ルナリ故ニ日ノ岡坂以下ハ水路ヲ運送用水兩路ニ分ツ  
ト雖モ巨多ノ増額ハ要セサルヘシト思考ス

### 溜池

水路ノ谷ヲ横斷スル所ニ於テ築立ノ高サヲ減スル爲メニ谷ヲ直線ニ横斷セシ  
テ谷上ニ屈曲スルヲ屢アリ斯ノ如キ谷ノ多分ノ土砂ヲ洗出スル恐ナキ所ニ於テ  
ハ直線ニ横斷シ谷下ノ方ヘ向キ堤防ヲ築キ谷ヲ溜池ニ化シ得ルヘシ然ルハ其  
ノ溜池ハ水流ノ節制池トナリ水路ノ爲メニ益スルヲ多キノミナラス工費モ減少  
シ得ルヘシ

### 水量測定ノ方法

水路ノ水源ニ於テ一定水量ヲ分流スルハ水下安全ノ爲メニ最モ必要ナル件ナル  
カ故ニ其量水ノ方法ハ注意ヲ要スル点ナリ府ノ計畫ノ堰ヲ廢シテ水閘ノ流口ヲ  
擴控スル方法ヲ設クヘシ

### 琵琶湖疏水工事工費概算



一金百貳拾五萬六千七百三拾五圓

此譯

第一工事 大津三保崎ヨリ第一隧道東門ニ至ル

金壹萬八千九百九拾圓

金三千五百七拾圓

金七千五百六拾圓

金貳千六百圓

金七百三拾圓

小計金三萬三千四百五拾圓

第二工事 第一隧道

金四拾壹萬貳千七百七拾五圓

金拾九萬貳千八百五拾圓

金壹萬九千五百圓

金千四百圓

小計金六拾貳萬六千五百貳拾五圓

第三工事 第一隧道西門ヨリ第二隧道東門ニ至ル

金貳萬八千三百五拾圓

金三千三百六拾圓

金貳千貳百四拾五圓

金六百三拾圓

金九千百四拾圓

金四千九百五拾圓

小計金四萬八千六百七拾五圓

第四工事 第二隧道

金拾五萬貳千五圓

金八萬四千六百四拾圓

金千四百圓

金八千貳拾五圓

小計金貳拾四萬六千七拾圓

第五工事 第二隧道西門ヨリ鹿ヶ谷村ニ至ル

金五千八百六拾圓

金八百四拾圓

金貳千圓

工事費額

滋賀縣下大津三保崎ヨリ京都府下愛宕郡小山村ニ至ル運河ノ距離九千五百間

土工費  
木橋費  
閘門費  
石垣費  
敷石費

土工費  
煉瓦工費  
材木工費  
隧道東西兩門費

土工費  
木橋費  
水道石橋費  
暗溝費  
敷石費  
石垣費

土工費  
煉瓦工費  
隧道兩門費  
材木工費

土工費  
木橋費  
石垣費



金四百八拾圓  
 金貳千拾圓  
 小計金壹萬千九百九拾圓  
 第六工事 鹿ヶ谷村ヨリ小山村小川頭ニ至ル  
 金九千七百貳拾五圓  
 金壹萬千七百六拾圓  
 金七千六百六拾圓  
 金五千八百三拾圓  
 金千貳百圓  
 金壹萬五千六百五拾圓  
 小計金五萬千三百貳拾五圓  
 金壹萬五千圓  
 金拾五萬圓  
 金五萬圓  
 金壹萬四千五百圓  
 金壹萬圓  
 小計金貳拾三萬九千五百圓

暗溝費  
 敷石費  
 土工費  
 木橋費  
 水道石橋費  
 暗溝及窠費  
 高野鴨兩川横堰費  
 敷石費  
 土地買上費  
 工事準備費  
 工事機械費  
 鐵軌費  
 土砂運送車費

土木局

上下京聯合區會

明治十七年六月  
 同日七日內務省少書記官南一郎平來テ疏水線路ヲ巡檢ス

上下京聯合區會

番外三百六拾六號  
 上下京兩區役所  
 琵琶湖水京都ニ疏通事件其筋へ及稟議候處今般指令ノ旨モ有之直ニ聯合區會ノ評決ヲ要シ候ニ付不日議案下附可致候條至急開會ノ準備可取計此旨相達候事

京都府知事北垣國道

明治十七年七月九日

同月十日上局中ニ疏水係ヲ置キ一等屬森本後洞二等屬板原直吉三等屬多田郁夫全片山正中四等屬野村永保五等屬嶋田道生及ヒ准判任御用係田邊朔郎全細田信道准等外御用係山田忠三ニ疏水係兼務ヲ命ス而シテ特ニ上京區長杉浦利貞下京區長竹村藤兵衛ニ命シテ本務ノ傍テ疏水事務ヲ取扱ハシム  
 同月十八日上下兩京區長ハ京都中學講堂ニ於テ上下京聯合區會ヲ開ク醜會ハ莊林維英ヲ議長ニ中村榮助ヲ副議長ニ撰舉ス

議案

第一項 琵琶湖疏通計畫ハ內務省土木局調製ノ設計書ニ據ラサルヲ得ス隨テ工費増額金六拾五萬六千七百三拾五圓ヲ要ス依テ之ヲ上下兩京區内ニ於テ

疏水要略 C 上下京聯合區會







金七百三十拾圓

敷石費

小計金三萬三千四百五拾圓

第二工事

金四拾壹萬貳千七百七拾五圓

土工費

金拾九萬貳千八百五拾圓

煉瓦工費

金壹萬九千五百圓

材木工費

金千四百圓

隧道東西兩門費

小計金六拾貳萬六千五百貳拾五圓

第三工事 第一隧道西門ヨリ第二隧道東門ニ至ル

金貳萬八千三百五拾圓

土工費 掘削及堤防費

金三千三百六拾圓

木橋費 橋梁及暗溝費

金貳千貳百四拾五圓

水道石橋費 全上

金六百三十拾圓

暗溝費 全上

金九千四百拾圓

敷石費

金四千九百五拾圓

石垣費 石垣築造費

小計金四萬八千六百七拾五圓

第四工事 第二隧道

金拾五萬貳千五圓

土工費

金八萬四千六百四拾圓

煉瓦工費

金千四百圓

隧道兩門費

金八千貳拾五圓

材木工費

小計金貳拾四萬六千七拾圓

第五工事 第二隧道西門ヨリ鹿ヶ谷村ニ至ル

金五千八百六拾圓

土工費 掘削及堤防費

金八百四拾圓

木橋費 橋梁及暗溝費

金貳千圓

石垣費 石垣築造費

金四百八拾圓

暗溝費 暗溝費

金貳千拾圓

敷石費

小計金壹萬千九拾圓

第六工事 鹿ヶ谷村ヨリ小山村小川頭ニ至ル

金九千七百貳拾五圓

土工費 掘削及堤防費

金壹萬千七百六拾圓

木橋費 橋梁及暗溝費

金七千六百六拾圓

水道石橋費 全上

金五千八百三拾圓

暗溝及窺費 全上



金千貳百圓

金壹萬五千六百五拾圓

小計金五萬千三百貳拾五圓

金壹萬五千圓

金拾五萬圓

金五萬圓

金壹萬四千五百圓

金壹萬圓

小計金貳拾三萬九千五百圓

參考書

此工事竣工ノ後ハ得ル所ノ利益枚舉ニ違アラサルヲ以テ最前會議ノ節ニハ其ノ最トモ著シキモノ即チ機械運轉ニ水力ヲ用ヒ石炭ニ換フルノ利益拾貳萬圓舊來三條街道及ヒ瀛車便ニ依リ京津間ヲ往來セル物貨ヲ新運河ニ依テ運送スルノ利益八萬圓宇治外三郡中田畑灌漑ノ爲メ實收増穫ノ利益九萬七千圓都合貳拾九萬七千圓ヲ以テ參考書ニ掲ケヌリキ爾來上州桐生地方ニ於テ燃糸ニ水車ヲ用フルノ利益ヲ算スルニ概略左ニ掲クルカ如シ尤モ右ハ推算法ヨリ得タル數ナレハ實際或ハ如此多カラサルモ知ル可ラス因テ姑ク其半額ヲ利益ト見ルモ尙拾五萬圓

高野鴨河川横堰費  
敷石費

土地買上費

工事準備費

工事機械費

隧道開鑿費

土砂運送用鐵軌費

土砂運送車費

ノ多キニ騰ル可シ故ニ今西陣ニ水利ヲ與ヘ彼ノ如ク水車ニヨラシメハ此金額ハ即チ西陣ノ利益トナルヘシ

金三拾萬圓也

是ハ上州桐生地方燃糸水車凡ソ五百個一個一日燃上高平均壹貫目一ケ年中三百日就業ト見テ三百貫目トナル水車五百個ノ出來高一ケ年即チ拾五萬貫目ナリ而シテ燃糸賃ハ平均壹貫目ニ付金壹圓ト云フ然ラハ一ケ年ノ賃金總額ハ拾五萬圓ナリ京都ニ在テハ一把三百ノ燃賃壹圓餘一把六拾錢位ノモノモアレバ平均ナレト燃賃目ニ付先三圓トシ算スレハ右拾五萬貫目ノ燃賃ハ四拾五萬圓トナリ桐生ノ方減少スルコト本文ノ如シ則チ水車ノ利益ト云可シ

諮問案

今回議定セシ琵琶湖疏通工費増額金六拾五萬六千七百三拾五圓ハ實際徵收ヲ要スルニ當テハ之ヲ地價戸數營業ノ三種ニ賦課スヘキカ且ツ其徵收ハ工事着手ノ次年度ヨリスルカ豫メ意見ヲ問フ

上下京聯合區會

明治十七年七月十八日中學校內講堂ニ於テ開會

出席議員五拾四名 議員姓名ハ前會ト同一ナルヲ以テ略ス

欠席議員八名

上下京聯合區會



北垣府知事ハ本會々場ニ臨テ曰昨年各議員ト此場ニ會シテヨリ既ニ九ヶ月ノ久シキヲ經タリ然ルニ此間タルヤ互ニ疏水工事ノ一ニ付テハ寸時モ之ヲ心ニ放ラス今年ニ至ラハ必允許ヲ蒙リ忻然トシテ本會ニ報告シ各員ト俱ニ工事着手ノ順序ヲ謀ラント豫期セシニ思キヤ茲ニ復工費増額ノ議案ヲ提ケテ再ヒ各員ヲ勞セシメントハ是レ全ク國道カ思慮淺ク識見足ラサルヨリ致スモノナレハ亦奈何トモスヘカラス只之ヲ謝スルノ外ナキナリ抑今回ノ議案ハ昨年ノ決議額ヨリ増ス一倍即チ百貳拾五萬圓ノ費額トナレリ去リナカラ是レ亦大ニ故アリ國道曩ニ此伺書ヲ携ヘ其ノ筋ヘ稟請スルヤ其ノ筋ニ於テハ内閣ノ議ヲ開カレ其ノ結局京都將來維持ノ方按ハ此工事ヲ措テ他ニ之アルコトナク京都ヲシテ繁榮隆盛ナラシメンニハ必此工事ヲ起サシメサルヘカラスト遂ニ之ヲ奏上セラレタリヤニ承ル右決定ノ後其ノ計畫ノ如何ヲ再議セラレタルニ其ノ主務タル内務卿ハ益京都將來維持ノ爲メ此工事ヲ興サ、ル可カラスト確信セラレ又其ノ之ヲ興ス以上ハ前途毫モ蹉跌ナキヲ保メサレハ中道ニシテ如何ナル困難ヲ生スルヤモ料リ難シ如此大工事ヲ起スニ當テ聊タリモ顧慮スル所アルハ未タ完全ノ策ト謂フヘカラス然ルニ専門工師ノ調査ニ因レハ地質ノ如キハ量定尤モ難ク疎忽ニ附スヘカラスト運河ノ速力モ亦較急ニ過クト故ニ此等ノ困難ヲ避ケ此等ノ豫防ヲナサントスレハ京都府ノ計畫即チ六拾萬圓ハ未タ以テ十分ノ見込トナス可カラスト十分ノ見込

チナサントセハ六拾五萬餘圓ヲ増加セサルヲ得ス然ルニ此増加ハ京都聯合區會ニ於テ議決セサレハ或ハ工事半途ニシテ中止スルノ恐アリ斯ル大事業ヲ計ルニ如此懸念アル以上ハ決シテ工事ニ着手セシムヘカラスト必起ス可キノ事業ハ必遂ク可キノ計畫ナカルヘカラスト遠ク此ノ工事ノ爲メニ前途ヲ慮テ論斷セラレ閣議終ニ茲ニ一決シ今般ノ指令ヲ蒙リタル次第ナリ斯ク内閣ニ於テ深ク評議ヲ盡サレタル趣ヲ承レハ實ニ國道カ當時費用ノ節約ヲ主旨トシ却テ姑息ノ情ニ誤ラレ不充分ナル計畫ヲ以テ上ハ大政府ニ呈シ下ハ議會ニ附シタルハ洵ニ千悔モ及ハサルナリ然リト雖モ千悔萬懼此ニ至テ起工ノ精神ハ益銳トク愈奮テ此大任ヲ了セント欲ス何トナレハ此工事ニ由テ興ル所ノ公益ハ京都將來ノ隆盛ヲ致ス原素タルヘキハ益信シテ疑ハサレハナリ看ヨ嚮キニ諮問會之ヲ信認シ聯合區會之ヲ議定シ大政府之ヲ是認シ内外紳士之ヲ贊稱セリ此ノ如ク上下内外之ヲ確信セシモノナレハ之ヲ信セスシテ復何ヲカ信センヤ是起工ノ精神ハ益銳トク愈奮テ此大任ヲ了セント誓ヒシ所以ナリ素ヨリ六拾五萬圓ノ増費ハ敢テ小額ニ非スト雖モ京都將來維持ノ方按之ヲ措テ他ニ是ナシトセハ復驚クニ足ラス又千年ノ舊都此一工事ニ由テ盛衰興廢ニ係ルトセハ百貳拾萬圓ノ費額亦高價ニモ非ル可シ況ンヤ其ノ徵收支出ノ点ニ至テハ之ヲ一時ニ收支スルモノニアラサルオヤ且幸ニ地質堅牢緻密ニシテ悉ク煉瓦及敷石等ヲ用ルニ及ハサルカ如キアラハ幾分ノ



工費ヲ減スルモ亦知ル可ラス然リト雖在個ハ是レ未必ノ事ニシテ決シテ豫期ス  
 ヘキモノニ非ス故ニ之ヲ遂ケント欲セハ必百貳拾五萬圓ノ費額ヲ投スルト決  
 心セサル可ラス必起ス可キノ事業ハ必遂クヘキノ計畫ナカル可ラスト内務卿ノ  
 一語ハ此疏水工事ノ格言ナリ各員宜シク思慮熟考セラレ大政府財政多端ノ際ヲ  
 モ願ミス巨額ノ金員ヲ補助セントセラレ、ノ厚キヲ思ヒ又將來一府ノ幸福ニ止  
 ラス此京都繁榮ノ維持ハ延ヒテ全國ノ幸福ニ係ルヘキヲ慮リ能ク審議アルヘシ  
 大政府ノ審議ヲ盡サレ内外紳士ノ稱賛シテ止マサルモノハ抑何ノ結果ソヤ即チ  
 京都府民ノ熱心ノ致ス所其精神ノ貫徹スル所ナリ各員爾來盡力ノ奏功ハ即チ本  
 會ノ一場ニアリ一府ノ爲メ全國ノ爲メ又ハ各自子孫ノ爲メ詳悉審議其ノ得失ヲ  
 決スヘシ

議長莊林維英ハ本會ノ第一次會ヲ開キ書記ヲシテ購讀セシム續テ議案ノ質議ア  
 リシニ五拾四番木村與三郎ハ本日ハ議案ヲ領シ直ニ質問セシ故或ハ岐路ニ涉ラ  
 ントチ恐ル熟考ノ上明日詳細質問セントノ建議ニ滿場同意セシニ因リ議長ハ本  
 日ノ會ヲ閉ツ

同月十九日午前九時開會出席議員五拾壹名

議長莊林維英ハ前會ノ議ヲ續キシニ議案ノ質問盡マルヲ以テ本按總体ニ就キ意  
 見アラハ提出スヘキ旨ヲ陳告ス

五拾九番東枝吉兵衛曰本案大体ニ就テ要スル所ノ主眼ハ増費金六拾五萬餘圓ヲ  
 區民ニ負擔セシムルニ在リテ工事ノ廢起ハ昨年既ニ論結シタレハ最早喋々ノ辯  
 チ要セス故ニ此六拾五萬餘圓ヲ區民ノ頭上ニ割當ルハ實ニ輕々ナラサル問題ナ  
 リ假リニ一組ニ壹萬圓平均一組ヲ貳拾五箇町ト見做セハ一箇町ノ負擔額ハ即チ  
 四百圓是實ニ賦課スルニ忍ヒサル巨額ナリ此忍ヒサルノ賦課額ヲ議定スルハ我  
 輩代議士ノ苦慮ニ耐ヘサル所ナレ目下ノ困難ハ反テ將來ノ繁盛ヲ購フモノト  
 セハ復耐ヘサルニモ非ル可シ一言此意ヲ述テ本案ヲ賛成ス

拾番中村榮助曰本案ニ就テハ五拾九番カ述ル如ク目下此巨額ノ金ヲ區民ニ負擔  
 セシムルトハ深ク苦慮スル所ナレ起工上ニ對シテ一般ノ景況ヲ觀察スル時ハ  
 冀望ハ益汎クナリ厚クナリ確クナリ其ノ志ハ愈切ナリ最早今日ニ至テハ一日モ  
 早ク工事ニ着手セサル可カテサル氣運ニ迫レリ固ヨリ之ヲ議スルノ當初一起不  
 頓ノ精神ヲ以テ業ニ已ニ決定シタルニ非スヤ彼ノ忽チニ進ミ忽チニ退カ如キハ  
 本員ノ取ラサル所ナリ況ンヤ内外人ノ共ニ美譽トシテ稱贊スルノ事業ナルニ於  
 テオヤ且ツ京都ノ繁榮ヲ維持シテ遠大ノ利益ヲ圖ルハ此ノ事業ヲ措テ決シテ他  
 ニ有ラサルヲ信ス是レ六拾五萬餘圓ノ増額議案ニ對シ賛成スル所以ナリ  
 三拾八番富田半兵衛曰原案ヲ賛成スルトハ甚易シ然レ故ナクシテ之ヲ賛成ス  
 ルニ非ス抑古來京都隆替ノ由テ來ル所ヲ考フルニ桓武帝御遷都以來種々ノ變更



アリト雖臣商工業ハ概シテ世々繁盛チ極メ實ニ帝都ノ名目ヲ表ハセシニ今上  
 帝御東遷ノ後ハ衰頽日ニ迫リ殆ト危急ノ秋ニ立到レリ荏苒坐シテ死チ俟ンヨリ  
 寧ロ奮テ回復ノ策ヲ求メサル可カラズ今増費六拾五萬圓ハ實ニ驚ク可キ多額ノ  
 金ナレトモ此際非常ノ大土工即チ琵琶湖疏通ノ事業ヲ起シ以テ將來維持ノ方法  
 ヲ設クルハ正ニ當然ノ良策ナリトス或ハ開ク政治家ノ中ニモ大ニ此舉ヲ贊稱セ  
 ル人アリト誠ニ疏水ノ成否ハ京都ノ存廢ニ關係スト言フモ敢テ過言ニ非サルナ  
 リ然ラハ六拾五萬圓ノ増費モ徵收方法其ノ宜ヲ得ハ何ソ驚クニ足ラン速ニ起工  
 ノ特許ヲ得テ將來維持ノ基礎ヲ確立セントテ希望ス  
 五拾四番木村與三郎曰本員ハ故テニ理由ヲ述ヘテ贊成ノ語ヲ粧ハス何トナレハ  
 假令向キニ六拾萬圓ニテ起工ノ特許ヲ得ルモ若シ工事着手ノ半途ニシテ圖ラサ  
 ルノ難事ニ遭遇シ幾拾萬圓ノ増費ヲ要スルモ確乎不撓ノ精神ヲ以テ一旦起工ヲ  
 決議シタル以上ハ何ソ事新ラシク喋々ノ辯ヲ要センヤ万々一之ヲ否決セントス  
 ルナレハ先ツ向キノ決議モ亦取消サ、ルヲ得ヌ又六拾五萬圓ハ多額ナリト雖臣  
 民力ニ堪ヘサル程ノトハ決シテアルトナシ諸君モ記憶セラル、ナラン先年伏見  
 稻荷ノ正遷宮ノ如キ某組ニ於テハ數千圓ノ大金ヲ一時ニ浪費セシト此ノ如キ事  
 態ヲ以テ觀レハ未タ民力ニ堪ヘサルニモ非サルヘシ本員ハ只會議法ニ依リ原案  
 贊成ト一言スルノミ

三拾九番大澤善助曰譬ヘハ六拾萬圓ヲ以テ起工スルト百貳拾五萬圓ヲ以テ起工  
 スルト其ノ精神ニ至テハ實ニ霄壤ノ差アリ向キノ決議六拾萬圓ハ間接ノ負擔ニ  
 シテ人民ノ感覺モ甚疎ナリ故ニ決議スルトモ從テ容易ナリト雖トモ今回ノ増費  
 六拾五萬圓ハ直接ノ負擔ニシテ早晚之ヲ人民ノ膏血ヨリ絞出セサルヲ得サルモ  
 ノナレハ決議ノ難易復同日ノ談ニ非ルナリ然レハ一度滿場ノ輿論ヲ占メ起工ヲ  
 決議スル以上ハ天ニ誓テ其ノ精神ヲ貫徹シ飽迄之ヲ成就セシメサル可ラス且ツ  
 此度ノ工事ニ就テ京都人民ノ汚名ヲ回復スルノ好機アリ是迄他縣人カ京都人民  
 チ因循ナリ姑息ナリト冷評セシモ今幸ニシテ此増費ヲ可決シ當初ノ目的ヲ貫徹  
 セシナハ一ハ皮想ノ世人チシテ我京都人ノ活潑心ヲ知ラシメ又隨テ指笑ノ冷評  
 チモ消滅シ反テ大ニ尊崇心ヲ發セシムルニ至ルヘシ誠ニ此工事ハ實ニ京都人民  
 ノ汚名ヲ回復スルノ一大機會ナリ若シ此場合ニ於テ本案ヲ否決シ工事中止ス  
 ルカ如キアラハ世人ハ益我府民ヲ指笑シ遂ニハ交際ヲ絶ツニ至ラン六拾五萬  
 圓ハ巨額ナリト雖臣府民ノ面目ヲ一洗スルノ資本ト見做セハ敢テ負擔ニ堪ヘ難  
 シトセズ矧ヤ目前ニ大利益ノ生スルニ於テオヤ故ニ本員ハ飽迄原案ヲ贊成ス速  
 ニ第二次會ヲ開カレマシ  
 一番河野通經九番清水吉右衛門モ本案ヲ贊成ス  
 議長ハ是ニ於テ本案ノ爲メ第二次會ヲ開クヘシトスルモノヲ起立セシメシニ全



員起立第二次會ヲ開クニ決ス

議長ハ第二次會ヲ開キシニ議案第三項(工事)ハ着手ノ月ヨリ七十二箇月即チ六箇年ヲ期シ成功セシムルモノトスニ至リ五十六番荒木重兵衛ハ工事着手ノ半途ニシテ如何ナル難事ヲ生スルヤモ計リ難キヲ恐レ(但シ工事ノ都合ニ依リ伸縮スルヲ得)トノ但書ヲ加フルノ第一動議ヲ發シ又五拾四番木村與三郎(但年ノ景況ニヨリ伸縮スルコアルヘシ)ト但書ヲ加ント第二動議ヲ發ス其ノ他但書ノ文字ヲ修正スルモノ或ハ原案ヲ賛成スル者等議論錯出シ第一動議第二動議ハ賛成者ヲ得テ問題トナレモ可否ヲ決スルニ至テ起立者少數ナルヲ以テ否決シ原案賛成者三拾壹名ニシテ其ノ多數ナルヲ以テ遂ニ原案ニ可決ス

議長ハ全會ノ同意ヲ以テ引續キ第三次會ヲ開キシニ五拾四番再ヒ但書ヲ加フルノ説ヲ提出シ九番及五拾六番ノ賛成ヲ得テ遂ニ問題トナレモ起立者拾四名少數ニシテ否決シ原案賛成者過半數ナルヲ以テ第三次會全ク原案ノ通り確定シ左ノ具申書ヲ呈ス

今般本會へ發附相成候別紙議案總テ原案ノ通全會ノ意見ニヨリ決議致候條仍テ及具申候也

明治十七年七月十九日

上京區長 杉浦利貞殿

上下京聯合區會議長 莊林維英

下京區長 竹村藤兵衛殿

同月二十日上下京兩區長ハ左ノ上申書ヲ呈ス

今般御下附相成候琵琶湖水疏通事件ニ係ル工費増額議案上下京聯合區會へ附議仕候處總テ原案ノ通り致評定候趣別紙ノ通り議長ヨリ申出候條最前ノ評決ト併テ可然御處分被成下度此段及上申候也

明治十七年七月廿日

上京區長 杉浦利貞  
下京區長 竹村藤兵衛

京都府知事 北垣國道殿

同月二十一日議長 莊林維英ハ前キニ疏水工費増費額議案ト與ニ下附セラレタル工費徵收方法ノ諮問會ヲ開ク

諮問會 案ハ前ニ記セシ  
テ以テ之ヲ呈ス

議長 莊林維英ハ假リニ會議規則ヲ用ヒ第一次會ヲ開キ諮問案ニ就キ疑義ヲ質問セシメ續テ第二次會ヲ開キ之ヲ審案セシメシニ五拾貳番井上重三郎三拾九番東枝吉兵衛意見ヲ提出シマレモ賛成者ナキヲ以テ自然消滅シ三拾八番富田半兵衛ノ一年乃至一年半向フノ一ヲ議定スルハ甚々難事ナリ因テ毎年度ニ徵收方法ヲ議定スルノ説ニ起立者十名三拾九番大澤善助ノ委員ヲ撰ミ答議書ヲ作ルノ説ニ起立者七名六番安田善兵衛ノ徵收法ハ戶數制ト定メ上下京各組へ割當各組適宜



ニ徵收セシメントノ説ニ起立者貳名執レモ少數ナルヲ以テ否決シ原案ヲ可トスル者起立者貳拾貳名過半數ニ因リ可決ス續テ議長ハ全會過半數ノ同意ニ依リ別ニ第三次會ヲ開カスシテ此儘確定スル旨ヲ陳告シ左ノ答議書ヲ呈ス  
今般御諮問相成候琵琶湖疏水工費増額金六拾五萬六千七百三拾五圓ハ御諮問ノ通地價戸數營業ノ三種ニ賦課シ工事着手ノ次年度ヨリ徵收相成度全會ノ意見ニヨリ答議仕候也

明治十七年七月廿一日

上下京聯合區會議長 莊林維英

上京區長 杉浦利貞殿

下京區長 竹村藤兵衛殿

同月廿五日上下京兩區長ハ左ノ上申書ヲ呈ス

今般上下京聯合區會ニ於テ議定致シタル琵琶湖疏水工費増額金賦課及徵收方ハ御諮問ニ對シ同會議長ヨリ別紙寫ノ通り答書差出候ニ付此段及上申候也  
明治十七年七月廿五日

上京區長 杉浦利貞

下京區長 竹村藤兵衛

京都府知事 北垣國道殿

同月十八日府知事ハ既ニ疏水工費増額議案ノ議事結了セシヲ以テ左ノ上申書ヲ内務卿ニ呈ス

琵琶湖疏水工費増額金聯合區會議決ノ儀ニ付上申

琵琶湖疏水工事ノ義本年六月廿七日付御指令ノ旨ニヨリ上下兩京區長ヲシテ去月十八日ヨリ聯合區會ヲ開カシメ工費増額金六拾五萬六千七百餘圓并ニ將來修繕費等別紙甲印議案ヲ以テ附議セシメ候處始終無異議翌十九日全會一致原案ノ通可決致候依テ更ニ乙印ノ通徵收年度及ヒ賦課ノ方法等諮問案ヲ發シ審議セシメ候末諮問ノ通ヲ可トシ答議致候右會議ノ景况議論等ハ別紙議事畧記ノ通有之只管京都ノ衰頽ヲ憂ヘ之ヲ挽回スルノ策此工事ヲ捐テ他ニ良策ナキヲ確信シ一日モ速カニ實地工事ニ着手シ萬世不朽ノ利源ヲ此地ニ開カントスルノ精神ニシテ其ノ希望ノ切ナル復前日會議ノ時ノ比ニアラサルハ議事ノ景况ニ依テ明白ナル儀ニ有之候條追テ更ニ起工ノ儀伺出候節ハ速カニ御許容相成候様豫テ御評議有之度此段上申候也  
甲印乙印及議事畧記ハ前ニ提出セシヲ以テ之ヲ畧ス

明治十八年八月十八日

京都府知事 北垣國道

内務卿 山縣有朋殿

同年九月廿六日府知事ハ二等屬板原直吉准判任御用係田邊朔郎五等屬嶋田道生及六等屬巖本範治ヲ隨ヘ東上セリ

同年十月三日琵琶湖疏水起工ノ儀ニ付左ノ再伺書ヲ呈ス

琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起工ノ儀再伺



先般琵琶湖水ヲ京都へ疏通スルノ事業起工ノ儀ニ付別紙前號ノ通伺出候處本年六月廿七日付伺ノ趣ハ御省土木局調製設計書ニ據リ増費并ニ將來修繕ニ要スル費途支辨ノ方法等ハ取調當府聯合區會ノ議決ヲ取り更ニ伺出ヘキ旨御指令ニ因リ當時拙官上京中ニ付一ト先ッ歸府致シ去七月十八日ヨリ上下京聯合區會ヲ開キ工費増額金并ニ將來修繕方法等ヲ審議セシメ候處翌十九日全會無異議原案ノ通り可決致シ次テ更ニ徵收年度及賦課ノ方法等諮問セシメ候處是亦諮問案ノ通答議致候其ノ決議ノ速ニシテ冀望ノ切ナルノ狀況即チ後號八月十八日付上申書中ニ詳明ナリ右ハ只管帝都ノ索寞ニ赴カントスルヲ嘆キ不朽ノ工業ヲ起シ以テ此地ノ永々繁盛維持ヲ企圖スルノ外ニ出サル儀ニ有之如此時機ヲ空過シ萬一物情再ヒ振ハサルノ場合ニ至リ候テハ實ニ御歴代ノ神蹟ニ對シ奉リ恐懼ノ至ニ候因テ去ル六月廿七日御指令ニ基キ本書寫并ニ附屬書類相添此段更ニ相伺候條前後ノ情狀御洞察ノ上特別ノ御詮議ヲ以テ前號伺書條々速ニ御許可相成度候也

附屬書類ハ前ニ掲出  
セシテ以テ之ヲ認ス

明治十七年十月三日  
京都府知事北垣國道  
内務卿山縣有朋殿

同月八日府知事ハ御用係田邊朔郎五等屬嶋田道生及六等屬巖本範治ヲ從ヘ東京ヨリ神奈川靜岡兩縣下ニ係ル箱根芦湖疏水線路ヲ巡視ス

明治十八年

上下京聯合區會

同年十二月廿七日府知事歸應ス是レ大坂府滋賀縣ヨリ上申ノ旨ニ由リ閣議遷延スルヲ以テナリ

明治十八年一月八日甲第壹號ヲ以テ左ノ通布達セラル

疏水事件ニ付上下京區ヲ區域トシ聯合區會開設ス此旨上下京區内一般へ布達候事

明治十八年一月八日  
京都府知事北垣國道

同日客年五月太政官第十四號達區町村會法及六月本府甲第五拾七號達同會規則ニ基キ下京區長ヲシテ今回開設スル臨時聯合區會ノ管理ヲナサシメ且ツ議案ヲ下附ス

議案  
琵琶湖疏水工事成功ノ後若シ滋賀大阪兩府縣下ニ水防工事ヲ施スチ至當ト認ル場合ニ於テハ該工事ニ要スル相當ノ金額ハ上下兩京區内ニ於テ負擔スルモノトス

參考書  
一金拾貳萬圓以内  
滋賀大阪兩地方  
水防工費見込高

同月九日上下京兩區長ハ府廳内ニ於テ上下京聯合臨時區會ヲ開キ下京區長竹村藤兵衛ハ之ヲ議長タリ



北垣府知事ハ議場ニ臨ミ議員ニ告テ曰琵琶湖疏水工事ノ一付テハ客年來再三會議ヲ開キ屢各員ヲ勞シ今日ニ至テハ最早此等ノ議事ハ要セサント思惟セシニ豈圖ランヤ隣地方ノ關係上ヨリ不得止今復本會ヲ開クニ至リ殊ニ歳首嚴寒ノ際各員ヲ勞セシハ他ニアラス各員モ聞知シナラン舊臘彼ノ朝鮮事變ノ俄カニ起リシ以來内閣ノ多事ナル内務卿モ事宜ニ依テハ何時何レノ地方ニ出張セラルヤモ計リ難キ有様ナリ果シテ然ラハ此等ノ詮議モ亦如何ナルヤモ謀リ難シ是レ此ノ嚴寒ヲ避ケス歳首ヲモ願リミス本會ヲ開ク所以ニシテ實ニ一日ヲ爭フノ秋ナレハ各員此旨ヲ諒セラレ議事ノ結了アラントテ望ム而シテ某ハ此議事完結セハ直ニ東上シテ區民ノ此事業ニ熱望ノ切ナル情况ヲ陳述シ速ニ裁可ヲ仰クノ精神ナリ抑此會タルヤ疏水工事最後ノ議事ナレハ各員勉努力速カニ本工事ノ目的ヲ達スヘキ切望ニ堪ヘサルナリ

議長竹村藤兵衛ハ本議ヲ開キ甲乙數回質問ノ上一番東枝吉兵衛ハ本按ヲ諮問案トシテ議セントテ建議セシモ議場ニ採用セラレズ

拾一番河野通經ハ議員中ヨリ二名ノ東上委員ヲ撰擧シテ府知事ノ東上ニ隨行セシメント建議シ及ヒ拾八番古川吉兵衛ハ可否ノ採決ハ明日ニ延サレントテ建議シ賛成者アルヲ以テ之ヲ起立ニ問ヒシニ各三名ノ同意者ナルヲ以テ消滅ス

拾貳番古川爲三郎拾四番大澤善助二番河村清七七番井上重三郎ハ原案ヲ賛成ス

拾八番古川吉兵衛ハ參考書ニアル拾貳萬圓ヲ原案ニ挿入シテ但書トナサントノ修正説及ヒ拾七番富田半兵衛ノ本案廢棄ノ動議執レモ賛成者ナキヲ以テ消滅ニ付シ原案賛成者ヲ起立セシメシニ起立者拾六名過半数ナルヲ以テ確定シ本日ノ會ヲ閉ツ

決議原案ノ通ナルヲ以テ認ス

同日府知事ハ直ニ一等屬板原直吉御用掛田邊朔郎五等屬島田道生及ヒ六等屬巖本範治ヲ隨ヘ東上ス

同月十二日琵琶湖疏水工事ノ儀ニ付左ノ追伺書ヲ出ス

琵琶湖疏水工事ノ儀ニ付追伺

客年十月三日付ヲ以テ再度伺出候琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル事業起工ニ付去ル九日聯合區會ヲ開キ滋賀大阪兩府縣下ニ要スル水防工事費本府ニ於テ負擔ノ儀別紙寫ノ通り附議セシメ候處即日可決候ニ付該工事成功ノ後水防工事費ヲ要スル場合ニ於テハ豫テ兩府縣ヨリ上申有之候工費金額ハ本府ニ於テ負擔可致候右ニ付疏水工事ハ當府ニ於テ擔當成功致度一般人民冀望ニ有之既ニ今回聯合區會ニ於テ右邊吳々申立候次第モ有之最前決議ノ精神モ本府ニ於テ擔當成功セシムルニ在リ故ニ若シ土木局直轄ト相成候テハ民情ニ關スル儀不少候ニ付今般滋賀縣令へハ委曲申談大阪府知事へモ詳細書面ヲ以テ申入置候條客年十月右兩府縣連署



ヲ以テ上申ニ及置候義ハ御取消更ニ御省ノ御監督ヲ得テ萬事府廳ニ於テ取扱候様致度依テ同十月三日付再度伺出候書面相添此段相伺候速ニ御裁可相成度候也  
本文ニ附帶ノ書面ハ前ニ掲出セシヲ以テ之ヲ略ス

明治十八年一月十二日

京都府知事北垣國道

内務卿山縣有朋殿

同月廿九日内務卿ヨリ左ノ指令アリ

起功特許

書面之趣開届候事

但大阪府下ニ要スル豫防工費拾萬三千九百貳圓滋賀縣下ニ要スル豫防工費貳萬六千五百九拾八圓ハ追テ起工ノ期ニ至リ其ノ府ヨリ該府縣へ交附スヘシ

明治十八年一月廿九日

内務卿伯爵山縣有朋

同年二月五日府知事ハ琵琶湖疏水工事伺ノ通特許ヲ得テ歸廳ス

同月七日御用係田邊朔郎五等屬嶋田道生ヲ山口縣ニ遣ハシ同縣ノ鯖山隧道工事及勝坂ノ實況ヲ調査セシム

起功達

同年三月五日既ニ本工事業起工ノ儀ニ付内務卿ノ指令ナルヲ以テ上下京區長及各郡役所郡區戶長役場へ左ノ通り達ス

上京區長杉浦利貞

下京區長竹村藤兵衛

疏水起業之儀ニ付一昨十六年十一月及ヒ昨十七年七月本年一月聯合區會ノ評定ヲ取リ上申ノ次第ニヨリ其ノ筋へ追次伺出候處今般左ノ通許可ノ指令有之候條此旨相達候事

但大阪府下ニ要スル豫防工費金拾萬三千九百貳圓滋賀縣下ニ要スル豫防工費金貳萬六千五百九拾八圓ハ追テ起工ノ期ニ至リ該府縣へ交附スヘキ旨併テ指令有之尤モ其ノ豫算差額等ハ其ノ期ニ臨ミ何分ノ詮議ヲ遂ケ相達スヘシ

明治十八年三月五日

京都府知事北垣國道

- 一琵琶湖水ヲ京都ニ疏通スルノ土功ヲ起シ其ノ水利ヲ上下京區ノ共用トスル
- 一川床及ヒ堤防敷地并ニ附屬地等官有ニ係ルモノハ無借地料貸渡ノ
- 一同上民有ニ係ルモノ買上ノキハ公用土地買上規則ニ準スル
- 一川床及ヒ堤防敷地ニ屬スル土地ハ國稅免許ノ
- 一疏水起業ニ對シ特別ヲ以テ補助金拾五萬圓ヲ三ヶ年ニ割合セ國庫ヨリ下ケ渡
- 一同上補助金拾五萬圓ヲ其ノ總費額ニ割合ヒ毎年支出ノ工費ニ應シ府廳ヨリ下ケ渡ノ



一此工事ハ府廳ニ於テ擔任シ施行スル  
乙第三拾壹號

各郡役所

郡區戸長役場

琵琶湖水ヲ京都へ疏通スル土功ヲ起シ其ノ水利ヲ上下京區ノ共用トナスヘキ爲  
メ疏水起工ノ儀ヲ上下京聯合區會ノ評定ヲ取リ兩區々長ヨリ先般來上申ノ次第  
ニヨリ其ノ筋へ追次伺出候處今般許可相成候ニ付其ノ趣兩區々長へ相達候條爲  
心得此旨相達候事

明治十八年三月五日

京都府知事北垣國道

所疏水事務

疏水事務所附各工場

明治十八年三月六日琵琶湖疏水事業ノ既ニ政府ノ許可ヲ得タルヲ以テ是ヨリ先  
上局内ニ置キシ疏水係ヲ改メ疏水事務所トナシ新ニ廳中ニ一局ヲ設ケ同年八月  
八日派出所ヲ疏水線路中工事最モ困難ナル第一隧道々畔滋賀縣下藤尾村ニ置キ  
シカ同年十月三十日ニ至テ事務益繁劇ナルヲ以テ事務所ヲ該地ニ移シ派出所ヲ  
廢セリ而シテ廿一年一月九日第一隧道及東方工事豫定ノ期ヲ愆ラス日ニ月ニ進  
歩スルヲ以テ之ヲ府下宇治郡山科村日岡ニ移シ專ラ西方ノ工事ヲ監督セシカ廿  
三年四月九日ニ至リ大體ノ工事ヲ終へ竣功式ヲ舉ケ同年六月三十日竣工事全ク

沿革

成リシヲ以テ之ヲ廢シ府廳内ニ於テ殘務ヲ執ル今職制章程及事務取扱心得ヲ左  
ニ掲ク

沿革 明治十七年七月九日初メテ上局内ニ疏水係ヲ置キ翌十八年三月六日疏  
水係ヲ改メテ疏水事務所トナシ職制章程ヲ定メ大書記官尾越恭輔ヲ所長トナ  
シ少書記官谷口起孝ヲ副長トナシ以テ事務所ヲ統轄セシメ又上京區長杉浦利  
貞下京區長竹村藤兵衛ヲ司計部長トナシ交替服務シ以テ工費ノ出納ヲ檢査セ  
シメ而シテ庶務工事ノ二部ヲ置キ四等屬阪本則美ヲ庶務部長トナシ一等屬田  
邊朔郎ヲ工事部長トナシ以テ各分擔ヲ定メ同年五月廿八日工事中ヨリ測量  
ノ事務尙制キ新ニ測量部ヲ置キ二等屬嶋田道生ヲ測量部長トナシ以テ測量ノ  
事務ヲ分擔セシム又十九年十月一日職制章程及所務規程ヲ改正シ十九年七月  
三十一日各部ヲ廢シ所長一名ヲ置キ尾越書記官ヲ以テ之ニ任シ司計長一名ヲ  
置キ上下兩京區長ヲ以テ交替服務シ杉浦上京區長竹村下京區長之ニ任ス理事  
一名ヲ置キ二等屬阪本則美之ニ任ス屬技手及區書記各若干名及疏水委員若干  
名本府官吏中ヨリ任用スヲ置ク廿年十二月廿六日工師一名ヲ置キ技師田邊朔郎之ニ任ス測  
量技師一名ヲ置キ技手嶋田道生之ニ任ス而シテ疏水委員ヲ廢ス今本編ニハ  
最後ノ改定職制ヲ掲ク

疏水事務所職制 十九年七月三十一日  
廳第六十五號達

職制

疏水要誌

○沿革

○職制



第一條 本所ハ左ノ職員ヲ以テ組織シ上局ニ屬シテ疏水ノ事務ヲ管理スル所トス

所長 壹人 書記官ヲ以テ之ニ任ス

本所ノ官吏ヲ指揮統督シ疏水ニ關スル百般ノ事務ヲ執行ス

但事重大ニ涉ルモノハ知事ノ裁決ヲ經ルモノトス

司計長 壹人 上下京區長之ニ任シ交代服務ス

會計一切ノ事務ヲ幹理ス

理事 壹人 屬ヲ以テ之ニ任ス

所長官屬ノ事務ヲ調理シ及所長ノ裁決ヲ受クヘキ諸案ヲ調査シ所長不在

ノ時ハ其事務ヲ代理ス

工師 壹人 技術官ヲ以テ之ニ任ス

工事ヲ計畫シ及所員ニ於テ施行スル工事ヲ審査スルヲ掌ル

測量師 壹人 技術官ヲ以テ之ニ任ス

測量ニ從事シ及測量ノ方法ヲ計畫シ所員ニ於テ施行スル測量事務ヲ審査

スルヲ掌ル

所員 若干名 屬及技手區書記 上下京區各名ヲ以テ之ニ任ス

庶務工事測量司計及煉瓦製造木材調製其他所長ニ於テ指揮スル所ノ事務

事務取扱心得

ニ從事ス

疏水事務所事務取扱心得 廿年十二月三十日 達第貳拾貳號

第一章 總則

第一條 本所ノ事務ハ凡テ所長ノ指揮ニ依リ施行ス可シ

第二條 所員取扱ノ事件豫メ其主管ヲ分ツテ如左

○庶務主任主管事件

- 一 官印管守ノ事
- 一 諸案調査ノ事
- 一 聯合區會ニ關スル事
- 一 常務員諮問及報告等ニ關スル事
- 一 諸規則類立案取扱ノ事
- 一 公文淨書往復等ニ關スル事
- 一 諸記録編纂ニ關スル事
- 一 諸建造物等ニ關スル事
- 一 雇員及小使等ニ關スル事
- 一 工事施行又ハ測量看透ノ爲メ地所家屋植物等買上若シハ移轉及之ニ關スル不用物件處分等ノ事



- 一 他官衙人民ニ係ル照會談判又ハ定約取結等ノ事
- 一 火藥貯藏及火藥取締人ニ關スル事
- 一 宿直順番取調及通知方取扱ノ事
- 一 主管ナキ事件ニ關スル事

○工事煉瓦製造木材調製主任主管事件

- 一 擔當事業ニ關スル圖面仕様書目論見書豫算書等調製ノ事
- 一 現業ノ諸般指揮監督ノ事
- 一 擔當事業ノ經費調理及精算ニ關スル事
- 一 擔當工場ニ屬スル諸建造物ニ關スル事
- 一 擔當工場ニ屬スル定夫小使指揮監督ノ事
- 一 擔當工場ニ屬スル圖書諸機械等管守ノ事

○測量主任主管事件

- 一 線路ニ係ル高低中心諸積其他測量ノ事
- 一 同上圖面及買上地ニ關スル圖面等調製ノ事
- 一 水量觀測所ニ關スル事
- 一 測量定夫指揮監督ノ事
- 一 測量圖面諸機械及附屬品等管守ノ事

○司計主任主管事件

- 一 工費收支ノ豫算及決算調理等ノ事
- 一 諸用度品供給等ニ關スル事
- 一 經費ノ出納及之ニ屬スル諸帳簿管守等ニ關スル事
- 一 經費取扱ニ關スル諸般監査ノ事
- 一 備附品消耗品其他事務所ニ藏置ノ諸品管守ノ事
- 一 不用物品賣却等ニ關スル事

第三條 附屬員ハ主任ノ指揮ニ從ヒ現業ノ監督及筆算其他ノ業務ニ從事スヘシ

第四條 左ノ諸件ハ施行ノ前常務員ヘ諮問スヘキモノトス

- 一 豫算ノ工事及煉瓦製造木材調製事業實施ノ事
- 二 豫算外ノ事業實施ノ件
- 三 既定ノ事業變換ノ件
- 但變換スヘキ事業輕微ナル場合ハ報告ニ止ルコトアル可シ
- 四 不用物品等賣却ノ件
- 五 目論見金尙ニ不足ヲ生シ金員支出ノ件
- 六 各費目流用ノ件

第五條 左ノ諸件ハ常務員ヘ報告スヘキモノトス



一臨時急施ヲ要シ諮問ノ手續ヲ了スル能ハズ直ニ着手セシ件  
 二同上ニヨリ金員支出ノ件  
 三工事竣功ノ件  
 四木材調製事業一豫算限完結ノ件  
 五煉瓦製造事業一々年度豫算限完結ノ件  
 六借地借家等返還ノ件  
 七經費每一ヶ月勘定帳調製ノ件  
 第六條 前兩條ノ外ト雖モ諮問又ハ報告ヲナスヘキモノト看認ルモノハ尙前兩條全様ノ取扱ヲナスヘシ  
 第七條 各所員主務ノ事件他ノ主務員ニ關係アルモノハ都テ回議スヘシ  
 第八條 各所員主務ノ事件ト雖モ技術上ニ關係アルモノハ凡テ工師又ハ測量師ニ協議スヘシ  
 第九條 各主任ハ編輯ノ材料トナスヘキ爲メ毎日ノ諸事件細大ヲ問ハス日誌ニ詳録シ置クヘシ  
 但庶務編輯主任ニ於テ特ニ必要トスル事件ハ豫メ其項目ヲ掲ケ照會シ置クヘシ  
 第貳章 文書取扱及編纂ニ關スル事

第拾條 諸官衙人民等ヨリ差出セル所長又ハ本府宛ノ文書ハ庶務主任ニ於テ之ヲ收受ス可シ  
 但各主任擔當事業ニ關シ請負人等ヨリ差出セル書面ハ各主任ニ於テ收受スルコトヲ得

第拾壹條 前條庶務主任ニ於テ收受セル書類ハ之ヲ開緘シ<sup>親展書</sup>指出ノ官衙名又ハ姓名住所等ヲ点檢シ不都合ナキモノハ件名録ニ登載シ所長檢閱ノ後其主務員ニ交付ス可シ  
 但金員其他ノ物品添付アルモノハ詳細ニ其要領ヲ附記スヘシ

第拾貳條 前條ノ文書ニシテ其指出者ニ對シテ回答若クハ指令等ヲ要スルモノハ要回答ノ印ヲ捺シ主任者ニ交付ノ後五日ヲ過クレハ之ヲ促問シ豫メ其完結ノ日ヲ定メシム可シ

第拾三條 第拾壹條ノ文書ニシテ主務員ニ於テ交付ヲ受シテ回答若クハ指令等ヲ要スルモノハ之ヲ回答若クハ指令案等ノ伺書ニ添付スヘシ其回答若クハ指令等ヲ要セサルモノハ一覽ノ後直ニ庶務主任ニ回付シ庶務主任ハ之カ部類ヲ分チ綴込チナス可シ

第拾四條 第拾條但書ニ依リ各其主務員ニ於テ收受セル書類ハ五日以内ニ所長ノ閱覽ニ供シ庶務件名簿ニ登錄ヲ求ム可シ尤モ其處分ヲ要スルモノハ處分案



稟議書ニ添付シ差出ス可シ

但金銭仕拂請求書ハ直ニ司計主任ニ回付ス可シ

第拾五條 所長裁決又ハ閱覽濟書類ハ凡テ庶務主任ニ於テ管理シ其發行スヘキモノハ其取扱ヲ爲ス可シ

但金銭收支票書ハ司計主任ニ於テ管理ス可シ

第拾六條 前條書類ハ部類ヲ分テ凡テ其原書ヲ綴込ム可シ

第拾七條 各主任ヨリ差出セル同上申書類ハ其裁決ノ意旨ト月日トヲ關係主任ニ通知ス可シ

但合議ヲ受ケシ主任ヨリ意見副申等ヲ付シ所長之ヲ裁決シタルハ其全文ヲ寫取リ之ヲ添付ス可シ

第拾八條 常務員ヨリ答議書ヲ差出セルハ其答議ノ趣旨金員月日等ヲ主任ニ通知ス可シ

第拾九條 所長裁決又ハ閱覽濟ノ後其主任ニ於テ副本ヲ要スヘキ同上申其他ノ書類ハ各其主任ニ於テ豫メ副本ヲ謄寫シ置ク可シ

第貳拾條 各主任ニ於テ取扱フ事件ハ都テ事務件名簿ヲ作り之ニ登録シ置クヘシ

第廿壹條 郵送ニ係ル發行文書ハ其件名目方税額及書留別仕立配達所差出名ヲ

帳簿ニ登記シ人足仕立又ハ電信ヲ發シタルモ亦之ニ準シ登記ス可シ

第三章 工事及煉瓦製造木材調製事業施行并ニ物品取扱ニ關スル事

第廿貳條 工事及煉瓦製造木材調製事業ヲ施行シ又ハ物品ヲ購入セントスルハ豫算書目論見帳仕様書圖面又ハ品目數量價格取調書等ヲ作り常務員諮問案ヲ具シ伺出ヘシ

第廿三條 前條裁決諮問ノ後第拾八條ニ依リ庶務主任ヨリ其主任ニ通知ヲ受ケタル常務員ノ答議ニシテ修正若クハ否決ニ係ルモノハ五日以内ニ其採否ヲ伺出ヘシ

第廿四條 工事及煉瓦製造木材調製等ノ請負又ハ物品購入ヲ一般ノ入札ニ付セントスルハ目論見帳仕様書圖面又ハ品目數量等ヲ記載セル書面ヲ添ヘ開札期日ヲ定メ伺出ヘシ

但同上指名入札ニ付セントシ又ハ特撰命令ヲナサントスルハ其人名ヲ記シ前項ノ書類ヲ添ヘ伺出スヘシ

第廿五條 諸入札ヲ開札スルニハ其主任及庶務主任立會ノ上取扱フヘク其入札高及其姓名ハ開札ノ傍逐一諸入札開札帳ニ登錄シ立會者之ニ捺印スヘシ

第廿六條 前條開札ノ上其落札否ヲ伺出ツルハ其入札原書ヲ添付スヘシ

第廿七條 既定ノ目論見金高ニ依リ直營ヲ以テ工事及煉瓦製造木材調製事件ヲ



施行セントシ又ハ物品ヲ購入セントスルハ其方法順序例スレハ某ノモノヨリ見積書ヲ  
某組ヘ何々ノ方法價格ヲ以テ一  
部分ノ購買ヲナシムル等ノ類ヲ取調伺出ヘシ其既設ノモノヲ變更セントスルモ亦同

但工事測量用品ニシテ金高拾圓未満ノモノハ各主任限リ決行スルヲ得

第廿八條 請負申付決定セルハ主任ヨリ之ヲ本人ニ達シ請負證書ヲ徴スヘシ

但結約取扱方ヲ庶務主任ヘ移シタルハ同主任ニ於テ其取扱ヲナスヘシ

第廿九條 工事ニ着手スルニハ必土地買上主任ヨリ土地買上濟ノ通知ヲ受クル

カ又ハ特ニ同主任ニ問合セ着手スルニ関ナキ回答ヲ得タル上ニ於テスヘシ然

ラサレハ掘鑿又ハ使用スヘカラス

第三拾條 直管ヲ以テ施行スル工事ト雖モ着手ノ際其成功期豫定ノ日ヲ上申ス

ヘシ

第卅壹條 工事請負人ニ於テ圖面又ハ仕様書等ニ違背セル箇所アリテ手直ヲ命

シタルハ請負人ヨリ苦情申立等アルハ速ニ具申スヘシ

第卅貳條 購入品ヲ其上納者ヨリ受取ルハ物品調度帳ト割印シタル物品收受

ノ證符ヲ下付スヘシ

但即金拂ノモノハ此限ニアラス

第卅三條 通常商店ニテ求メ得ヘキ物品ハ一般入札ヲ以テ購入スヘシ

第卅四條 不用物品ヲ賣却セントシ諮問等ノ取扱ヲナス場合ハ其代價ノ見積書

ヲ添フヘシ

第卅五條 諸機械諸物品ハ明細目錄ヲ製シ其差引ヲ明瞭ナラシム可シ

第卅六條 用度品ヲ授受スルハ凡テ授受帳ニ登記シ双方互ニ捺印スヘシ

第卅七條 隧道工事ハ塲所付壹名以上晝夜現場ニ詰切リ監督セシム可シ

第卅八條 工事ニ要スル木材ハ其種類數量使用ノ項目及使用期日等ヲ記載セル

書面隧道工事ニ於テハ請負人ヨリ  
差出シタル請求書ノ寫ヲ添フヲ以テ其主任ヨリ木材主任ニ請求スヘシ

第卅九條 工事ニ要スル煉瓦ハ其種類數量使用ノ項目及使用期日等ヲ記載セル

書面ヲ以テ其主任ヨリ煉瓦製造主任ニ請求スヘシ

第四拾條 隧道工事ノ現況ハ毎日報告用紙ニ記入シ其翌日午前ニ指出スヘシ

第四拾壹條 運河開門暗溝等ノ諸工事及煉瓦製造木材調製等ノ狀況ハ毎月十日

廿日末日ノ三回報告用紙ニ記入シ其翌日指出スヘシ

第四拾貳條 工事及煉瓦製造木材調製ノ休業日ハ左ノ通トス

一 第一隧道第一段掘鑿工事

十二月三十一日午後第六時ヨリ翌年一月三日午前第六時迄休業

一 前項ヲ除ク外諸工事及煉瓦製造木材調製十二月三十一日午後六時ヨリ翌

年一月四日午前第六時迄及紀元節晝夜施行ノ工事ニ於テハ當日午前  
第六時ヨリ翌日午前第六時マテ天長節同休業

疏水要諦 ○事務取扱心得



第四拾三條 工事着手及成功ノ際ハ速ニ上申スヘシ  
第四拾四條 所長ニ於テ成功ノ工事ヲ臨檢スルキハ庶務主任ヨリ前以テ常務員ニ通知スヘシ

但請負工事ナルキハ其主任ヨリ請負人ニ通知立會セシムヘシ  
第四拾五條 各工場ニ於テ工夫其他ノモノ負傷シ醫員ノ來診ヲ要スルキハ速ニ庶務主任<sup>退所後</sup>ハ宿直ニ通報ス可シ

但便宜ニヨリ醫員ニ直報シタルキハ其趣ヲ庶務主任ヘ報知シ置クヘシ  
第四章 測量及ヒ土地買上等ニ關スル事

第四拾六條 線路測定ノ計畫ハ工師及測量師ノ指揮ヲ受ケ實測濟ノ分ハ平面圖及縱橫斷面圖ヲ製シ具申スヘシ

第四拾七條 前條圖面ニハ水路道路等ノ付換ヲ要スルモノ及其坪數且近傍ノ景況ヲモ登載スヘシ

第四拾八條 線路ノ中心線勾配線ステーションポイントベンチマークスハ測者三名以上各別ニ實測シ交互照合ノ上測量師之ヲ審査スヘシ

第四拾九條 測量主任ハ中心杭幅杭其他必用ノ建杭等ヲナシ工事主任ニ示スヘシ

第五拾條 必要ナル測量杭ニハ都テ本所名ヲ付シタル燒印等ヲナシ一日シテ測

點タルヲ知ラシムヘキ施設ヲナシ置クヘシ

第五拾壹條 隧道工事ノ進功ニ從ヒ其中心線高低線ニ對シ差違ヲ生セサルヤ否豫メ日ヲ定メ一ヶ月二回以上調査スヘシ

但調査濟ノ都度工事主任ヘ通知ス可シ

第五拾貳條 隧道工事ノ進尺ハ毎日午前第六時之ヲ測ルヘシ

第五拾三條 測量ノ現況ハ毎月十日廿日末日ノ三回報告用紙ニ記入シ其翌日指出スヘシ

第五拾四條 測量見透障礙竹木伐採ヲ要スヘキ地方ヲ測量セントスルキハ着手期日ヲ定メ豫メ庶務主任ヘ其趣ヲ通知スヘシ

第五拾五條 庶務主任ハ前條通知ヲ受ケタルキハ所轄戸長ヘ通知シ所有者ヲシテ豫メ竹木ノ伐採セラレヘキヲ了知セシムルノ取計ヲナサシムヘシ

第五拾六條 測量主任ハ障礙竹木ヲ伐採セシキハ其翌日庶務主任ヘ通知シ其處分方ヲ求ムヘシ

第五拾七條 庶務主任ハ前條ノ通知ヲ受ケタルキハ現場ニ出張シ所有者立會ノ上伐採竹木ノ種類數量及其手當金額ノ取調ヲナスヘシ

第五拾八條 測量見透ノ爲メ家屋其他ノ移轉ヲ要スルキハ圖面ヲ製シ測量主任ヨリ具申スヘシ



第五拾九條 前條裁可ノ上庶務主任ハ所有者ニ通知シ移轉料取調書ヲ差出サシ  
メ實地ニ出張シ其當否ヲ取調フヘシ

第六拾條 土取場又ハ土捨場等ノ爲メニ買上ヲ要スル地所ハ測量主任ニ於テ工  
事主任ニ協議シ圖面字番號段別持主  
地價ヲ記載スヲ製シ具申ス可シ

但家屋其他ノ移轉ヲ要スルハ其趣ヲ詳記ス可シ  
第六拾壹條 庶務主任ハ前條裁可ノ上實地ニ出張シ圖面壹葉ハ戸長役場  
ニ下付スヘシニ依リ所有  
者ニ示シ且立毛ノ取除等ヲ要スルモノアルハ其手當金額ノ取調ヲナス可シ

但家屋其他ノ移轉料取調方ハ第六拾條ニ同シ  
第六拾貳條 庶務主任ハ土地家屋又ハ伐採竹木所有者ヨリ差出セル上申書ニ據  
リ手當金額與ニ係ル諮問及指令等ノ取扱ヲナスヘシ

但指令案伺書ニハ第六拾壹條ノ圖面壹葉ヲ添フヘシ  
第六拾三條 水量觀測表ハ毎月一表ヲ製シ觀測人ヨリ指出サセ翌月十日限り所  
長ノ閱覽ニ供ス可シ

第六拾四條 水量標柱ハ三ヶ月以内測量主任ニ於テ少クモ一回檢査スヘシ  
但洪水其他時變アルハ臨時檢査スヘシ

第五章 經費ノ豫算決算及其收支取扱ニ關スル事  
第六拾五條 工費ノ會計年度ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ以テ一周年度トナス

第六拾六條 疏水工費支出ノ豫算議案ハ各主任ニ於テ其下調ヲナシ司計主任ニ  
回付シ同主任ニ於テ之ヲ調査整理シ各主任ハ回職ノ上所長ヘ呈スヘシ

第六拾七條 前條議案裁決ノ上ハ庶務主任ニ於テ上下兩京區長ヘ達シ聯合區會  
ニ付議セシムルノ順序ヲ取扱フヘシ

第六拾八條 區長ニ於テ會議ノ決ヲ取リ認可否ヲ伺出タルハ庶務主任ニ受ケ  
其指令ノ取扱ヲナスヘシ

第六拾九條 司計主任ハ國庫若クハ府廳ノ補助金ヲ受入レ又ハ區長ヨリ工費金  
ノ送付ヲ受ケタルハ之ヲ爲換方ニ預ケ入ル、ノ順序ヲ爲スヘシ

第七拾條 各主任ハ其擔當事件ニ關スル經費ノ明細差引簿ヲ作り其勘定ヲ明瞭  
ニスヘシ

第七拾壹條 凡ソ金錢支拂ヲ要スルハ本人ヨリ請求書ヲ差出サシメ調査ノ上  
仕拂スヘキ年度及費目ヲ明記シ主任檢印ノ上司計主任ヘ回付スヘシ

第七拾貳條 司計主任ハ前條請求書ノ回付ヲ受ケタルハ之ヲ精査シ五日以内  
ニ仕拂ノ手續ヲナスヘシ

第七拾三條 金員收支ハ都テ傳票ヲ製シ其取扱ヲナスヘシ

第七拾四條 金錢ノ授受ハ凡テ仕拂切符及爲換方預ケ切符ヲ以テス可シ

疏水要諦 ○事務取扱心得



第七拾五條 金錢ノ收支ハ日計簿受拂簿追算簿豫算差引簿ヲ以テ之ヲ整理スヘシ

第七拾六條 收支ノ傳票及領收證ハ鄭重ニ保存スヘシ

第七拾七條 諸收入金アルヘキ場合ハ必ス其金額事項及上納期日ヲ記載シ前以テ其主任ヨリ司計主任ヘ通報スヘシ

但納人ヨリ司計主任ヘ差出スヘキ上納證ニハ一通ヘ主任檢印スヘシ  
第七拾八條 諸上納金ハ都テ上納證貳通ヲ差出サシメ一通ハ領收ノ印ヲ捺シ割印ノ上之ヲ本人ニ下付シ領收ノ證トナスヘシ他ノ一通ハ傳票仕出ノ證トナスヘシ

第七拾九條 各主任ハ工事及煉瓦製造木材調製事業ノ一豫算限成功スル毎ニ三十日以内ニ其經費ノ精算帳ヲ作り司計主任ニ回付ス可シ

第八拾條 司計主任ハ每月經費ノ勘定帳ヲ作り翌月五日迄ニ所長ニ呈ス可シ  
第八拾壹條 司計主任ハ一週年度ノ決算ヲ了シ所長ノ檢閱ニ供シ區長ニ送付スルノ取扱ヲナスヘシ

第六章 宿直及雜事

第八拾貳條 本所ニ於テ本所詰員各工場ニ於テハ工場付屬員順番ヲ以テ壹名宛宿直ス可シ

但休暇日ハ本所ニ於テハ午前九時交代ス可シ

第八拾三條 宿直員ハ事務所又ハ工場内ニアル書類諸機械圖面其他諸物品ヲ保管スヘシ

第八拾四條 宿直員ハ事務所又ハ工場内ヲ巡視シ火氣等ニ注意スヘシ

第八拾五條 宿直ニテ受付クル所ノ書類ハ翌日本所ニ於テ庶務主任ヘ各工場ニ於テハ該主任ヘ引續クヘシ

但至急ヲ要スル書類ハ速ニ其主任ヘ送付スヘシ

第八拾六條 宿直員ハ臨時人足雇入及郵便電信差立等ヲ要スル時ハ其取扱ヲナスヘシ

第八拾七條 宿直員ハ其取扱タル事件ヲ逐一宿直日誌ニ登錄シ置クヘシ

第八拾八條 火藥庫出入ノ時ハ必火藥取扱印章ヲ携帯シ之ヲ看護人ニ示ス可シ  
各工場  
各工場

明治十八年八月八日始メテ土功ニ着手スルヤ幹線六千七百七間枝線四千六百十三間合計一萬零七拾二間ヲ分テ五區トナシ第一區ヲ滋賀縣下大津ニ置キ大津工場トナシ湖岸ヨリ三井寺山下ニ至ル開展水路四百貳間及第一隧道東端五百九拾六間ノ工事ヲ分擔セシメ第二區ヲ同縣下藤尾村字金堀谷ニ置キシヤフト工場トナシ深サ百五拾六尺ノシヤフト工事ト第一隧道中央三百九拾四間ノ工



事ヲ分擔セシメ第三區ヲ同縣下藤尾村ニ置キ第一隧道西端三百五拾間及開展水路五百貳拾間ノ工事ヲ分擔セシメ第四區ヲ本府下宇治郡山科村字日岡ニ置キ山科工場トナシ開展水路千九百九拾間及第二隧道六拾八間五分第三隧道四百六拾七間及インクライン三百貳拾間ノ工事ヲ分擔セシメ第五區ヲ府下宇治郡日岡村字蹴上ニ置キ蹴上工場トナシ開展水路九百九拾八間五分及支線開展水路四千三百三拾貳間及第四隧道七拾五間第五隧道五拾六間第六隧道百間水路閣五拾壹間ヲ分擔セシメ又此五工場ノ外木材工場ヲ宇治郡安米村醍醐村其他各處ニ置キ煉瓦工場ヲ宇治郡御陵村ニ置キ石材採掘ヲ滋賀縣藤尾村及本府下淨土寺村修學院村等ニナシ以テ工事物料ノ需用ニ供ス各工場創置及廢止ノ年月ヲ左ニ掲ク

各工場開閉

箇所	開場	閉場	年月
大津工場	明治十八年十二月七日	同廿二年四月廿三日	四年五月
シャフト工場	明治十八年八月六日	同廿二年六月十一日	四年二月
藤尾工場	明治十九年三月八日	同廿三年四月廿三日	三年七月
山科工場	明治二十年一月十三日	同廿二年七月廿九日	二年七月
蹴上工場	明治二十年八月三十日	同廿三年四月廿三日	滿三年

起工式

木材工場	明治十九年三月四日	同廿二年十二月廿五日	三年三月
煉瓦工場	明治十九年六月廿六日	同廿二年十月卅一日	三年四月
石材工場	明治十九年十二月十五日	同廿三年三月卅一日	二年四月

起工式  
十八年六月二日及三日ノ兩日ヲ以テ起工式ヲ舉行ス今其大畧ヲ左ニ掲ク  
祭天智神社於三月二日於  
皇天智神社  
諸神

明治十八年六月二日及三日ノ兩日ヲ以テ起工式ヲ舉行ス今其大畧ヲ左ニ掲ク是ヨリ數日前祇園八阪神社内社務所ヲ以テ起工式假事務所トナシ屬官十三名ヲ委員トシ諸般ノ事ヲ辦理セシム  
六月二日午前第九時北垣府知事ハ尾越疏水事務所長谷口同副長陶警部長大坪收稅長杉浦上京區長竹村下京區長ヲ率井滋賀縣下藤尾村ニ至ル事務所員一同之ヲ迎ヘテ新設シタル起工場ニ導ク此日線路中第一隧道ノ位置ヲシテ一目瞭然メラシメン爲メ數十等ノ測量旗ヲ建テ及式場ニモ旗章ヲ掲ケ府知事以下ノ着席セラシムヤ坑中ニ裝置スル所ノ爆裂藥ニ電氣ヲ以テ點火セシニ勢猛烈聲震雷ノ如ク實ニ勇壯ノ觀ナリキ之ヲ工事第一着手ノ式トナス右畢テ一同大津ニ向ヒ午前十一時疏水首線ニ係ル大津三井寺山下三尾神社ニ於テ天智天皇御靈并ニ産土神へ起工ノ主旨奉告ノ祭典ヲ執行ス中井滋賀縣令モ所屬ノ官吏ヲ隨ヘ式場ニ列ス神官稻荷神社宮司近藤芳介八阪神社宮司鳥居亮信北野神社宮司田中尙房祝詞ヲ上



疏水起工祭祝詞

八十日日波在禮行。六月乃三日乃。今日乃此日乎生日乃足日止何處波在禮行京都東。名細志支八阪神社乎。朝日乃直刺處。其處乃美處止撰定米。更爾齋乃波利淨乃波利。注連引渡志神籬植。桂卷波恐氣禮行。此乃平安乃都。始米給比定米給比志。日本根子皇統彌照天皇乃大御神靈乎。奉招奉坐利。配祀奉留。神等波。天之御中主神。高皇產靈神。神皇產靈神。天照皇大御神。建速素盞烏神。伊邪那岐神。伊邪那美神。大名牟遲神。少彥名神。爾都波能賣神。波邇夜須毘古神。波邇夜須毘賣神。又都乃內外處々乎。分掌。氏宇斯波岐坐須。產土乃神等乎始。天神地祇。諸天爾坐神波天翔來坐志。地爾坐神波地翔來坐志。此乃齋場爾神集比集比給閉止白須。太古大神等乃。此大八洲國乎。生成給比。修理固成給比志波。代乃爲人乃爲爾。萬便利能謀利給比。蒼海乎湛。倍山岳乎造利。泉水乎流。志木草乎生。志。種種乃物爾至留。代。一點計利不足。奴事古曾無。祇奈毛。年月乃來。經行乃爾々。飛鳥川淵。爾變利。最初波便利。善可利志毛。後爾波惡。久成以行事。將無爾志。非受奈毛。有爾留。於是此乃平安乃京波。往古延曆乃大御代。爾始。米左世給比志與利。御代々々乃天皇。樛木乃爾繼々爾。天下所知食志。遠近國々與利。貴賤時自久爾。參上利來。商人乃賣買業。毛甚盛大。奈利志乎。當今乃大御代。爾成利。明治乃始。米。天皇東京爾移。幸坐志與利。產業乃道自然開。

暇多美。稍々爾活計乎失比。終爾波舊都止荒備行。武止須留。况狀奈留乎。京都府知事勳四等從五位北垣國道伊。深久憂比。歎支。甚熟思。爾其久。嗚呼此平安乃京波。山乃乃万比川乃流。禮。天然奈留風致乎。備。開。花爾紅葉爾名所多久。然有留耳。爾非受。大支神社爾殿支寺院。爾各其位置乎。占米。眞盛奈利志。當時乃狀況。毛相像。禮。甚毛悲支。極爾奈毛。有爾留。其遷都乃始。天皇詔志給波。久。以水陸之便遷都此邑。言念此民止。又後爾防鴨河使乎。置禮。鴨河乃水乎。防加世給比。又波朕心。爾任世奴物止左。爾宜比志。程奈留乎。代々乎。經留。方々爾々。飛鳥川。奈其奴毛。淵。爾也。換利。奴其武。放水乃便利乎。謀留。爾如自止。左右思比。回。其志。長。人々爾。諮問比。協議利。論比。定米。天曾々利立比。數方高峯乃麓乎。穿。知。底津巖根乃古。基志支乎。切疏。志。近江乃湖乃餘。爾留乎。取兵。加茂川乃不足。爾引支。然志。氏京都乃經緯。蜘蛛手爾分。知。漸次發明。氣行諸乃。機械乎。運轉可志。米。頻。爾職工乃業乎。起。夏波田。昌爾灌漑支。氏大旱乃患比。無其志。米。或波船乎。浮。閉。筏乎。流。志。人民乃勞乎。助。那。牛馬乃力乎。省。支。或波飲水乃乏。志。支。憂比。無其志。米。亦波。爾遇。突。智乃。荒。備乃。防。爾備。奈。邊。恐。那。禮。行。彼乃。大。詔。爾毛。稱。布。閉。志。止。衆議一決。米。氏。即是乎。朝廷。爾請。願。奉。其。武。止。國道。自身。擔任。氏。東京。爾往。還。留。事。一。回。二。回。爾。非。受。年。乎。越。衣。月。乎。經。利。氏。終。爾。本。年。乃。春。御。許。可。乎。得。多。利。支。雖。然。此。事。也。他。乃。國。爾。毛。自。國。爾。毛。往。古。毛。當。今。毛。比。類。稀。奈。留。容。易。可。其。奴。大。事。業。爾。志。有。禮。婆。大。神。等。乃。守。利。給。比。幸。倍。給。布。爾。在。邪。禮。邊。功。成。利。難。志。止。起。工。乃。今。日。乃。式。爾。先。是。由。乎。告。奉。



利奏奉利。乞祈念奉其武止志。奉獻幣帛。波明妙照妙。和妙荒妙。神饌波和稻荒稻。神酒波白酒黑酒乎。甕上高知甕腹滿並。大野原爾生留物波。甘菜辛菜。青海原爾成出留物波。鱒廣物鱒狹物。與津藻菜邊津藻菜爾至留万代。種々乃物乎。横山乃如置高成。太玉申乎捧持。稱辭竟奉其久乎。平氣久安氣久。赤丹乃穗爾聞食乃。此大事業爾關係留官員乎始。手人使丁等爾至留万代。在津日止云神乃在事爾。相率許利相口會布事無久。各々已我乖々爲事無久。手蹟足蹟不令成給。飛彈人乃打墨繩乃速氣久。令事竟給比。自今以後。商業爾工業爾。彌開氣爾開。彌榮爾榮衣行。皇國乃大御光乎。八洲乃外万代輝可世給倍止。如鴉伊波比毛登保里恐美恐美毛。乞祈念奉其久止白須。

齋主 近藤芳介  
鳥居亮信  
副齋主 田中尙房

次テ北垣府知事 中井滋賀縣令 及尾越谷口兩書記官 以下順次禮拜ス式畢テ參觀人  
〜祝餅ヲ與〜社内ニ於テ散樂ヲ奏ス又天津商工會議所ニ於テ滋賀縣令同縣官大

起工祝文

津裁判所判事檢事 大津管所陸軍武官 大津鐵道電信兩局長 大津病院長 滋賀郡長 郡書記 戸長 縣會常置委員 大津商工會議所員 銀行頭取 締太湖漁船會社頭取 米商會社長 近江共同新聞社并ニ祭典ニ從事セシ神官宮司等 一百五名ニ午餐ヲ供ス  
六月三日 八阪神社ニ於テ桓武天皇御靈并ニ産土神へ起工ノ主旨奉告祭典ヲ執行ス同日 早旦祭壇ヲ清メ祭器ヲ陳テ第一拆報ヲ以テ各員盥嗽第二拆報正副齋主近藤鳥居田中三宮司及諸ノ神官齋場ニ上ル次テ北垣府知事 中井縣令 尾越谷口兩書記官 陶警部長 大坪收稅長 杉浦竹村兩區長 府官議員 整列被主 被ヲ行ヒ次テ副齋主鳥居田中兩宮司 降神奉行次テ神饌ヲ供ス此間奏樂次テ副齋主幣ヲ奉リ次ニ齋主近藤宮司祝詞ヲ奏ス  
次ニ府知事ハ起工ノ祝文ヲ朗讀ス

祝文

京都永遠維持ヲ企圖センヌメ先般琵琶湖疏水ノ事ヲ申請セシニ物議百端日ヲ移ス久シ忝ナリモ我  
天皇陛下至仁ノ恩旨ニ由リ遂ニ之ヲ許可セラレタルヲ以テ本日其起工ノ式ヲ舉ルノ旨趣ヲ序テ畏クモ此平安京ヲ創開在セ玉フ  
桓武天皇及疏水沿道産土神祇ノ神靈ニ白シ奉レリ夫レ物ノ情始メニ易キモノハ終リ必ス難ク始メニ難キモノハ終リ必ス易シ但其事ノ成否消長ノ機實ニ人



ニ存ス抑此工事タル國道上下京區ノ父老及議員諸氏ト之ヲ謀ル丁數年其間相  
 共ニ計畫ノ艱苦千萬言ナラス幸ニ本日ノ嘉儀ヲ舉行スルヲ得タリ是レ固ヨリ  
 父老及諸氏ノ京都維持ノ爲メ盡ス所ノ精神貫徹シテ至仁ノ恩旨ヲ蒙ルヲ得  
 タリト雖モ又其至誠ノ自ラ神靈ニ感覺スルアリテ然ラシムルニ非スシテ何ソ  
 ヤ果シテ然レハ相共ニ此恩旨ニ報ヒ并セテ神靈ニ答ヘ奉ルノ道ヲ盡ササルハ  
 カラス且夫レ忍耐ニ非レハ負擔ノ重キニ勝ルナク勉強ニ非レハ成功ノ期ヲ遂  
 クル能ハス噫國道父老及諸氏ト共ニ己ニ負擔ノ重任アリ又略ホ工事竣功ノ時  
 月ヲ約ス自今本府屬員兩區人民協心從事能ク情故ヲ忍ヒ勉強息マサレハ他日  
 終リノ易キヲ觀ルヲ得テ以テ永遠此地ヲ維持スルノ基ヲ立テハ庶幾ハ詔々々  
 ル至仁ノ恩旨ニ報ヒ奉リ赫赫タル至明ノ神靈ニ答フル所アラソ乎爰ニ此言ヲ  
 陳ヘテ疏水起工式ノ祝辭トナス

明治十八年六月三日

京都府知事從五位勳四等北垣國道

次ニ勅委任官玉印ヲ奉テ拜禮次ニ判任官議員以下拜禮本府土木課長多田郁夫三  
 等屬田邊朔郎中學校長今立吐醉女學校長吉田秀毅區會議員高木文平中村榮助  
 全河野通經全兒嶋定七及府民谷鐵臣藤田組久原庄三郎中外電報社鹿野享利等ノ  
 祝文アリ祝文ハ全誌ニ載ス次ニ祭官拜禮神饌ヲ撤ス此間次ニ副齋主昇神奉行此ニ於テ祭典終  
 リ參觀人ニ紅白ノ祝餅ヲ與ヘ來賓ニ午餐或ハ晚餐ヲ進ム本日山階宮殿下久遊宮

殿下ヲ圓山尙歌堂ニ奉迎シ内務卿代理土木局長及隨行員宮内省支廳員京都裁判  
 所員大阪府知事全大少書記官全各課長全四區長全淀川沿川郡長大阪裁判所員造  
 幣局長大阪中學校長滋賀縣令全大書記官全警部長全收稅長全各課長滋賀郡長兵  
 庫縣令全書記官神戶裁判所長神戶稅關長小野濱造船局長神戶工作分局長京都驛  
 遞出張局長全電信分局長全鐵道局驛長大阪諸會社社長全銀行頭取大阪新聞記者神  
 戶新聞記者等一百拾七名ヲ祇園中村樓ニテ饗應シ本府判任官上下兩區書記及戶  
 長兩區議員同舊議員區部會議員愛宕葛野紀伊宇治郡長愛宕宇治沿道戶長府立各  
 學校長上下京學務委員全衛生委員全勸業諮問會員郡部常置委員上下京商工組長  
 同銀行諸會社新聞社員神官等八百貳拾壹名ヲ各所ニ招待シ晚餐ヲ進ム此日祝意  
 ヲ表スル爲メ有志者互ニ協同贊助シ各所ニ花門ヲ造リ旗章ヲ建テ毬燈ヲ掲ケ烟  
 火ヲ放チ幾多ノ意匠各般ノ裝飾燦爛目ヲ奪フノミナラス書畫酒茶ノ席ヲ開キ盆  
 栽瓶花ノ筵ヲ設ケ或ハ擊劍演射角力競馬ノ會ニ絲竹笙鼓歌舞戲藝ノ場ニ咸ク以  
 テ來賓ノ餘興ヲ添ヘ遊人ノ縱覽ニ供ス其雲霞霞篋實ニ名狀スヘカラザリキ

上下京聯合區會并ニ市會

上下京聯合區會并ニ市會  
 疏水工事大體ノ經費ハ明治十六年十一月十五日同十七年七月十八日ノ兩會  
 ニ於テ百貳拾五萬圓ト定メ内三拾萬圓ハ産業基金立金ヲ支出シ拾五萬圓ハ國庫  
 ノ補助ヲ仰キ拾五萬圓ハ府廳ノ下ケ渡シテ願ヒ六拾五萬圓ハ上下諸京區民ノ

疏水要誌

○上下京聯合區會并ニ市會



第一回 上下京聯合區會 通過會

課出負擔ト定メ而シテ十八年一月起功ノ特許ヲ蒙リタルヲ以テ同三月以降二十三年六月ニ至ル迄毎年度工費支出豫算ヲ議スル爲メ通常會臨時會及市會ヲ開クニ廿餘回ニ及ヘリ今年月ヲ逐ヒ左ニ列記ス

第一回 上下京聯合區會 通過會

明治十八年三月十日開會出席議員二十名十七年度疏水工事經費豫算ヲ議ス之ヲ大體工費百貳拾五萬圓ニ對スル收支會議ノ最初トス

議長下京區長竹村藤兵衛ハ疏水工事特許セラレタルニ付十七年度即チ本年三月ヨリ同六月迄四ヶ月間ニ要スル工費支出案ヲ議スル爲メ本會ヲ開ク旨ヲ演ヘ議案ニ對シ種々質問答辯アリシ中ニ就キ爆發藥購入價格數量ニ異議アリシモ實際ノ得失當否ハ常務員ニ一任スルコト、シ又番外ヨリ府廳下渡金ハ總費額ニ割合セ百圓ニ付拾圓八拾錢餘ヲ毎年度ノ工費ニ應シ下付スルコト、定メラレタリトノ説明此外起工式費ヲ廢シ有志寄付金ヲ以テ舉行セントノ動議問題トナリタレモ同意者少數ニテ否決シ結局原案金額同意者過半数ニテ即日確定ス

第二回 上下京聯合區會 通過會

十八年五月廿七日開會出席議員十八名十八年度即チ十八年七月ヨリ全十九年六月迄ノ經費豫算ヲ議ス先ツ常務員ヨリ諮問ノ件々實地施工ノ梗概ヲ報告シ次テ諮問ヲ經スニシテ物料購入濟ノ上報告セルト又決議ニ反シタル實施ノ如キ彼是駁

第三回 上下京聯合區會 臨時會

議ヲ起シ同廿八日出席議員十七名前日ノ議事ヲ繼キ土地買上費ニ至テ異議ヲ生シ實地調査委員ヲ置カントスルノ動議アリシモ起立ニ問フニ及ンテ否決セリ同廿九日出席議員十四名工事費ニ種々ノ異論アリ減額說ニ派ニ分レ可否ヲ決スルニ至テ兩說及原案ハ消滅シ更ニ再議ヲナシ工事費土地買上費雜費準備金ヲ減額修正シテ確定ス

第三回 臨時會

十九年三月廿七日臨時會ヲ開キ工事費ニ係ル十八年度追加豫算ヲ議ス出席議員十六名一二質問答議アリシモ即日原案ニ確定ス

第四回 上下京聯合區會 臨時會

十九年四月七日臨時會ヲ開キ土地買上ニ係ル十八年度追加豫算ヲ議ス出席議員二十名議事ニ先チ番外ヨリ土地ノ必要及ヒ目下買上ノ好機會ナルヲ説明セシカ或ハ買上ノ必用ヲキテ論シ或ハ當分借入ルヘントノ議アリシモ決テ起立ニ問フニ及ンテ過半数ヲ以テ原案ニ確定ス

第五回 臨時會

十九年五月廿九日臨時會ヲ開キ十八年度追加豫算ヲ議ス出席議員二十名議案ハ測量ト工事ノ兩費目ナリ測量費中中心線布設ニ付見透ノ爲メ土地買上代金障礙竹木伐採手當料及賣却代價ニ付實地調査セント云フ說ニ同意者アリシモ起立少

第五回 上下京聯合區會



數ニテ消滅シ減額ニ説ノ内四千百拾圓五拾錢壹厘トナス説ハ起立ニ問フテ否決  
 シ四千五百八拾九圓拾貳錢六厘トナスノ説過半数ヲ以テ可決ス同三十日休會同  
 三十一日出席議員二十名前日ノ議事ヲ繼キ工事費ニ移ル是亦減額説多クシテ歸  
 着スル所ナキヲ以テ議長ハ修正委員ヲ指名シテ議案ヲ訂正シ三萬千六百六拾五  
 圓貳拾錢五厘トス決ヲ取ルニ及シテ起立十名遂ニ修正案ニ決ス  
 上下京兩區長ヨリ工事費ハ實施上差支アル旨稟申セシニ左ノ指令ヲ付セラレタ  
 リ  
 書面ノ趣測量費ハ評定ノ通り工事費ハ原案ノ通りヲ以テ施行可致候事  
 但收入豫算ハ原案ノ割合ヲ以テ算出スヘシ

明治十九年六月三日

京都府知事北垣國道

第六回 通常會  
下京聯合  
區會

第十九年五月三十一日通常會ヲ開キ十九年度經費豫算ヲ議ス出席議員十六名議案  
 朗讀ノ後時間ナキヲ以テ議事ヲ翌日ニ延フ六月一日出席議員十四名議ニ先チ一  
 番議員東枝吉兵衛ヨリ常務員交代ノ期ヲ永クシ從務期限ヲ一箇年トシ責任ヲ重  
 クセントノ建議アリ次テ本案土地買上費ハ減額説ニ派ニ分レシモ五千五拾圓九  
 拾壹錢四厘ト修正スルノ説ニ可決シ工事モ亦敷説紛々底止スル所ナク遂ニ議長  
 ヨリ修正委員ヲ指名ス同二日出席議員十二名工事費ヲ八萬千九百拾貳圓八錢ニ

修正シ其他ノ費目ニモ異議アリシモ起立ニ問フニ及ンテ原案ニ可決ス同三日出  
 席十二名ニシテ工費徵收方法ヲ議シ本會ヲ終フ

第七回 臨時會  
下京聯合  
區會

十九年十二月七日臨時會ヲ開キ第一第二第三隧道但第一隧道ハ最初事務所直營ヲ以テ大津口五十  
ノヲ除キタ  
ル部分ナリ工事ヲ藤田大倉兩組へ特選請負申付クルノ件ヲ諮詢ス質問ノ末出席議員  
 十五名全會一致原案ノ通可決ノ答議ヲナセリ

第八回 臨時會  
下京聯合  
區會

十九年十二月廿三日臨時會ヲ開キ十九年度追加支出豫算ヲ議ス出席議員十六名  
 各費目内譯ニ對シ彼是質問アリシカ番外ハ大津運河架橋六箇所ナリシヲ滋賀縣  
 廳へ協議ノ上三橋ニ減シタル旨及工事急施期限短縮ノ爲メ雇員ヲ増スノ理由ヲ  
 答辯シ他ニ異議ナク即日原案ニ確定ス

第九回 通常會  
下京聯合  
區會

廿年六月二十一日通常會ヲ開キ二十年度經費豫算ヲ議ス先ツ本案ニ對シ質疑答  
 辯ヲ經テ測量土地買上工事木材煉瓦雜費ノ六費目ハ各項毎ニ減額ノ動議起リ總  
 テ贊成者アルヲ以テ議題トナリ同意者多數ヲ以テ修正シ器械建築雜費準備金ハ  
 異議ナク原案ノ通ニ可決ス

第十回 臨時會  
下京聯合  
區會

第十回 臨時會六

疏水要誌 ○上下京聯合區會



二十年十二月二十一日臨時會ヲ開キ二十年追加豫算ヲ議ス出席議員十五名先ツ二十年度ノ工事ニ對シテハ通常會ニテ議了セシニ今又本案ヲ發セシ理由ノ質問アリ番外ハ決議ノ工事ハ殆ト皆着手セシヲ以テ尙一步ヲ進メ工事ヲ急施セントスルカ爲メニ要スル工費ナル旨ヲ答ヘ其他種々ノ質問アリ同廿二日出席十四名測量費ハ減額説アレトモ多數ヲ以テ原案ニ決シ土地買上費ハ運河々幅及土捨場用地ハ利害ニ關スルヲ以テ修正委員五名ヲ撰ミ原案ヲ修正シ工事費及準備金ヲ減額シ借入金ハ議長指名ヲ以テ修正委員五名ヲ定ム廿四日出席十一名借入金額ヲ修正ス

第十一回 通管會五

廿一年七月十八日通常會ヲ開キ廿一年度廿二年度經費豫算ヲ議ス出席議員二十名先ツ廿一年度内ノ經費支出ノ質議ヲ了ヘ廿二年度ノ費目ハ通シテ一時ニ質問ヲナサントスルニ際シ廿二年度ノ經費ハ今日議スヘキモノニアラストノ異論ニ同意者アリ決テ起立ニ問ヒ廢案トナレリ同十九日出席廿一名乙號議案及十九年度精算報告ノ質問ヲナス測量費ハ原額ヲ減シ土地買上ハ原案ニ決シ工事費ハ修正委員五名ヲ撰ミ洞門ニ係ル原案ヲ修正セシム同二十日出席廿二名工事費中洞門費ハ修正額ニ決シ間門架橋等ノ費額ヲ修正ス同二十一日出席議員十九名前日ニ繼キ工事費中張石費ヲ減額シ木材煉瓦雜費ハ原案ノ通雜給ハ雇員小使ヲ減

第十二回 臨時會七

シ洋行費ハ修正委員ヲ指名シ貳千五百圓ニ決ス二十二日ハ休會廿三日ハ出席二十名乙號議案ヲ議決確定ス

廿一年九月廿四日臨時會ヲ開キ二十一年度追加支出豫算ヲ議ス出席議員十九名先ツ番外ノ本案ニ對スル主意ノ説明ヲ望ム番外之ニ答フルニ本年通常會ニ於テホリヨーク迄ノ洋行費ハ既ニ決議セシニモ拘ハラズ茲ニ瑞西行ノ議案ヲ發セシハ該地ハ少量ノ水ヲ巧ニ使用スルヲ以テ其實況ヲ取調ヘハ充分ノ利益アルヲ以テナリト是ヨリ種々辨論駁議アリ結局洋行費ハ通常會決議ノ通シ以テ本案ヲ廢スヘシトノ説同意者ヲ得決テ起立ニ問フニ及ンテ過半數ヲ占メ原案ハ消滅ニ屬ス

第十三回 通管會六

廿二年三月會計年度改正ニ付同月廿一日本會ヲ開キ二十二年四月ヨリ六月ニ至ル三ヶ月間ノ經費豫算ヲ議ス出席議員十七名議長ハ本年七月ヨリ市制實施且會計年度改正ニ付三箇月間ノ經費ヲ議スル旨ヲ演ヘ議事ヲ始ムルニ先ツ常務員ハ區會議員ト共ニ消滅スレハ此間工事ハ當局者ノ隨意ニ施行スルヤ否ヲ質議シ番外ハ法律ニヨリ常務員ヲ撰出シ得サルモ人民ノ代理トシテ相當ノ代表者ヲ實地ニ出張セシメナハ從前ノ常務員ト同視シ協議シテ工費ヲ支出スルト亦諮問手



第一回市會

續ト異ナルヲナカラント答ヘ各費目順次ニ質問チ了ヘ二次會ニ至テ測量土地買上費ハ原案ノ通工事費ヲ修正減少シ木材煉瓦器械建築雜給雜費ハ原案ニ決シ準備金ハ修正説ニ決ス

市會一

二十二年六月廿八日開會出席議員二十九名廿二年度 自廿二年七月至廿三年三月 京都市歳出入臨時費豫算第一款疏水工費ヲ議ス測量費ハ原案ニ決シ工事費ニ至テ調査委員五名ヲ撰ハントノ動議々題トナリタレトモ起立少數ニテ消滅シ木材器械建築雜給ハ異議ナク原案ニ可決シ雜費及準備金ヲ減シ借入金ノ償却ヲ議シテ本會ヲ終フ

第二回市會

市會二

廿二年九月六日出席議員三十名疏水工費ノ爲メ大阪府下ヨリ要求セシ豫防工費惡水吐口改修工事費ヲ本年冬季ニ於テ同府ニ交付セン爲メ開會シ審議ノ末遂ニ原案ニ決ス

第三回市會

市會三

廿二年十月八日開會出席議員二十八名疏水工費取扱ノ件ヲ議ス審議ノ末原案ニ決ス

第四回市會

市會四

廿二年十月十八日開會出席議員三十名疏水線路全体雜形ヲ調製シ内國勸業博覽會へ出品スル件ヲ議ス審議ノ末遂ニ原案ニ決ス

第五回市會

市會五

廿三年一月十一日開會出席議員三十一名疏水要誌等出版費ノ件ヲ議ス直ニ原案ニ決ス

第六回市會

市會六

廿三年三月十四日開會出席議員二十九名廿三年度京都市歳入出臨時費豫算第一款疏水工費ヲ議ス各費目ニ就テハ別ニ異議ナク雜費ノ内通水式費ヲ議スルニ至テ減額説ニアリ一ハ貳千圓トシ一ハ三千圓トス共ニ同意者ヲ得テ議題トナリ決シ起立ニ問フニ及ンテ兩説トモニ少數ニテ消滅シ遂ニ原案ニ決ス

第七回市會

市會七

廿三年四月五日開會出席議員三十三名疏水工事成ルヲ告ケ四月八日通水式ヲ舉行スルニ當リ工事ニ功勞アル本府長官ノ爲ニ記念碑ヲ設立シ疏水事務所員ニ賞與セントノ建議過半數ノ同意者アリ建議ヲ採用スルヲ決シ次テ記念碑建設ノ爲ニハ委員ヲ設ケ又建碑ノ事ヲ式日長官面前ニ於テ議長ヨリノ謝辭文中ニ加ヘ朗讀スルモノトシ餘ハ總テ建議ノ通ニ可決シ委員五名ハ議長ノ指名ヲ以テ定ム

建議案

一疏水工事ニ功勞アル北垣京都府知事ノ爲メニ記念碑ヲ建設スル事



建設ニ係ル費用ヲ調査スル爲メ委員ヲ撰擧スル  
 建設ニ係ル費用ノ半額ハ疏水工事不用ノ物品拂代ノ内ヲ以テ支出シ尙半額  
 ハ有志寄付金ヲ以テ之ニ充ツル  
 一 疏水事務所員ニ勉強賞與ヲ給與スル  
 事務所員月俸額一箇月分ヲ目安トシ等差ヲ設ケ給與スル  
 京都府廳ヨリ出タル事務員ニハ可成物品或ハ書面ヲ贈リ謝意ヲ表スル  
 右取計方ハ一ニ市參事會ヘ委任スル

市債

市債

廿二年七月二日開會出席議員廿二名疏水工費ノ爲ニ起ス市債拾五萬圓ノ件ヲ發  
 議ス金額ヲ貳拾萬圓トスルノ說ハ同意者ナクシテ消滅シ市債起スヘカラストノ  
 說ハ少數ニシテ消滅シ遂ニ市債ヲ起ストニ確定ス  
 同年七月五日議員二十八名第一次會ハ原案ニ決シ次テ第二次會ニ於テハ廿二年  
 度内ニアル範圍ヲ延ント云ヒ利子ヲ年五歩トセント云又募集ノ都度參事會ニ於  
 テ定ムルトニセント云ヒシモ諸說共ニ少數ニテ消滅シ第三次會ニ於テ利子ノ修  
 正五歩ト云ヒ五歩五厘ト云ヒ應募者金員一口五千圓ヲ千圓トセント云ヒシモ成  
 規ノ賛成者ナクシテ共ニ消滅シテ原案ニ可決シ同九月六日募集額拾五萬圓ヲ改  
 メテ貳拾萬四千五百圓トナシ同十月八日再度開會シ本則ヲ修正ス

同十月十八日出席三十名市公債發行手續ヲ議ス第一次會ハ原案ニ決シ第二次會  
 ニテ本案ニ就キ更ニ委員ヲ置キ調査セント云フ助議ニ多數ヲ得テ議長ハ委員ヲ  
 指名シ議案ヲ修正ス第一條ヨリ第十二條迄ハ修正案ニ決シ第十三條但書區長ノ  
 上ニ町村長ヲ加フルノ說過半數ヲ占メ第十四條ヨリ第十六條マテハ異議ナク第  
 十七條水火災ニ罹リタル月ヨリ五箇月トアルヲ水火災ニ罹リタル旨ヲ届出タル  
 日ヨリ滿三箇月間ト改ムルノ說多數ヲ以テ決シ第十八條第二十條ハ異議ナク第  
 十九條第廿一條ノ五箇月トアルヲ總テ三箇月ニ改ムルトニ決シ第三次會ニハ第  
 二條ニ總額トアル總ノ字ヲ削除スルマテニテ各條第二次會決議ノ通ニ確定ス  
 工費收入豫算一覽表

課目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
産業基立	六,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	八六,三三三,三三三
府廳下渡	八,二二二,二二二	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一三,三三三,三三三	一六,三三三,三三三
國庫補助		五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇,〇〇〇
寄附								五,〇〇〇,〇〇〇
雜收入			六,九〇〇	二六,九〇〇	三三,三三三	三三,三三三	三三,三三三	一六,〇〇〇,〇〇〇
地價割			三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三三,三三三,三三三



課目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
戸數割			1,500,000	1,000,000	1,500,000			4,000,000
營業割			1,500,000	500,000	1,500,000			4,500,000
市費					1,000,000	1,000,000		2,000,000
市公債							1,000,000	1,000,000
合計	1,500,000	1,500,000	3,000,000	1,500,000	2,500,000	2,000,000	1,000,000	12,000,000

工費支出豫算一覽表

課目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
測量	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
土地買上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
工事	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
木材	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
煉瓦製造	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
器械	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
建築	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
雜給	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
雜費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000
合計	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	49,000,000

産業基金

準備金	合計
10,000,000	10,000,000
10,000,000	20,000,000
10,000,000	30,000,000
10,000,000	40,000,000
10,000,000	50,000,000
10,000,000	60,000,000
10,000,000	70,000,000
10,000,000	80,000,000
10,000,000	90,000,000
10,000,000	1,000,000,000

産業基金立

工費豫算額百貳拾五萬餘圓ノ内三拾九萬六千餘圓ハ全ク恩賜産業基金立金ヲ以テ之ニ充用シタルモノニシテ今左ニ其沿革ヲ掲ク

京都府

今般格別ノ御詮議ヲ以テ其府下人民産業基金立金トシテ五萬兩被渡下候間取計方行届候様御沙汰候事

太政官

當春 還幸御延ニ付テハ府下日々寂寥ノ光景ト相成諸民失産ノ者モ可有之ニ付産業成立基金トシテ五拾萬兩救窮御備米トシテ五拾萬石御下渡ノ儀願出候處金五萬兩御下渡相成尙益前ニ相成候ハ、更ニ金五萬兩御下渡可有之トノ事ニ付此節御渡可被下候事

京都府

庚午七月 申出之通大藏省へ相達置候事

此ノ拾萬圓ハ明治三年ヨリ同十三年ニ至ル間ハ京都府ニ於テ管理利殖セシカ同十四年一月ニ至リ之ヲ上下京區役所ニ移シ上下京聯合區會ノ評定ヲ以テ公債證

疏水要略 ○産業基金立金



書ヲ買得シ漸次利倍ノ法ヲ圖リシカ同廿二年ニ至テ左ノ金額ニ達セリ

一金拾萬圓 利 恩 賜 金

一金貳拾九萬六千九百七拾圓五拾錢三厘 殖 高

合計金三拾九萬六千九百七拾圓五拾錢三厘

内

金壹萬九千六百九拾九圓貳拾六錢

金八萬千三拾圓三錢

金拾三萬貳千六百五拾三圓拾貳錢六厘

金拾四萬九千四百七拾圓五拾壹錢三厘

金壹萬四千百拾七圓五拾七錢四厘

工費精算一覽表

科目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
寄附金	5,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	300,000
國庫下渡		50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	300,000
府廳下渡	8,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	60,000
産業基立	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	7,000
合計	14,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	600,000

工費收入精算一覽表

科目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
雜收入		10,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
地價割		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
戸數割		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
營業割		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
市費金		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
市公債		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
合計		100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	600,000

工費支出精算一覽表

科目	十七年度	十八年度	十九年度	二十年度	廿一年度	廿二年度	廿三年度	合計
測量	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	350,000
土地買上		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000
工事	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	210,000
木材		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
煉瓦製造		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000
器械	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	70,000
建築	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	350,000
合計	140,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000	1,000,000

雜水要誌 ○工費支出精算一覽表







第二種ニ編入致度此段御開置相成度及上申候也

明治十八年五月十四日

京都府知事北垣國道

書面上申ノ趣開置候事

明治十八年七月一日

滋賀縣知事北垣國道

用地名義

琵琶湖疏水用地ニ付上申

琵琶湖疏水用地ハ當府ニ於テ直ニ買上并其買上地ハ京都上下京區中持民有地第二種ニ編入スヘキ義ハ會テ經伺濟及上申濟ニ付テハ右買上ノ上直ニ區中持ニ下渡スヘキ筈ノ處買上方數度ニ涉ルモノ有之且地目ト雖モ目下水路ノ名義ヲ以テスルモ或ハ他日若干歩ノ通路ヲ設ケサルヘカラサルモノモ可有之到底買上ノ都度直ニ下渡候義ハ實際繁雜ヲ極メ候因テ該買上地若シクハ水路等ニ寄付ノ地ハ工事竣成迄官有地ニ据置右竣成ノ上現地目ヲ以テ上下京區中持ニ可下渡候條御開置相成度此段上申候也

明治廿年三月十日

京都府知事北垣國道

內務大臣伯喬山縣有朋殿

書面上申ノ趣開置候事

明治廿年三月廿三日

滋賀縣知事北垣國道

官有道路  
溝渠敷處  
分

庶第二〇六九號

琵琶湖疏水ノ爲メ官有道路溝渠敷ノ該水路ニ係ルモノ處分方ノ義別紙寫ノ通伺定候ニ付此段及御通牒候也

明治廿一年七月十九日

滋賀縣知事 中井 弘

京都府疏水事務所長

京都府書記官尾越蕃輔殿

庶第一八五五號

琵琶湖疏水用地之義伺

琵琶湖疏水ニ付官有道路溝渠敷ノ該水路ニ係ルモノアリテ已ニ京都府ニ於テ他ヘ之ニ代ルヘキ新道路溝渠ヲ築設シタルニ依リ右疏水路ニ係リタル官有地ハ無論無代價民有第二種運河敷ニ編入シ然ルヘクト相考候ヘトモ爲念此段相伺候也

明治廿一年六月廿一日

滋賀縣知事 中井 弘

內務大臣伯喬山縣有朋殿

伺之通

明治廿一年七月十日

內務大臣伯喬山縣有朋

土甲第三十二號

縣下大津三保崎湖面埋立ノ義ニ付本年二月疏第四號ヲ以テ御照會之趣了承本縣

大津三保  
崎埋立地

疏水要誌 ○土地



ニ於テ差支ノ筋無之ニ付直ニ内務大臣へ別紙之通及稟議候處未書之如ク指令有之候間委詳該書面ニテ御了知有之度此段及御通牒候也

明治十九年三月十一日

京都府知事北垣國道殿

滋賀縣知事 中井 弘

記寫第百九十七號

湖面埋立之義伺

近江國滋賀縣大津<sup>中保町</sup>地先字三保崎

一甲湖反別一町七反二畝二十四步四合六勺

但目的宅地理立竣功ノ上民有地第一種ニ編入スヘキ分

同上

一乙湖反別二反九畝六步四合八勺

但目的波止場埋立竣功ノ上民有地第二種ニ編入スヘキ分

同上

一丙湖反別一反二畝四步四合二勺

但同上

合反別二町一反三畝二十五步三合六勺

埋立期限許可ノ翌月ヨリ滿六ケ年間

右湖面今般京都府疏水工事ノ爲メ埋立追テ該功ノ上ハ何レモ上下京區ノ共有トシ前記但書ノ通地種編入ノ義同府ヨリ照會ニ依リ實地檢査ヲ遂ケ候處之ヲ埋立スルモ聊カ支障ノ筋無之尤乙丙二ヶ所ノ波止場ハ公衆ノ便ニ供スルモノニ付官有地第三種ニ據置ヘキ性質ノモノト存候得共右ハ甲埋立地ノ破壞及疏水路ニ土砂沈澱等ノ害ヲ避シ爲メ築造スル見込ノ旨ヲ以テ同府ヨリ特ニ照會ノ次第モ有之ニ付埋立竣功ノ上ハ前項但書ノ通地種編入致可然乎圖面添付此段相伺候也

滋賀縣令 中井弘代理

滋賀縣大書記官 河田景福

明治十九年二月廿三日

内務大臣 伯耆山縣有朋殿

追テ本文埋立地ノ義工事着手ノ都合モ有之至急ヲ要スル旨ニ付電報ヲ以テ御指合有之度京都府ノ求ニ依リ此段副申候也

書面伺ノ通聞届候事

但波止場ノ義ハ官有地第三種ニ組入候義ト心得ヘシ

明治十九年三月四日

内務大臣 伯耆山縣有朋

疏第四零七號

御縣下大津中保町地先ニ於テ丙號突堤築造ノ義客年二月疏第四號ヲ以テ御照會ニ及置候處同三月土甲第三十二號ヲ以テ御回答相成候得共該突堤ハ工事上ノ都



合ニ依リ之ヲ廢止シ更ニ別紙圖面(別紙圖面ハ卷三ニ掲グル)ノ通埋立致度尤モ埋立工事ハ凡ソニケ年間ニシテ成功後ハ宅地ニ使用候目的有之候條御差支無之ハ前例ニ依リ可然御取計相成度此段及御照會候也

京都府疏水事務所長

京都府書記官尾越蕃輔

明治廿年十一月五日

滋賀縣知事 中井弘殿

庶第二八七七號

縣下滋賀郡大津中保町地先湖面へ響ニ御計畫相成タル波止場一ヶ所ヲ廢シ更ニ埋立ノ義ニ付云々客月五日疏第四零七號ヲ以テ御照會ノ趣了承致候右ハ本縣ニ於テ何等支障ノ筋無之候得共同町造船營業人桑野磯治郎外一名ヨリ別紙ノ通申出事實無余義相考ラレ候間該願書及郡長上申書寫及御回移候條何分ノ御僉議相成度御答旁此段及照會候也

明治廿年十二月五日

京都府疏水事務所長

京都府書記官尾越蕃輔殿

追テ本文該湖岸地下埋立地トノ間ハ水淺ク加フルニ百百川ヨリ流出スル土砂塵芥等自然堆積ノ懸念モ有之候間可成堀ヲ深クシ塵芥土砂等ノ停滯セサル様

滋賀縣知事 中井弘

施工相成度此段添テ申進候也

庶第一一六五號

會テ御照會有之候大津中保町地先湖面埋立變更ノ義別紙寫ノ如ク内務大臣へ稟請候處即朱書ノ通開届指令有之候間此段及御通牒候也

明治廿一年四月十七日

京都府疏水事務所長

京都府書記官尾越蕃輔殿

庶第一〇三九號

湖面埋立變換之義ニ付伺

近江國滋賀郡大津中保町地先字三保崎

一湖面反別六反四畝壹步

但前途目的民有地第一種上下京區民共有宅地理立期限許可ノ月ヨリニケ年間右ハ京都府琵琶湖疏水工事ノ爲メ別紙圖面甲乙丙ノ湖中宅地ニ埋立及波止場築造ノ義十九年二月廿三日記第九十七號ヲ以テ經伺ノ上追々着手ノ處今回工事都合ニ依リ圖中丙印ノ波止場(反別一反二畝四步四合二寸)ヲ廢シ更ニ朱線埋立地ニ變換ノ義同府ヨリ照會ニ依リ實地檢査ヲ遂ケ候處之ヲ埋立スルモ他ニ支障ノ筋無之尤埋立竣功ノ上ハ但書ノ通地種編入致度圖面添付此段相伺候也



明治廿一年四月五日

滋賀縣知事 中井 弘

内務大臣 伯耆山縣有朋殿

追テ本文埋立地ノ義ハ工事都合モ有之候間至急御指令有之度旨京都府ノ求メニ依リ此段副申候也  
伺之趣聞届ク

明治廿一年四月十二日

内務大臣 伯耆山縣有朋

水力配置方法

本工程モ既ニ竣功近キニアルヲ以テ水力配置方法取調ノ必要ヲ認メ議會ハ之レカ費用ヲ議決ス明治廿一年八月十日疏水事務所ハ聯合區會議員ト協議シ洋行委員二名ノ内一名ハ田邊技師ニ内命アリシモ今一名區民中ヨリ撰出スヘキ候補者三名ヲ投票セシム開票ノ結果高木文平中村榮助内貴甚三郎ト撰定ス府知事ハ同年九月廿六日疏水事務委員高木文平ニ囑托スルニ米國保育水力配置方法實地取調委員ヲ以テス常務員ハ兩委員ニ托スル水力配置方法取調要件ヲ定ム同年同月八日高木委員ハ先ツ出發シ次テ田邊委員モ翌九日府知事ヨリ米國保育水力配置方法實地取調トシテ出張ヲ命セラレマレハ同日出發共ニ渡米シ爾來ホリヨクヲ始メローエル及アスベン等ヲ巡視シ明治廿二年一月三十一日歸京報告ス  
水力配置方法報告書

京都府四等技師 田邊朝郎  
疏水事務委員 高木文平

明治廿一年九月水力配置方法實地取調トシテ米國ホリヨク出張ヲ命セラレタリ要スルニ配置方宜シキヲ得テ水力ヲ冗費セス工事費及ヒ後年ノ修繕費ニ冗消少ナク工業上ニ使用シテ便利最モ多キヲ採リ用ユヘキノ命ナルヲ信シタリ之レカ調査報告ヲ爲スニ當リホリヨク而已ノ現況ヲ探ルモ他ニ見合セト爲スヘキモノナク只一場ノ例ニ因ル而已ニテハ得失ノ如何ヲ判スルニ由ナシ依テ巡視ヲホリヨク而已ニ止メスローエル及アスベン尙其他ヲモ經歷スルトトナシタリ抑米國中ニ於テ最モ水力ノ使用ニ巧ミナル最モ有名ナルハ右ホリヨク及ヒローエルノ二ヶ所トス而シテローエルハ米國水力使用ノ魁首ニシテ水利工師フランシス氏ノ計圖ニ成リ之ヲ模範トシテ次ニ起リタルモノハ則チホリヨクナリトス又コロラト州アスベンノ如キハ目下未ダ有名ナルニハアラスト雖モ其方法新規有益最モ採擇ニ供スヘキモノアリ今彼此ヲ參考摘要シテ其意見ヲ報告セントス  
然ルニ出發ノ際疏水事務所ヨリハ本問題即チ水力配置方法及ヒ之ニ付帶スル諸件又ハ必シモ本問題ニ付帶セサルモ今回經歷ノ序ニ調査ヲ望マル、條項等ヲ列記シ示サレタルモノナリシカ今ヤ爰ニ報告スルニ當リ其各條項中本問題



ナル水力配置方法ハ殊ニ重要ノモノニ付他ノ條項ニ關セズ別ニ之ヲ第一款トシ他ハ之ヲ第二款トシテ左ニ之ヲ陳セリ

第一款

甲

- 一 抑ローエル、ホリヨーク等ノ水力使用方法ハ其高低ヲ數段ニ仕切り水壓力ヲ直接ニ水車ニ受ケ使用スルモノニシテ其細況ハ別號記事ノ如シ今之ヲ我疏水工事水力使用上ニ採用セントスレハ左ノ關係ヲ來スヘシ
- 一 我疏水ノ水力チローエル、ホリヨークノ配置方ニ法リ分配セン乎先ツ鹿ヶ谷ヲ配水ノ起点トセサルヘカラス如何トナレハ蹴上ヨリ鹿ヶ谷村ニ至ルノ間ハ峻險ナル山腹ヲ迂回セサル可ラサルノミナラス名所舊跡ヲ以テ充滿スルカ故ニ水力ヲ配置スヘキ位置ナク不得止其間幾尺ノ高低ヲ失フニ至ルヘシ是レローエル、ホリヨークニ倣フハ鹿ヶ谷以北ニ於テセサルヲ得スト云フ所以ナリ
- 一 水車ハタービン(地下水車)ヲ用ヒサルヘカラス
- 一 百尺ノ水落差ハ四段ニ仕切り各凡二十五尺ノ落差ト爲サルヘカラス
- 一 但二十五尺四段落トスルヲ良トスルノ說ハフランシス民及ヒホリヨーク水力會社長ハアセル民及ヒ同所水車製造會社長フリング民外年來ノ實驗ニテ符合スル說ナリ

一 四段ニ仕切り各貳拾五尺ツ、ノ落差ヲ附ントスレハ水溜メ水道等ニ用ル地坪凡ソ三万坪ヲ買上ケサルヘカラス

但製造所ニ用ル地所ハ此外ナリ

一 人家ヲ移轉セサルヘカラス

一 川ヲ掘水筋ヲ附ルノ工費ナカルヘカラス

一 水吐キ水門水越場等各五ヶ所ノ工事費ナカルヘカラス

一 タービン水車凡百馬力ノモノ廿五個及ヒ緩急器其他一切ノ附屬具ヲ購入セサルヘカラス

水車据付場所ノ建家及据付費共ナカルヘカラス

右各項ノ費用ヲ略算スレハ豫メ金拾四万圓ニ及フヘシ

右ノ仕方ヲ以テ貳百五拾箇ノ水量ヲ用ヒ得ル所ノ馬力ヲ算出スレハ但蹴上ノダムニテ落差百十餘尺アリ

之ヲ鹿ヶ谷迄流落セシムルニ凡十餘尺ノ落差ヲ減スルヲ以テ全クノ落差百尺ヲ以テ略算ス二千五百馬力トナルナリ

右數項ノ諸費用金ヲ馬力二千五百ニ割當スレハ一馬力ニ付凡金五圓六拾錢ツ、

ノ工費ヲ要スルナリ

乙

一米國中ニ於テ未タ高名ナラサルモコロラト州アスペンノ水力配置方ニ依リベルトント號スル水車ヲ仕掛馬力ヲ電氣ニ移シテ工業ニ使用スル便利至極ノ方



法アリ但シ其未ヌ高名ナラサルハ實益經驗全ク整テ後未ヌ年ヲ重子サレハナ  
 一我水力ヲアスベシノ方法ニヨリ配置セシカ先ツ蹴上ノ運河ヲ起点トシテ甫メ  
 サルヘカラス  
 一起点ヨリ南禪寺下ノダム迄百十餘尺ノ落差ハ之ヲ仕切ラス一段落トシテ使用  
 セサルヘカラス  
 一起点ヨリダム迄凡經三十吋ノ鐵パイプ三條ヲ敷キ埋メ水道ヲ造ラサルヘカ  
 ス  
 一ベルトン水車凡百貳拾馬力餘ノモノ貳拾箇餘ヲ購入セサルヘカラス  
 一鐵パイプ敷埋メノ地所凡千坪及ヒ水車場建物ノ敷地凡三百坪ヲ購入セサルヘ  
 カラス  
 一水車場ノ家屋凡百坪内外ヲ建築セサルヘカラス  
 一パイプ及ヒ水車ノ据附費ナカルヘカラス  
 右各項ノ費額ヲ概算スレハ七萬五千圓トナルナリ  
 右ノ仕方ヲ以テ貳百五拾個ノ水量ヲ用ヒ得ル所ノ馬力ヲ算出スレハ貳千七百五  
 拾馬力トナルナリ  
 右數項ノ諸費用金ヲ馬力貳千七百五拾ニ割當スレハ一馬力ニ付凡金貳圓六拾錢

ツ、ノ工費ヲ要スルナリ  
 右甲乙二種ノ配置方ニ付費用ノ多少ヲ比例スレハ甲ノ方一馬力ニ付五圓六拾錢  
 トナリ乙ハ貳圓六拾錢ニテ豫メ費用半額餘ヲ減シ得ルナリ  
 一二種ノ水車中何レノ方保存久シキニ耐ルカト問フニベルトンノ方最モ堅固ニ  
 シテ修繕費少シ据付後廿餘年ヲ經テ未ヌ修繕ヲ要セサル適例アルナリ  
 一二種ノ水車中回轉ノ度ヲ定ムルニ於テ何レカ便利ナルヤト問ハベルトンノ方  
 最モ優レリダーピン附屬ノ緩急器アリト雖モベルトンノ緩急器ノ經便ニ及ハス  
 一甲水力ノ配置方ニヨリダーピン水車ヲ用ルルハ直ニ配置場ニ於テ馬力ヲ用ヒ  
 製造所ニ使用スルヲ得ヘシト雖モ乙水力ノ配置方ニヨリベルトン水車ヲ用ル  
 トセハ直ニ配置場ニ於テ馬力ヲ使用スルヲ能ハス電氣ダイナモ發電氣ニ移  
 シ他方ニ傳送シテ後使用スヘキナリ但シ經濟ノ点ニ付テ說明セサレハ損益瞭  
 然セサルヘシ左ニ一例ヲ舉ン  
 一製造者アリ甲種ノ馬力ヲ購求セシカ第一製造所ニ充ツヘキ地面ノ購求ヲ爲サ  
 ルヘカラス仮ニ百馬力ノ工場ヲ起サントスル者ハ少クモ壹萬坪ノ地所ヲ購  
 ハサルヘカラス此地代價一坪壹圓ト見積ルモ壹萬圓ヲ拂ハサルヘカラス況ン  
 ヤ地價ノ昇騰シテ一坪參圓五圓ノ高價ニ達スルアラハ地代ノ爲メニ創業ヲ妨  
 グル患ナキヲ保シ難カルヘシ然ラハ該地價昇騰ノ妨ヲ避ルヌメ馬力ヲ電氣ニ



移シテ以テ他所ニ引ンカ甲種タービン水車ニ利點ナク乙種ベルトン水車ノ方  
最モ長所アリ必ス乙種ヲ用ヘシ

一乙種ベルトン水車ノ力ヲ用ヒ之ヲダイナモトニ移シ京都市中平均二哩程ノ各  
所ニ送ルヤ此導線及ヒモーターニ至ルマテ三者ノ設置費ヲ合算シ一馬力ニ對  
シ何程ノ費用ヲ要シ馬力購求者ヨリ何程ノ出金爲サシメテ收支ヲ償ヒ得ルヘ  
キヤト云フニダイナモト導線モーター此三者ノ設置費ハ充分ニ見積リテ一馬  
力ニ對シ一百圓宛ヲ購求者ヨリ差入レサセナハ三者ノ設置費ニ充テ不足ナカ  
ルヘシ若シ又其一百圓ツ、ヲ差入ルコト能ハサルモノハ金額ニ相當スル利子  
ヲシテ馬力代ト共ニ拂ハシメ利子金ニ相當スル他借ノ金ヲ以テ三者ヲ施設ス  
ルモノノ便法ナルヘシ如斯甲種ニ於ケル土地買入費ノミト乙種ニ於ケルハ發  
動器迄悉皆ノ費用ト相對照シテ猶乙種ノ方廉ニシテ且困難少ナク況ンヤ甲種  
ヲ用ユレハ或ハ製造所ヲ移轉セサルヘカラス或ハ不適當ナル場所ニ置カサル  
ノ已ムヲ得サル事アルヘシ甲乙兩種ノ優劣是ニ於テ明白ナルモノナリ

一疏水末流ノ鴨川東岸ニ達スル所ヨリ以下伏見ニ達スル鴨川筋新運河中市中ニ  
於ケル開門六ヶ所ニ於テ得ラル可キ水力使用方ハベルトン水車ヲ用ユルニ便  
ナラスタービン水車ヲ適當トス但シ巡回中押掛腰掛天井掛等數多水車ノ種類  
ヲ見認メタレトモ何レモ回轉ノ度定マラス第一ベルトン第二タービン此二種ノ

外探ルヘキモノナシ此六箇開門ニ對シ一箇所ニ付二百幾十馬力ヲ得ルテ容易  
ナレトモ或ハ餘水ヲ鴨河ニ灌キ流水ヲ農家ニ利用セシムル等幾分ヲ放流スル  
モノトシ一開門ニ付二百馬力ト見積ルモ合數一千二百馬力トナルナリ此馬力  
ヲ直接ニ使用スルト電氣ニ移シイレクトリツクカ但シ電氣鐵道ヲ云フ及ヒ諸種ノ事業ニ  
使用スルニ便ナル配置方目的アリト雖モ位地未ダ定マラサレハ今ヨリ方案ヲ  
立ルニ由ナシ後報ニ讓ルナリ

一米國ニ於テ近來電氣力使用ノ驚クヘキ盛ナルト電氣ヲ使用シテ各種ノ工業  
ニ便利ヲ與フル景況ヲ略述センニ水火ノ力ヲダイナモトニ移シ之ヲ導線ニ移  
シ傳ヘ數哩ノ外ニ傳送シテモーターニ移シ此力ヲ諸種ノ工業ニ用ユルヤ從前  
ノ火力ニ優レルル箇條ハ枚舉ニ遑アラサレモ第一失火ノ恐レナク滾罐破裂ノ危  
險ナク煙煤ヲ散亂セス機械司火夫等ヲ用ユルニ及ハスモーターノ形チ小ナレ  
ハ機械室ヲ設クルニ及ハス且ツ修繕ノ費用少ナク馬力ヲ自由自在ニ細分スル  
ヲ得ヘク之ヲ我京都ノ諸工場ニ用ヒテ至便ナル例ヲ舉ケンニ大ナルハ諸會社  
等ノ製造所ヲ始メ最モ小ナルハ彼ノ西陣織業者ノ如キ糸繰者ノ如キ粟田清水  
ノ陶磁器車ノ如キ各印刷所ノ如キ鍛冶ノ如キ木具挽物者ノ如キ材木商ノ木挽  
ノ如キ何工業ニテモ其分限ニ應シ或ハ數馬力或ハ一馬力以下ト雖モ望ニ應シ  
自由自在ニ分チ送ルルヲ得ルナリ如此便利至極ノ使用方ニ研究ヲ盡シ試驗既



三終リタルハ千八百八十七年明治廿年ノ夏季以後ノ出來事ニシテ其効跡ヤ著シキモノナリ彼ノコロダ州アスペン年二十一ノ水力電氣使用ノ如キハ千八百八十八年治明春季ヨリノ出來事ナリ如斯米國ニ於テ電氣力利用ノ試驗ニ於テハ莫大ノ金ト時日ヲ費シタリ然シテ近來漸ク功ヲ奏シタルハニ當リ直ニ採テ之ヲ我疏水事業ニ利用スルヲ得ルヤ實ニ稀有ナル幸福ト云フヘシ尙電氣ヲ傳送スルニ當リ間斷使用ノ甲乙流用ニヨリ一度力ヲ減シテ復タ大ニ力ヲ増スノ例アレハ略シテ後報ニ讓ル

附リ電氣馬力ヲ賣出ス米國リンボストンニユーヨーク等各所ノ代價ハ一馬力一ケ年凡百五十弗ヲ定價トシ種類ニ應シ一割若クハ二割位ノ割引ヲ爲セリ

アスペン鐵山ニ於テハ一馬力一晝夜金一弗ヲ以テ賣出セリ一年三百六十弗トナル日本東京某會社ハ現ニ一馬力一ケ月十五圓即チ一ケ年間百八十圓ニテ賣出セリ我疏水ノ馬力彼此合シテ四千有餘ヲシテ仮ニ一馬力一ケ年百廿圓位ニ賣ルモノトスレハ殆ント五十萬圓ニ近キ歲入アルヘキ算當ナレハ元來百餘萬圓ノ金ヲ抛テ京都永遠ノ公益ヲ謀ラントノ精神ニ成立タルモノナレハ成ルヘク目前ノ小利ヲ棄テ廉價ヲ旨トシ賣渡サンコトヲ希望シナカラ只參考ノ爲メ各所ノ價格ヲ附記スルノミ

第二款

本款中一點書ノ分ハ事務所ヨリ示タル取調條項ニシテ一段下リノ分ハ報告意見ナリ

一水壓ヲ以直ニ水車ヲ使用シ或ハ電氣連鎖其他轉傳器ヲ用ユル等水力利用方法ノ種類

本問題ハ今回ノ調査第一ノ要件ニシテ水壓ヲ以直チニ水力ヲ使用スルト連鎖ヲ用ユルト水車力ヲ以テダイナモ(發電器)ニ移シ之レチモ(發電器)ニ傳ヘテ使用スルトハ工業ト場所トニ依リテ利不利一定ナラス最モ宜シク撰擇シテ適當ノ方法ニ就カサルヲ得ス則チ本件ノ調査ハ別ニ第一款ニ於テ之レヲ報告セリ

一我疏水工事分線路ニ適スヘキ分水口ノ構造方法

分水口ノ構造ハ大小數多ヲ目擊シタルモ幾百千箇多數ノ水量ヲ分ツモノニテ我カ分水口ノ如キ少ナルモノニ適用スヘキモノヲ見受テス但シ概テ器械力ヲ以テ樋門ノ扉ヲシテ開閉上下セシムルモノ多シ

一分水口ニテ水量又ハ水力ヲ計ル簡易ナル方法

概テ前答ノ如シ就中分水口ニテ水量水力等ヲ計ルハ頗ル至難ノ業ナリトフランシス氏語レルアリ水理定式ニハ少差ノナキモ實測ノ際外物ノ障害ニヨリ水量ニ差ヲ生スルノ甚シキハ驚クヘキモノナリト氏カ起工後四十年間



ローエル運河ノ水力ト水量試験ニ苦慮スルモ未ダ全ク曉通スルコト難シト委  
曲ハ同地ノ調書ニ載ス

一全上用ニ供スヘキ器具

前ニ全シ且各水力場ニ必ス備アルテレメトルト稱スルモノヲ用ヒテ湖水  
面上下スル尺寸ヲ直ニ京都ニ於テ觀測スルモノアリ尤モ使用ニ適當ス

一中央水力會社ヲ設ク之ニ對シテ水量又ハ水力ヲ賣渡スト各工業場へ直接ニ賣  
渡ストノ得失

中央水力會社ヲ設クルヲ不可トシ水及ヒ水力ヲシテ直ニ各工場へ賣渡チ最  
モ良法ト思考セリ例セハホリヨクノ如キモ其社利ノ多カラントチ謀ルノ  
ミ我疏水ノ目的タル永ク京都ノ繁榮ヲ希圖スル者ナレハ一社ニ委子一社ヲ  
利セシムルノ謂レナシ市役所中疏水係ノ一部ヲ置キ常事ハ此部ニ取扱ハシ  
メ重事ハ市會議員ニ謀リ永ク目的ヲ失セズシテ公益ヲ採ルコト最肝要ト思考  
セリ若シ假ニ水力會社ヲ設ク市役所市會議員ニ於テ關係シ不道理ノ利益ヲ  
貪ラシメサル者トスルカ或ハ該水力會社カ義氣ヲ張リ利ヲ薄クシテ轉賣ス  
ル者トスルモ一社ノ經費ナカルヘカラス然ラハ則チ二重ノ手數ト二重ノ經  
費ヲ要セサルヘカラス隨テ馬力代ニ増加チ來ヌスハ必然ナルヘシ是到底水  
力會社設立チ不可トスル所以也

一水量又ハ水力ヲ賣渡スニ付テノ契約方法及契約年限ノ長短

水量又ハ水力ヲ賣渡ノ契約方法ニ付適當ノ仕方ヲ見出サントシローエル、ホ  
リヨク等ノ水力會社ニ付取調タレ何レモ一定ノ規則ナシローエルハ製  
造數會社ノ聯合ヨリ成リホリヨク水力會社タル最初原野ニ均シキ地面ヲ  
買入レ然ル后堰留工事ヲ施テ水ヲ引キ重ニ地價ノ昇騰ヲ謀リ地ト水ト共ニ  
賣渡シタルアリ地賃料ニ水代ヲ含マセタルアリテ我疏水ニ適用スヘキ良法  
ナシ去リナカラ概子一馬力ヲ起スヘキ水力ヲシテ凡一箇年間百弗ヨリ五十  
弗位ニ相當セシムルノ見込ヲ以テ賣渡チ爲スト云フホリヨク水力會社長  
「ハアセル氏曰フアリ當社水力代ノ規則書トモ云ヘキモノ無ニアラサレ且三  
十年前ノ起草ニカ、リ不要ノ規則ナレハ當時之レヲ用ヒスト要スルニ其場  
所ノ石炭代價ヲ本トシ石炭ヲ以馬力ヲ起ス代價ヨリ一割若クハ二割方ノ安  
價ニテ馬力ヲ得ラル、チ以水力ノ正當代價トスルモノ、如シ  
想フニ我疏水ノ水ヲ賣或ハ水力ヲ賣ルニ當リ價ヲ算出スルハ石炭ノ時價ニ  
因リ幾割ノ安價ニ賣渡ノ外ナカルヘシ  
又賣渡年限ノ長短ハ今ヨリ一定シ難カルヘシ聊カ考案アレハ口頭ニ述ント  
ス

一水量又ハ水力ノ一個又ハ一馬力ノ代價



各地水力代價ハ別紙ニ記載スル如シ然レモ前ニ述ヘタルカ如キヲ以テ之ヲ十分ノ參考ニ供スルヲ能ハサル可シ

一 水力又ハ水量代價ハ其地ノ石炭代價及ヒ人力代價ヲ比較トシテ算出セシカ又ハ他ニ適當ノ方法アルヤ

第一款中ニ述ヘタルカ如シ尤需用者ノ業態ニ對スル適不適ニ依リ之ヲ酌量スルノ事情アリ則チ其適否ハ此馬力代價定ムル重モナル參考件ナル可シ

一 該地ニ於ケル勞力ノ賃金

米國職工者ノ賃金ハ概テ一日一弗ヨリ二弗半位迄テ通常トス我國ノ賃金ニ比シテ案外高金ノ如キ感アルナレモ稼時間ノ長キト勉勵ノ極マルトニ比シテ左ノミ高カラス委細口述ニ讓ル

一 水力ヲ使用スルニ適スル諸工業ノ種類

水力ヲ使用シテ工業ニ適否アリシハ近來迄ノトニシテ畢竟回轉ノ度數定カナラサリシ故ナリ然レモ近時緩急器ノ完全ナルモノ發明製造セラレシヨリ回轉ノ度ヲ揃ルニ到リ今ニシテハ殆ト適セサル工業ハナキニ到レリト

一 運河通船稅若クハ運輸荷物稅額及其稅額ハ荷物ノ容量ニ依ルカ又ハ重量ニ依ルカ或ハ荷物ノ種類ニ依ルカノ別

運河通船稅額ハモリスカナルニ適例ナシ

但シ運河モ運河船モ共ニ會社ノ所有ナレハナリ

品種ノ貴賤ニヨリ一噸一哩ニ付一仙ヨリ三仙迄ノ運賃ト定メ收入シ船數凡三百ヲ常用セリ但シ二艘ヲ合セ一艘ト呼ビ七十噸ヲ積ム也船荷一年參拾萬噸一ケ年ノ上リ高六拾萬弗一ケ年ノ雜費修費等九萬三千弗ヲ支出スルト云フ此收支チ差引シテ殘ル五拾萬弗余チ會社ノ收入利潤トスルナレハ船稅ヲ定ムルニ適スヘキ例ナシ我疏水運河ノ如キモ區民所有ノ舟ニスルヤ將他人ノ舟ニスルヤ之レカ問題ヲ起シ定メテ後他人ノ舟ヲ通スルトセハ地方ノ狀況ニ就テ稅ヲ定ムルノ外ナシト思考セリ

附リ運河舟ハ在來ノ日本形ヲ止メ米國ホトマクカナルモリスカナル等ニ用ル形ニ造リ使用スル方最モ便利ト思考セリ就中運河舟チ伏見ニ止メ淀川チ通シテ大阪ニ達セシムルヲ得ハ途中荷物積換ノ勞ト費トチハフ最モ便利ナルヘシト雖モ米國運河舟形ニ造リ之ヲ淀川ニ浮メ上下ズルヲ得ヘキヤ否ハ試驗濟ニアラサレハ保シカヌシ假ニ見本一艘ヲ造リ運河成就迄ノ間ニ試驗ヲ經ヌキモノ也該舟形ハ口述ス

一 運河船ハ本稅ノ外間接稅ヲ賦課セラル、事アリヤ

前項ノ如ク運河ハ運河會社ノ所有ナルヲ以テ我庭園ノ泉水ニ浮メル舟ノ如ク因テ直接間接ニ船稅ヲ賦課セラルヲナシ之レモリスカナルノ現況ナリ我疏水運河ノ如キモ區民所有ノ舟ニ限ルカ將他人ノ舟チモ通セシムルカ此

疏水要略 ○水力配置方法



二點ノ決スル上ニチイテ收税ノ方法ヲ定ムルハ地方ノ狀況ニ就テ算出スヘキ乎

一運河岸上砂防工事及砂防植木種類參考ノ件

一堤防ニ植ユヘキ植モノ、種類

砂防工事砂防植物等種類等ハ殊ニ目新ラシキモノヲ見受ケス堤防ニ植ユヘキ植物ノ種類等是亦目新ラシキ仕方ヲ見受ケス都テ米國ハ我國ト異リ地積ノ廣大ナルニ隨ヒ市街繁華ノ地ヲ除クノ外自ラ地ヲ愛スルヲ冷淡ニシテ我國人ノ寸地ヲモ愛惜スル如キ念慮ナク斯ク狀況ノ異ナルヨリシテ我ニ適用スヘキ仕方ヲ見サルナリ

一開門鐵橋工事ニ關スル新規有益ナル參考ノ件

開門ノ仕方ニチイテハ四十年來ノ實驗ヲ經テ改造ニ改造ヲ加エタルモノ數多ニシテ其進歩驚クヘキモノ而已巡視中間室ノ高サ最モ多キモノハ二十八尺ニ達シ以下十尺内外ノモノハ員エカダシ且仕方ノ簡便ニシテ實用ヲ專ラトスル点ニ於テハ枚舉ニ追アラス木鐵橋モ亦之ニ同シ尤モ愛ニ述ヘサル處ノモノアリコレ木材ノ防腐即ハチ昇赤ヲ用ユルカヤナイジンゾノ方法ニシテローエルニ於テフランシス氏カ四十餘年前ニ建築セシ木橋ノ如キ未ダ腐敗ノ徵アルト少シ其他二十餘年前ニ設ケタル防腐ヲ施シタルモノト施サ、

ルモノトノ試驗木片對照ノ如キ其効力一々ナリ明白ナリ別紙ニ述フル處ノモノ、如シ

一隧道内舟引方法ノ參考件

隧道内舟引方法ニ適當ナル參考件ヲ見サリシカ電氣作用調査上ヨリ電機ヲ以テ舟ヲ行ルヘキノ一考アリ口頭ヲ以テ之ヲ述ン

一湖水ヲ飲料水ニ引致スル參考件

飲料水ニ就テハニユーヨウクボストンチカヨ其外小邑ノ引致方等所々ニ於テ湖水ヲ引用セルモノチ一見セリト雖モ其規模宏大ニシテ我入用上ニ適用スヘキモノナシ其要領ハ口頭ニ述ントス

一インクライン上部器械運轉ニ水壓力ヲ用ヒタル實驗及ヒ他ニ新規便方ノ工法如何

インクラインノ舟運ニハ我事務所既定ノ計畫ノ如ク水力ヲ用ルヲ常トセリ就中實驗上最便利ナルハモチリスインクラインノ工法是ナリ然レモ此詳細ハ仕形ヲ以テセサレハ盡シ難キヲ以テ更ニ其摸形ヲ以テ説明スヘシ

一大津開門分流口ニ設置スヘキ水車種類參考件

大津開門等ハ用ヘカラス所々ニテ實見セシモ從前計畫ノ如ク鐵製腰懸車ヲ用ルヲ適當トス



一前項ノ水車ハ何等ノ工業ニ利用スヘキヤノ實例

實見上ニテ參考スルモ從前ノ見込ノ如ク此水力ノ馬力ハ一定ヲササルカ故ニ或ハ之ヲ以テ工場ニ供スルモ時々湖水ノ水面高低ノ差ニヨツテ變化スルモ防ケサルノ處ニ使用セシム可シ

一地下水車使用上實際ノ利否

地下水車即チタービンハ價貴ク据付費多ク且地勢ニヨツテ用ヒ難シ委細ハ第一款中ニ陳スルヲ以テ爰ニ略ス

一田地灌溉ノ實例アレハ其水量一個ニ付テノ稅額及ヒ其算出方法及ヒ水一個ヲ若干ノ面積ニ對シテ與フルヤノ比例

米國ニハ水田少ナク參考トスヘキ適例ヲ見ルト能ハス

一大津埋立地利用ノ參考件

荷置場及ヒ運河舟々造所等用ルノ外別段ナル見込ナシ米國ニテ運河舟ノ修繕ヲ爲スニ一種簡便ナル船渠アラ水中心ヨリ陸上ヘ木鐵ノレール二條ヲ布キ舟ヲ横ニナシテ引上クル簡略ナルスリツアアリ是等ハ埋立地ノ一隅ニ設ケ置運河船ノミヲ限ラス湖水ニ用ルトコロノ小船修覆等ニ用ヒ可然乎此輕便船渠仕方ハ口頭ニ述ン

一市街地改正ノ參考件

市街地改正ノ參考件ニ付テハニューヨークボストンワシントンチカゴヒラデリヒヤチ始トシ小市大邑到ル處市區ノ劃方ニ注目スルニ凡米國今日ノ繁盛ヲ計ラサル以前ニ區割シタル町小路ハ狹隘且不规则千方ナルモノニテ見本トナルニタラス近來ニ到リ區割スルモノハ町巾廣ク區割正シク所謂縱橫直角基盤形ノ如シ我京都ノ如ク千有餘年前ニ當リ今日開明國ニ專ラ行フ處ノ基盤形ニ劃區シタルハ賞賛スルモ餘アリ且京都ノ町巾廣カラスト雖モ改正ヲ施サスシテ足ルヘキモノ少ナカラス該改正スヘキ場所ト雖モ車道八間以下六間迄人道ハ各左右一間半宛ヲ越ヘカラス我京都若今日ノニューヨーク今日ノボストン今日ノチカゴ今日ノサンフランシスコ等ニ比適スルノ繁盛ニ到リ家ハ五層七層ニ改造シ人口五倍七倍シ荷物行人隨テ五倍七倍ニ増進スルモ前記ノ町巾ニテ不足ナルヘシ況ンヤ彼ノ市ノ如キ繁盛ヲ見ルヘキ地勢ニアラサルヲヤ附リ町名番地ノ劃方ニチイテ適例アレト之レ亦口述ニ譲ルヘシ

一鴨川高瀬川改修ニ參考スヘキ工法  
此項ニ付テハ最モ注目怠ラス以テ得タルモノハ簡便ナル適切ノ工事ナリ概テ其計畫ノ定ルヲ俟テ更ニ別段ノ目論見ヲ立報告セントス

一市區内并ニ東山公園設置參考件



東山ハ天然ノ公園ナレハ遊歩ノ便チ施ス位ニテ事足ルヘシ公園ノ必用ナル  
 ハ市中最も繁熱ノ地ニアリ米國都府ノ如キ五丁或ハ八丁ヲ隔テ必ス公園ア  
 リ該公園ナキハ繁忙市民數日青草ヲ見ル丁能ハス衛生上欠クヘカテサル  
 ノ必用チ感スルナリ我京都ノ如キ之レト異ル狀況アレハ日チ同フシテ語ル  
 ヘカテス後世ノヲメ後世ヲ察シ今ヨリ豫メ目的ヲ定メ置ク丁又必用ナキニ  
 アラス之レカ計畫ヲ爲サントナレハ市人各數町ヲ歩メハ公園ニ達シ得ラル  
 ヲチ旨トシ東山公園ノ外ニ譬ハ十萬坪ノ公園一ヶ所アランヨリハ一萬坪ト  
 シタル小公園十ヶ所トシ所々ニ散在セシムルモノ最モ良トシ委細口述ニ讓  
 ル

一市内家屋改良參考件

家屋ノ改正ハ商工業ノ度ニ應スルモノト信スニユーヨク市中五層七層ノ  
 石屋軒ヲ接スルブロードエー町ノ北部ニチイテ木造平屋ノ破レ粗屋アルチ  
 見受ケ之レチ恠ミ傍人ニ質セハ之レ三十年前ノニユーヨクノ家ナリト甚  
 感シ入タリキ之レニ依テ考フレハ土地ニ原野平屋二階建三階五階七階ト各  
 該時代アルヘシ我京都今日ノ木造二階造リチシテ五階七階ノ石造ニ改造ス  
 ルモノハ他チ商工業盛大ニ赴キ人殖ニ業増シ地面ノ狹キチ感ズルノ幸チ  
 得ハ導カスシテ家屋ノ改正出來得ヘシ今日ノ民度ニ比シテ希望スル所ハ專

ラ衛生火防上ノ注意ニ在リトス

一堀川改修沿岸工業場設置ノ利害ニ關スル參考件

本件ニ付テハ經歷中ニ於テ諸處ヲ參考スルニ直接ニ參考件トシテ報道スヘ  
 キモノナシト雖モ飲料水チ改良シテ井水チ吞マサルモノトスレハ堀川改修  
 ハ直ニ爲スニ及ハサレハ市民井水チ以テ飲料トナス限リハ堀川小川西洞院  
 川等適宜ノ改修チ施シ腐水ノ井水ニ混入セシメサル防キナカルヘカテス疏  
 水ト飲料水改良トハ相連帶スルモノ、如キ感ナキニ非サレハ疏水チ運河ニ  
 專用スレハ通航ノ爲メ水濁リテ飲料トナラス若之レチ飲料ニ供セントナレ  
 ハ通航ノ利チ棄テサルヘカテス又使用ノ水力チ減セサルヘカテス之ニ因テ  
 堀川改修ノ丁ハ後ニ讓リ工業場設置ノ利害ニ付テ述ブニ堀川兩岸ニ工業場  
 チ設クルハ成シ得ラルヘキ事業ナレハ疏水ノ末流チ引キ水力チ用ヒントス  
 ルハ小川頭ニ達スルマテニハ大ニ水ノ落差チ失ヒ甚ク敷損亡ナルヘシ多  
 クノ工費チ出シ大切ナル水力ノ落差チ失フハ策ノ得タルモノニアラス尺寸  
 下雖モ落差多キ場所ニ於テ水力チ使用スル丁肝要ノ点ナレハ無論疏水ノ水  
 力チ以テ同川筋工業場チ設置スルハ不利ノ丁ト思考セリ

一水運ト滾車運搬トノ競争ノ情況及ヒ其貨物ノ種類並ニ賃金比較

水運ト滾車トニ就テハ米國ニチイテモ一時甚ク敷競争ニ到リシ例少ナカラ



サリシヨシ然レ田運河ノ瀛車ニ及ハサルハ只早ク達スル此一点ノミニ其  
 他ハ都テ水運ノ方ニ勝アルナリト云フ實ニ格言ナルヘシ米國運河舟ハ我高  
 瀬淀川舟ノ如キトマ屋根又ハ屋根ナクシテ雨浪ノ爲メニ荷物ヲヌラシ又ハ  
 戸アリナクシテ失セ荷欠損アルヲ常トスル如キ不完全ノ船ニアラス細カニ  
 注意シテ取扱フキハ彼ノ早達ニ勝ツヘキ道理少ナカラス米國ノ如キ鐵路布  
 設ノ行届ケル有名ノ國ニチイテ今尙運河ノ利用盛ナルヲ以テ知ルヘシ  
 附リ大津ニ一ヶ所京都ニ二ヶ所伏見ニ一ヶ所荷積荷卸場ノ構造ニ意見アリ  
 口述ニ讓ラン

右報告ニヨリテ直接ニ水力ヲ使用スルヨリハ之レヲ電氣ニ換ヘ使用スルノ便利  
 ナルヲ發見セシヲ以テ之レヲ採用スルヲニ決セリ然レトモ本事業ヲ市ノ事業ト  
 シテ着手スルヤ又ハ電燈會社等ニ特約シテ該工事及電氣ノ販賣方モ共ニ負托セ  
 シムルヤニ就テ屢協議スル所アリシモ終ニ同年十二月十二日ノ會合ニ於テ本市  
 ノ事業トスルヲニ確定シ其ヨリ工事ヲ起シ其設備全ク整ヒ以テ今日ノ盛況ヲ見  
 ルニ至レリ

竣功式

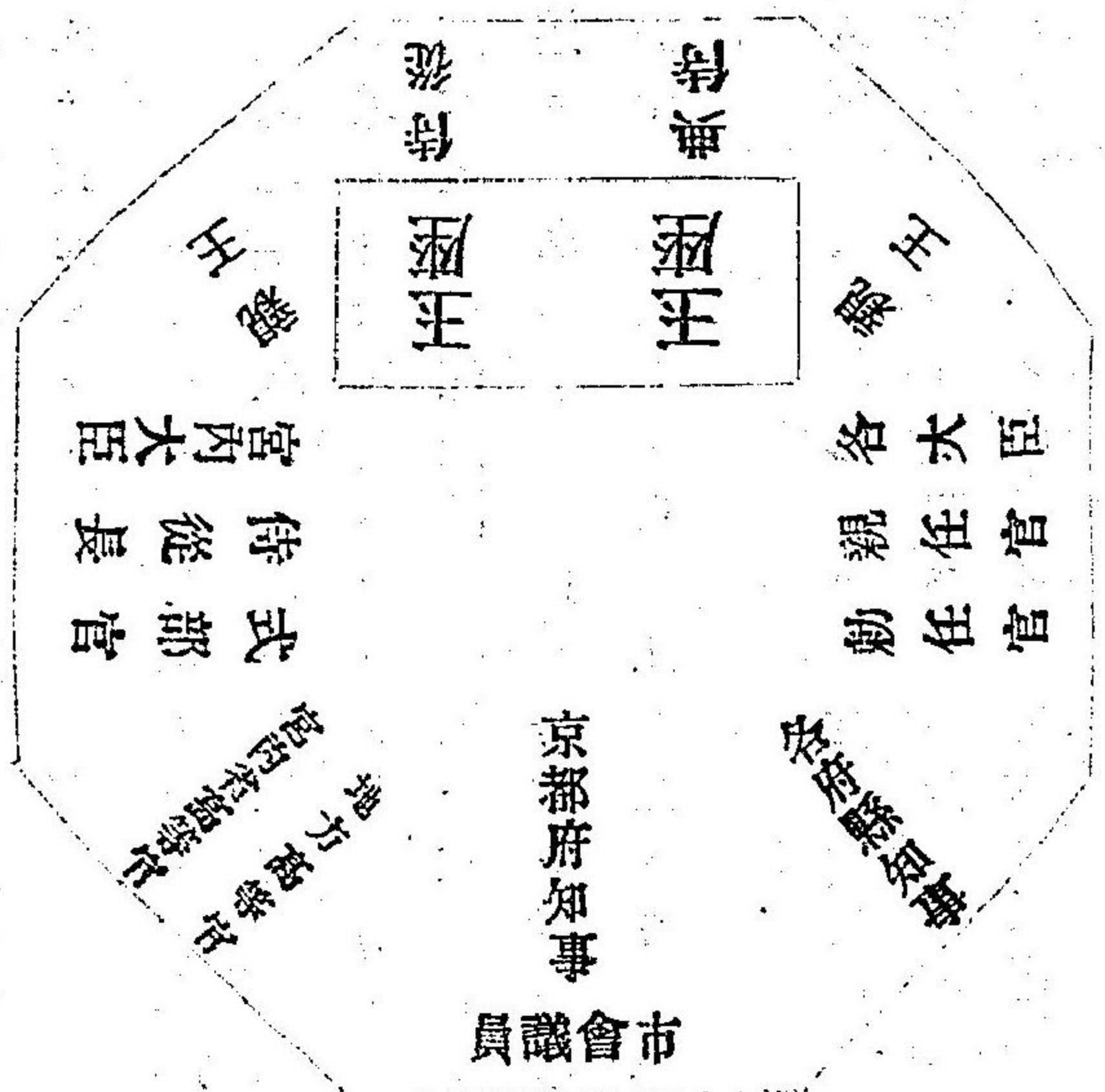
廿三年四月七日府知事ハ  
 天皇陛下

皇后宮陛下ノ疏水竣功式ニ臨御ヲ仰キ奉ラントスルヲ以テ本日堀川侍從北條侍  
 從長崎宮内大臣秘書官中井滋賀縣知事ヲ導キ線路檢分ノ爲メ三保崎ヨリ乗船シ  
 テ三條蹴上ニ至ル同九日午前十時  
 天皇陛下京都皇居ヲ御出門德大寺侍從長ノ御陪乘ニテ三條街道ヲ東ヘ向ケ御發  
 轡同十一時三十分滋賀縣廳ヘ着御アラセラレ  
 皇后宮陛下ニハ高倉典侍ノ御陪乘ニテ正午御出門午後一時三十分滋賀縣下京都  
 築地ニ着御同所ニ設ケノ玉座ニテ御休憩アラセラル、内  
 天皇陛下ハ一時四十分滋賀縣廳御發轡京都築地ニ着御アラセラル築地ノ入口ニ  
 ハ大國旗二竿ヲ樹テ第二築地ニ於テ烟火ヲ打揚ク  
 兩陛下齊シク玉坐ニ着セラレ湖山ノ勝況御覽ノ間ニ府知事ハ疏水地圖ヲ 天覽  
 ニ供シ奉リ次テ御發轡大津開門ヲ御覽 此時所負チシテ開門ノ開  
 閉舟ノ上下ヲナサシム 親シク府知事ニ御下問ア  
 リ知事謹テ奉答セリ而シテ  
 天皇陛下ニハ熾仁親王殿下ヲ  
 皇后宮陛下ニハ彰仁親王殿下ヲ疏水線路ノ御代覽ニ立サセラレ猶米田北條兩侍  
 從ニ隨行ヲ命セラレ線路ノ實況熟視スヘキ旨仰出サレ山縣總理大臣西郷海軍大  
 臣松方大藏大臣榎本文部大臣ノ供奉ヲ免シ隨意疏水線路巡視ノ儀ヲ差許サセラ  
 レタリ因テ兩宮殿下及四大臣兩侍從ハ零時三十分滋賀縣廳ヲ發シ三保崎京都築

疏水要誌 ○竣功式



地ニ赴カレ北國橋南詰ナル乗船場ヨリ兩宮殿下兩侍從ハ御召船ニ四大臣ハ御換船ニ乗船舟中樂ヲ奏シ尾越疏水事務所長御先導ニテ第一隧道ヨリ漸次運河ニ沿ヒ蹴上ニ向ハレタリ午後三時二十分  
 兩陛下ノ蹴上ニ着御アラセラル。ヤ烟火ヲ打揚ク此時 御代覽ノ兩宮殿下及ヒ各大臣ノ一行モ亦同時ニ蹴上ニ達セラル  
 兩陛下ハインクラインノ東手ニ設ケアル御小息所ニ暫時入御換電水力水車ノ一般ヲ御覽ニ供シ而シテ兩宮殿下各大臣ニ再ヒ供奉仰付ラレ三時四十分三條通ヲインクライン西手新道路ニ夫ヨリ又北へ疏水線路ノ南岸道路ヲ聖護院町舟溜同所開門中島へ架設ノ新橋ヲ通御アラセラル御小息所前ニ暫時御馬車ヲ立サセラレ暫ク工事ノ景況ヲ御覽アラセラルタリ此時祝砲ニ代ヘテ百一發ノ烟火ヲ打揚ケ又廣道通り及ヒ川端通ニ線門各一基ヲ設ケ此他國旗吹拔及ヒ球燈數千ヲ挂ケタリ且此沿道兩側ニハ府下各學校生徒行列シ各手ニ聖壽萬歲寶祚無窮ノ小旗ヲ執リ敬禮ヲ行ヒ君カ代ノ唱歌ヲ奏セリ  
 兩陛下御休憩ノ後府知事御先導ニテ式場ニ臨御アラセラル南面ニ重臺上ノ玉座ニ着御アラセラル此時樂隊樂ヲ奏ス



座定テ樂隊樂ヲ撤ス府知事中央ニ進ミ市參事會市會議員其後ニ從ヒ整列禮拜シ府知事謹テ左ノ奏上文ヲ捧讀シ工事成績表ヲ上ル  
 臣國道誠惶誠恐頓首頓首謹テ奏ス臣伏テ惟ルニ  
 陛下即位以來精ヲ勵シ治ヲ圖リ百廢具モニ舉リ物ヲ開キ務ヲ成シ庶績咸ナ熙



ナル而シテ 聖性慈仁尤モ軫念ヲ民瘼ニ垂レ兢々業々惟々一夫モ其所ヲ得サ  
ラシトテ恐ル一視ノ仁四海隔テナシト雖モ天澤ノ加フル所蓋シ近キヨリ先  
ス況キ千有餘年 列聖ノ舊都ニ於ルチヤ曩ニハ車駕ノ東遷シタマヒヨリ茲  
ノ京都ノ狀ヌル形勝舊ノ如シト雖モ事勢不イニ變シ土地凋弊民物衰頹徒ニ平  
安京ノ名ヲ存シ復タ輦轂ノ下ノ實ナシ大ニ民産ヲ蕃殖スルニ非サルヨリハ闔  
京將サニ生理ヲ喪失セントス

陛下ソノ然ルチ恤レミ嘗テ内帑鉅萬金ヲ 恩賜シ以テ殖産興業ノ基本ニ充テ  
シメタモフ其深仁厚澤孰レカ感戴體認之ヲ利用スルノ道ヲ精思セサルヘケン  
ヤ是ヲ以テ臣職ヲ府知事ニ奉スルノ初メ首トシテ殖興ノ策ヲ講シ利用ノ道ヲ  
思ヒ始メテ湖水疏導城江通漕ノ一案ヲ立テシニ幸ニ人民異議ナク廟堂之レチ  
認可セラレ遂ニ 欽准ヲ蒙リ且ツ特旨ヲ以テ年々國庫ノ補助ヲ 恩給シタマ  
フ是ニ於テ去十八年八月チ以テ工チ起シ役ヲ興シ夙夜董督今ヤ則チ竣功ヲ告  
ルニ際シ

陛下方サニ六師ノ大閱ニ事アツテ元戎啓行既ニ陸海軍ノ對抗チ 統監シ尋テ  
本地ニ 巡幸シタマフニ遭遇ス臣等遙カニ旌旆ノ盛容ヲ想望シ又近ク鐘壺ノ  
嘉會ヲ得乃チ本日チトシ恭シク 鸞輿ヲ工場ニ導迎シ以テ通水開漕ノ式ヲ舉  
行ス夫レ工事ノ鉅大此クノ如ク經費ノ浩繁此クノ如キチ以テ未タ數年チ出ス

シテ既ニ其成ヲ今日ニ樂ムチ得ルコト誠ニ

陛下舊都ヲ顧念スルノ切ニ居民チ軫恤スルノ深キニ由ルニ非スハ復タ何チ  
以テカ茲ニ至ラン 天恩廣大萬分チ圖リ難シト雖モ冀クハ將來マスマス恤民  
ノ 聖旨ヲ奉體シ疏水ノ利用ヲ増進シ産業ヲ闔府ニ興殖シ凋衰ヲ盛時ニ挽回  
シ果シテ平安京ノ實アラシメハ是レ聊カ

陛下從來ノ深仁厚澤ニ對答シ奉ツルニ足ランカ抑モ臣 又伏テ惟ミルニ  
陛下久シク武ヲ偃セ文ヲ修ムト雖トモ然レトモ又安ニ居テ危チ慮カリ治ニ居  
テ亂チ忘レヌ將サニ兵力ヲ無事ノ日ニ奮張シ國威ヲ溥海ノ外ニ宣揚シタマハ  
ントス即チ前日大閱ノ盛舉亦以テ 聖慮深遠ノ一端ヲ窺フニ足レリ願フニ強  
兵ノ基源固ヨリ富國ニ在ツテ食チ足スコト尤モ兵チ足スノ先務タルトキハ則  
チ臣マスマス殖産興業ノ一日モ忽カニスヘカラスシテ水利ノ事業亦頗ル富強  
ニ關係アルチ見ル

陛下尙武ノ夙旨モ亦蓋茲ニ外ナラサルチ知ル此レ又臣區々ノ志日夜汲々トシ  
テ此ノ工事ニ奮銳スル所以ナリ若シ夫レ工事ノ綱要物料ノ統計ハ録シテ別表  
ニ在リ 天覽チ賜ハ、幸甚臣國道誠惶誠恐頓首頓首謹奏ス

明治二十三年四月九日

京都府知事從四位勳三等北垣國道



別表

琵琶湖疏水工事成蹟

一 幹線水路 延長六千七百七間七厘

近江國大津三保崎湖岸ヨリ山城國京都市鴨川東岸ニ至ル

築地 二

京都築地ト稱ス幹線第一首位ニ在リ大津運河開鑿及ヒ第一隧道掘鑿  
土石ヲ以テ之ヲ築ク

甲 長百二間 幅三十間

乙 長九十間 幅二十間

運河 延長四百二間四分四厘

湖岸ヨリ第一隧道東口洞門ニ至ル

閘門及堰門 各一

右ノ運河中ニ設クル所暴漲ヲ禦キ水量ヲ整フルモノ

架橋 三

右ノ運河ニ架スル所曰三保崎曰北國曰鹿關

第一隧道 長千三百四十間

大津三井寺山下ヨリ滋賀郡藤尾村ニ至ル

井狀坑 二

其一ハ第一隧道西口洞門ヲ距ルコト九百三十二間六分四厘深百五  
尺五寸

其二ハ第一隧道西口洞門ヲ距ルコト百六十五間深六十九尺二寸

運河 延長二千二百七十三間一分四厘

第一隧道西口洞門ヨリ第二隧道東口洞門ニ至ル

舟溜 三

一ハ四宮村一ハ諸羽一ハ上野村ニ在リ

架橋 六

曰藤尾曰十禪寺曰毘沙門堂曰安祥寺曰妙應寺曰封山

水路橋 一

宇治郡安米川ニ架ス長十間

第二隧道 長六十八間五分

宇治郡御陵村ニ在リ

運河 延長百四十五間二分

第二隧道西口洞門ヨリ第三隧道東口洞門ニ至ル

舟溜 一



御陵村ニ在リ

第三隧道 長四百六十七間

宇治郡日岡村山下ニ在リ

運河 延長九十二間二分九厘

第三隧道西口洞門ヨリインクラインニ至ル

インクライン 長三百二十間

日岡ヨリ南禪寺町ニ至ル鐵軌四條ヲ布設シ舟ヲ上下ス

運河 延長九百九十八間五分

南禪寺町舟溜ヨリ鴨川東岸ニ至ル

舟溜 三

一ハ日岡一ハ南禪寺町一ハ聖護院町ニ在リ

開門及堰門 各一

聖護院町ニ在リ

架橋 六

一ハ日向神社道一ハ南禪寺町一ハ廣道一ハ二條一ハ聖護院町一ハ川

端通リニ在リ

一枝線水路 延長四千六百十五間一分九厘

宇治郡日岡村ヨリ京都市南禪寺鹿ヶ谷吉田ノ各町愛宕郡田中下鴨ノ二村  
ヲ經テ京都市小川頭ニ至リ堀川ニ合ヌ

枝線水路 延長十間

幹枝分岐ノ所ヨリ第四隧道洞門ニ至ル

第四隧道 長七十五間

大日山下ニ在リ

枝線水路 延長百七十六間四分二厘

第四隧道北口洞門ヨリ南禪寺中水路閣ニ至ル

水路閣 長五十一間二分五厘

南禪寺中ニ在リ

枝線水路 延長三十六間七分

水路閣ヨリ第五隧道南口洞門ニ至ル

第五隧道 長五十六間

南禪寺山下ニ在リ

枝線水路 延長七十一間三分七厘

第五隧道北口洞門ヨリ第六隧道南口洞門ニ至ル

水溜 一



第六隧道南口ニ在リ

第六隧道 長百間

若王寺山下ニ在リ

枝線水路 延長四千三十八間四分五厘

第六隧道北口洞門ヨリ京都市小川頭ニ至ル

水溜 二

一ハ若王寺ニ一ハ田中村ニ在リ

架橋及繩路 各十餘箇所

右枝線水路中ニ在リ

伏繩 二

高野加茂河川底ヲ過クルモノ

一 水理經畫

幹線之部

水量 一秒時間 三百立方尺

速度 一秒時間 三尺ヨリ四尺

水面

運河 十九尺ヨリ六十尺

隧道

十六尺

水深

運河

五尺

隧道

六尺

勾配

湖岸ヨリインクライン上マテ二千分一ヨリ三千分一

インクライン 十五分ノ一

インクライン下ヨリ鴨河迄水平

枝線之部

水量

一秒時間 五十立方尺

速度

一秒時間 一尺九寸ヨリ十尺マテ

勾配

百分一ヨリ二千五百分一迄

工費

金百拾九萬九千八百八拾六圓六拾八錢八厘

内 譯

金壹萬四千六百四拾三圓五拾壹錢九厘

金九萬三千四百拾七圓九拾六錢貳厘

總

額

測量費  
土地買上費



金八拾四萬五千百壹圓七拾四錢壹厘	工 事 費
金三萬貳千五百八拾八圓六拾八錢貳厘	木 材 費
金拾貳萬七千五百七拾三圓三拾七錢貳厘	煉 瓦 製 造 費
金貳萬六千六百拾圓五拾貳錢六厘	器 械 費
金貳萬三千六百拾六圓三拾貳錢四厘	建 築 費
金壹萬五千五百拾圓九拾錢三厘	雜 給 費
金壹萬貳千三百三拾三圓六拾五錢九厘	雜 費
金貳萬九千五百圓	準 備 金
右十七年度ヨリ廿三年度迄決議額	

人 夫	四百萬人
土 地 買 上	八十町六反步
掘 鑿 土 石	十二萬五千立坪
築 立 土 積	四萬五千立坪
使 用 物 料	
煉 瓦	千四百五十萬個
木 材	五百萬才
石 材	二萬六千平坪

火 藥	七千貫目
電 管	二十八萬發
導 火	五十七萬尺
粘 土	六千立坪
セメント	二萬五千樽
輕便鐵道	十哩
蒸氣罐	七個
石 炭	五百五十萬斤

附記 明治十四年以降京都大津間ノ測量及水路ノ撰定ニ着手シ同十六年勸業  
 諮問會ヲ開キ起功ノ可否ヲ諮問シ又工費ノ支辦法ヲ上下京聯合區會ニ付議セ  
 シニ孰モ全會一致ノ賛成ヲ得同十八年一月初功ノ特許ヲ蒙リ同六月初功式ヲ  
 行ヒ六箇年ヲ期シテ成功ノ目的ト爲シ同八月始メテ工事ニ着手セシモ爾來四  
 年八箇月ヲ閱シテ竣功ス奏シ了テ左ノ勅語アリ

勅 語

疏水ノ工事竣ルヲ告グ吏民協戮ノ功洵ニ嘉ス可シ從來我國美術工藝ノ盛ナル此  
 土ヲ最トス自今此水利ニ籍テ以テ人工ヲ資ク倍々精良ヲ加ヘ他日ノ殷富ヲ期セ  
 ヲ



明治廿三年四月九日

式了テ樂隊奏樂

兩陛下ハ府知事ノ御先導ニテ暫時御休憩ニ就カセラレ直ニ御乘車中島西手ノ新橋ニ向ハセラル、ノ際府會議員及都下ノ故老高齡ノ者二十一名ニ拜禮ヲ許サレ川端橋北詰ヲ北へ丸太町ヲ西へ堺町御門ヲ北へ建禮御門ヨリ還幸アラセラレヌリ此日 鳳輦拜觀ノ爲メ府下及近府縣人民通御ノ路傍ニ填塞充滿其ノ數萬ヲ以テ數フヘキ景況ナリシ

賞與式

同日午後五時式場内ニ於テ賞與式ヲ舉ク北垣府知事正面ニ着席シ市參事會員市會議員ハ左列シ疏水事務所員ハ右列ス樂隊奏樂座定テ撤ス尾越事務所長ハ長官ノ前ニ進ミ祝文ヲ朗讀ス

夫レ物産ヲ轉輸シ土地ヲ富饒ニスルハ古來未ダ嘗テ河渠ノ利漕運ノ便ニ賴ラズンハアラス然ルニ京都ノ地勢タル襟山帶水風氣清淑極メテ上國樂邦ヌリト雖モ獨リ此ノ利便ニ於テ從來闕如ノ憾ナカラス況ンヤ世運開明海外交通商法工業日一日ヨリ競争ノ今日ニ在リテテチャ豈故態ニ因襲シ新策ヲ求メヌ袖手徒觀スヘキノ秋ナランヤ閣下夙ク茲ニ見ル所アリ明治十四年二月就任ノ始メ即チ琵琶湖水脈疏通ノ案ヲ立テラレ爾來測量調査皆其精密ヲ極メ利アツテ害ナ

ク事必行スヘキヲ以テ同十六年十一月乃チ之ヲ勸業諮問會ト聯合區會トニ付議セシニ兩會俱ニ本案ヲ可決シ起工ヲ協贊ス民情既ニ團結スルコト此ノ如キヲ以テ閣下乃チ具サニ主務省ニ建議稟請シ往復數回十八年二月ニ至テ始メテ其允許ヲ得タリ此レ疏水計畫ノ一定シ其事務ノ發端スル所ナリ抑モ本工百般ノ事務ハ元ト京都市民ノ負擔ニ屬スヘキノ計畫ナリト雖モ絶大ノ工業至難ノ事務之ヲ統領經紀スルモノナカルヘカヲサルヲ以テ特ニ內務大臣ノ允許ヲ經テ閣下直チニ其責任ニ當リ府員ニ分任シテ之ニ從事セシメントシ其年三月疏水掛リテ府廳内ニ置キ職務規定ヲ定メ其六月遂ニ起工式ヲ舉ケ尋テ八月始メテ工事ヲ起興シ爾來其工場ノ開進ニ隨ヒ事務所ヲ藤尾村ニ小關ニ大津ニ山科ニ蹴上ニ分置シ其物料ノ需用ニ隨ヒ木材ノ蒐集所煉瓦ノ製造場ヲ便地ニ開設シ百方經營夙夜董督シ今ヤ則チ庶役竣成湖水疏通ノ功ヲ見ルニ至レリ從事ノ吏員等大凡一百五十八名使役ノ人夫大凡四百萬人ニシテ其各件ノ費消ヲ通計概算スルトキハ都テ金壹百拾九萬九千八百八拾六圓ナリ而シテ工事成功ノ期ニ至テハ當初ハ滿六年ノ目的ナリシモ閣下ノ督勵職員ノ協贊從事吏員技手ノ勤勉ニ由テ終始全ク滿四年八箇月ヲ以テ告竣セリ嗚呼絶大ノ工業至難ノ事務ニシテ雷ニ其竣期ヲ愆マササルノミナラス且ツ一歲餘ニ先ンシテ成功シ加之メノ成功ニ際シ恰モ 車駕ノ西巡ニ遭遇シ本日乃チ 鳳輦ヲ奉迎シ以テ疏水ノ